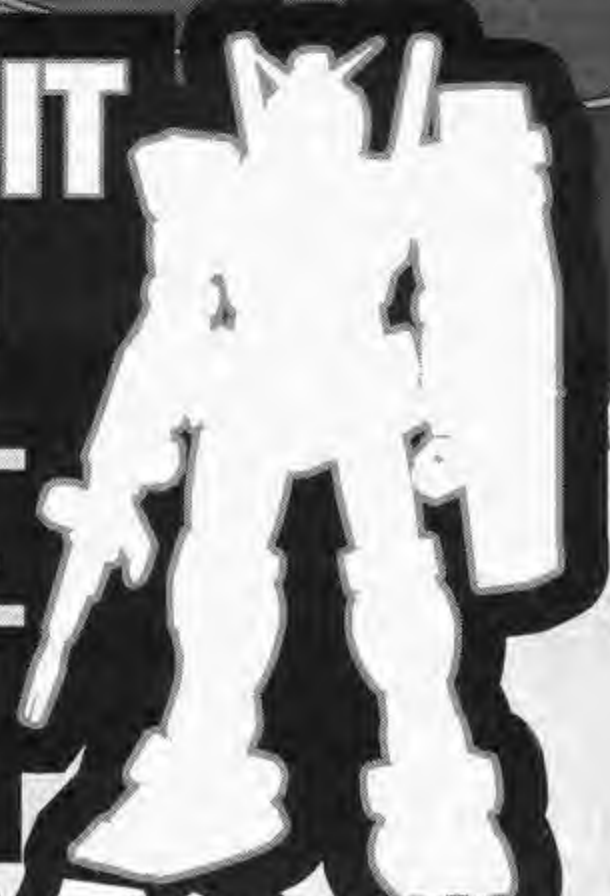


# ガンダム 解体新書 一年戦争編

MOBILE SUIT  
GUNDAM

いちねんせんそうへん



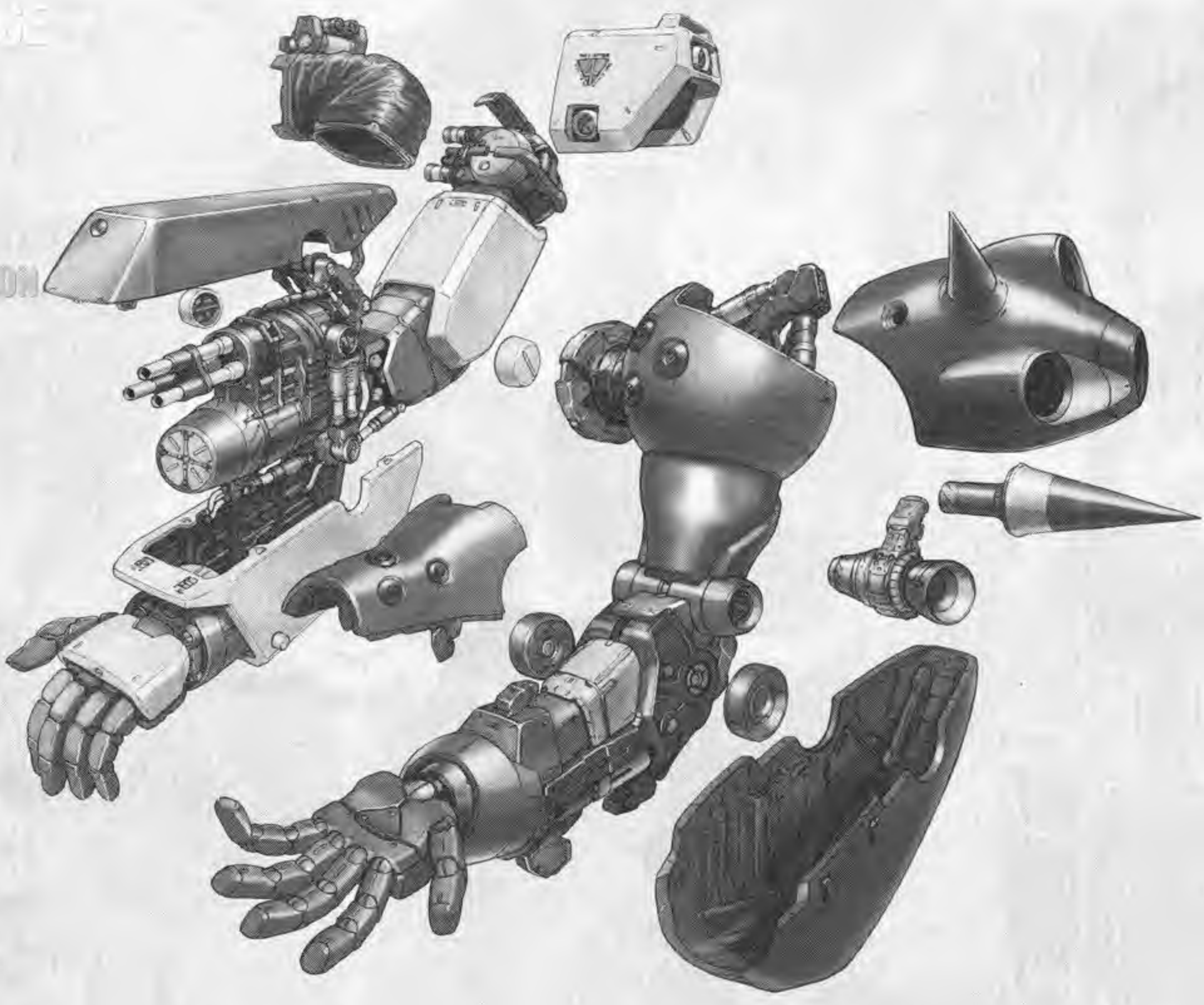


✠ E.F.SPACE FORCE

- MS-78-2 GUNDAM
- MS-77 Z GUNDAM
- MS-75 GUNDAM
- MSM-79 GM
- MS-79F GALL
- MSM-79 WHITE GALE
- MS-79D GUNDAM
- RX-78GP-1 GALE

✠ PRINCIPALITY OF ZEON

- MS-06F ZAKU II
- MS-07B GOUF
- MS-09 DOM
- MSM-03 GOGG
- MSM-07S Z/GOK
- MSM-04 AGGUY
- MS-14A FELHOGG
- YMS-15 EVAN
- MSN-02 ZEDONG
- MS-18E KÄMPFER







MOBILE SUIT  
GUNDAM

ガンダム  
解体新書  
一年戦争編

いちねんせんそうへん

※本書で使用しているモビルスーツなどのイラストは、バンダイ製ガンブラをもとに、編集部独自で描きおこし、または着色したものです。



ガンダム MOBILE SUIT GUNDAM  
解体新書  
一年戦争編

CONTENTS

MS 歴史を変えた戦闘兵器	5
MS基礎用語	6
地球連邦	7
FILE 001 RX-78-2 ガンダム	8
FILE 002 RX-77-2 ガンキャノン	16
FILE 003 RX-75 ガンタンク	24
FILE 004 RGM-79 ジム	30
FILE 005 RB-79K ボール	34
FILE 006 SCV-70 ホワイトベース	38
FILE 007 RX-79[G] 陸戦型ガンダム	42
FILE 008 RX-78 NT-1 アレックス	50
地球連邦MS開発経緯	56
ジオン公国編	57
FILE 009 MS-06F ザクⅡ	58
FILE 010 MS-07B グフ	64
FILE 011 MS-09 ドム	70
FILE 012 MSM-03 ゴッグ	76
FILE 013 MSM-07S スゴック	80
FILE 014 MSM-04 アッガイ	86
FILE 015 MS-14A ゲルググ	90
FILE 016 YMS-15 ギャン	96
FILE 017 MSN-02 ジオング	100
FILE 018 MS-18E ケン普法ー	108
ジオン公国MS開発経緯	112





# MOBILE モビルスーツ SUIT

## 歴史を変えた戦闘兵器

技術の革新によって誕生した究極の人型兵器は、電子戦という近代的な戦術を過去の遺物とし、新たな戦争の形を生んだ。

従来の兵器を無力化する新物質の発見

MSを語るうえで欠かすことができないのが、ミノフスキー粒子の存在である。

0070年にジオン公国で存在が公表されたこの粒子は、電磁波の伝達を阻害する特性を持っている。これにより、レーダーや無線装置を使用していた電子戦兵器の運用は、ミノフスキー粒子散布下において事実上不可能となることが立証された。



そこで電磁波伝達に頼らない、有視界戦闘を主体とする兵器の研究、開発が行われることになり誕生したのが、戦術汎用宇宙機器=Mobile S.U.I.T (Space Utility Instruments Tactical)、通称MSと呼ばれる人型兵器である。着々と開発を進めていたジオン公国は初期量産型MSの開発に成功、MS戦という新たな戦術を武器に地球連邦への宣戦布告を行った。開戦当初、国力で勝る地球連邦に対してジオン公国が圧倒的優勢で戦闘を展開できたことが、MSという兵器の存在がいかに戦力強化に繋がるかを実証した形となった。

この戦いを受け、地球連邦もMSの開発・量産に着手。RXシリーズの誕生により、人類史上初となるMS同士の戦闘が繰り広げられることになったのである。



求められし新たな戦術と新たな兵器



# MS 基礎用語

モビルスーツ

ここでは、MSを解析するうえで欠かすことができない基礎用語を紹介。これを読めば、MSへの理解が深まるはずだ。

## A MBAC

【あんばっく】

能動的質量移動による自動姿勢制御=Active Mass Balance Auto Controlの略称。主機の推進剤を使わずに、稼動肢の運動で姿勢制御するというもので、人間がよろけたときに手足を動かしてバランスをとるのと同様のシステムだ。

## アクチュエーター

【あくちゅえーたー】

運動を引き起こすための駆動源となる装置の総称。代表的なものは、地球連邦製MSの各関節部に内蔵されたモーター類だ。ちなみにジオン公国は、流体パルス・システムと呼ばれる独自の駆動システムを各機体に採用している。

## アポジ・モーター

【あぽじ・もーたー】

姿勢制御用のバーニアで、MSや宇宙艦などに装備されている。一般的には人工衛星を静止衛星軌道に乗せるために使用するロケットエンジンのことを指し、ガンダム世界で言う姿勢制御バーニアとは異なるものなので注意が必要。

## 一年戦争

【いちねんせんそう】

宇宙世紀0079年1月3日、ジオン公国は地球連邦に対し宣戦を布告。開戦直後はジオン公国が優勢であったが、地球連邦が開発したRX-78-2の活躍もあり徐々に攻守が逆転。12月31日のア・バオア・クー攻防戦で地球連邦が勝利し、幕が下りた。

▶RX-78-2は撃破されたものの地球連邦は決戦を制した。



## ジェネレーター

【じえねれーたー】

MSの発電機にあたる装置で、四肢の駆動に膨大なエネルギーを必要とするため高出力のものが求められた。ジェネレーターの開発が遅れていたジオン公国は、電力消費が激しいビーム兵器の搭載の点で地球連邦に遅れをとった。

## ジオン公国

【じおんこうこく】

ジオン・ズム・ダイクンは宇宙移民の自立を実現すべく、地球からの独立宣言とともにジオン共和国を建国。対話による地球側との和解を求めた。しかし彼の死後、事態は一変。ザビ家による独裁体制とともに公国制へと移行した。

▶ジオン公国へ移行し、宣戦布告という強攻策に出た。



## スラスター

【すらすたー】

機体を推進するためのメイン・ロケットエンジン。MSの場合は基本的に背部に搭載され、背負う形のもはバックパックとも呼ばれる。熱核ロケットエンジンや熱核水流ジェットエンジンなど、様式はMSによって異なる。

## 地球連邦

【ちきゅうれんぽう】

地球上の多数の国家によって構成されている複合国家。増えすぎた人口対策のために、スペースコロニーを植民地として移住計画を実施した。宇宙艦などの軍用戦力は整っていたものの、MSに関してはジオン公国よりも遅れて開発することに。

▶RX-78-2は試験的運用の一端として実戦で使用された。



## ニュータイプ

【にゅーたいぷ】

宇宙での生活に適応するために、進化の過程で特化した思考力や認識力を持った人間。相手の意思や感情を認識する洞察力、予知能力が優れている者を指す。ジオン公国ではフラナガン機関においていち早く研究が行われていた。

## ビーム兵器

【びーむへいき】

MSが携帯、もしくは搭載しているビーム兵器は、ミノフスキー粒子を圧縮し放出しているメガ粒子砲である。エネルギーの変換効率が高く、当時のレーザー砲の4倍以上の威力を持つうえ、地磁気などの影響を受けにくい利点も。

## プロペラント・タンク

【ぷろぺらんと・たんく】

推進剤用に追加装備される燃料タンク。機体サイズに限界があるMSは、巨大なタンクを搭載できないため行動範囲に制限が生じる。そのため、より長距離、長時間の運用を目的とする場合、追加装備として搭載されることがある。

## マニピュレーター

【まにびゅれーたー】

人間の手にあたる部分で、各種接触センサーなどを搭載し細かな作業も行えるようになっている。戦争初期に開発されたものと後期のものを比べても大差がないことを考えると、早い段階で完璧なものが完成していたといえる。

## ミノフスキー粒子

【みのふすきーりゅうし】

ある帯域の電磁波の伝播を阻害する性質を持つ粒子。ミノフスキー粒子散布下においてはレーダーや無線装置などが使用できないため、有視界戦が主流となる。この粒子の発見により、さまざまな技術が革命的な発展を遂げた。

## モノアイ

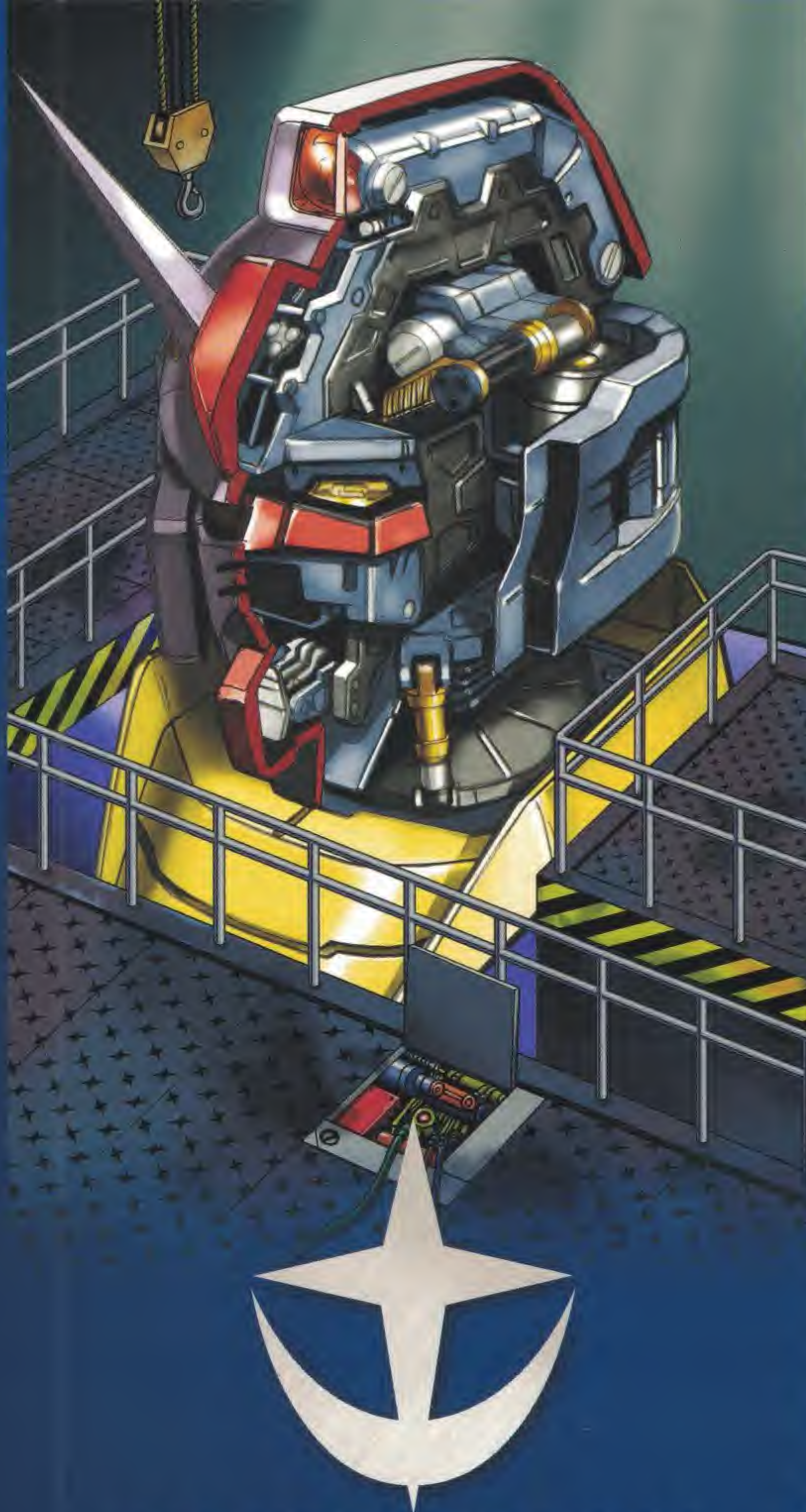
【ものあい】

ジオン公国の多くのMSに採用されている主光学端末。単に映像を映し出すカメラアイとしてだけでなく、複合的なセンサーとしても機能している。また、レーザーセンサーの機能を援用して、レーザー通信が行える端末も存在する。

▶ジオン公国製MSのシンボリックな存在であるモノアイ。







## E.F.SPACE FORCE

ジオン公国よりも遅れて開発に着手したこともあり、  
地球連邦製MSの種類は決して多くはない。しかし、M  
Sを実戦配備してからの戦局の変化を見れば、個々の機  
体が優れた性能を持っていたことに疑う余地はない。

# 地球連邦編

ちきゅうれんぽうへん



# いち ねん せん そう たたか め 一年戦争を戦い抜いた さい きょう モビル スーツ 最強のMS

地球連邦の初期のMSでありながらも機体の完成度は非常に高く、多大な戦果を挙げた英雄機。コア・ブロック・システムの採用や、ビーム兵器の携帯など、独自の技術が盛り込まれ、ジオン公国のMSとは一線を画す存在となった。

## SPEC DATA

所属：地球連邦  
頭頂高：18.0m 本体重量：43.4t  
ジェネレーター出力：1380kW  
スラスター推力：5万5500kg

## アールエックス かい かく RX計画によって開発された ち きゅう れん ぼう けつ さく き 地球連邦の傑作機

一年戦争開戦前、地球連邦も「RX計画」と呼ばれるMS開発計画をスタートさせた。当初は研究段階に過ぎなかったが、開戦後、劣勢となった戦局の挽回のために発動された「V作戦」により、RX-78-2を始めとする試作機、量産機の開発が本格化した。

## PILOT パイロット アムロ・レイ

地球連邦が誇るエースパイロットで、一年戦争を代表するニュータイプひとり。もとは民間人であったが、偶然搭乗したRX-78-2での戦果が認められ、正式なパイロットとなる。



アール エックス  
**RX-78-2**  
E.F.SPACE FORCE  
**GUNDAM**

—ガンダム—





# 一年戦争を戦い抜いた最強のMS

地球連邦の初期のMSでありながらも機体の完成度は非常に高く、多大な戦果を挙げた英雄機。コア・ブロック・システムの採用や、ビーム兵器の携帯など、独自の技術が盛り込まれ、ジオン公国のMSとは一線を画す存在となった。

## SPEC DATA

所属：地球連邦  
頭頂高：18.0m 本体重量：43.4t  
ジェネレーター出力：1380kW  
スラスター推力：5万5500kg

## RX計画によって開発された地球連邦の傑作機

一年戦争開戦前、地球連邦も「RX計画」と呼ばれるMS開発計画をスタートさせた。当初は研究段階に過ぎなかったが、開戦後、劣勢となった戦局の挽回のために発動された「V作戦」により、RX-78-2を始めとする試作機、量産機の開発が本格化した。

## PILOT アムロ・レイ

地球連邦が誇るエースパイロットで、一年戦争を代表するニュータイプひとり。もとは民間人であったが、偶然搭乘したRX-78-2での戦果が認められ、正式なパイロットとなる。



アール エックス  
**RX-78-2**  
E.E. SPACE FORCE  
**GUNDAM**  
—ガンダム—



## BODY MODULE

■ボディモジュール



## ビーム・サーベル

刃の部分がミノフスキー粒子で構成されており、サーベル状のものから槍状のものへ切り替えが可能。接近戦用の武器で、超硬スチール合金装甲の敵機を一振りして切断するほど高い威力を持つ。エネルギーは掌部を通じて、随時機体本体から供給される仕組みだ。

## セミ・モノコック・システム

装甲はすべて分割されたパネルで構成されている。これは被弾時などにユニットを丸ごと交換せず、破損パネルの交換だけで修復が行えるという利点がある。同時に内部機器へアクセスがしやすいため、メンテナンス時間を大幅に短縮することが可能だ。

## ルナ・チタニウム合金

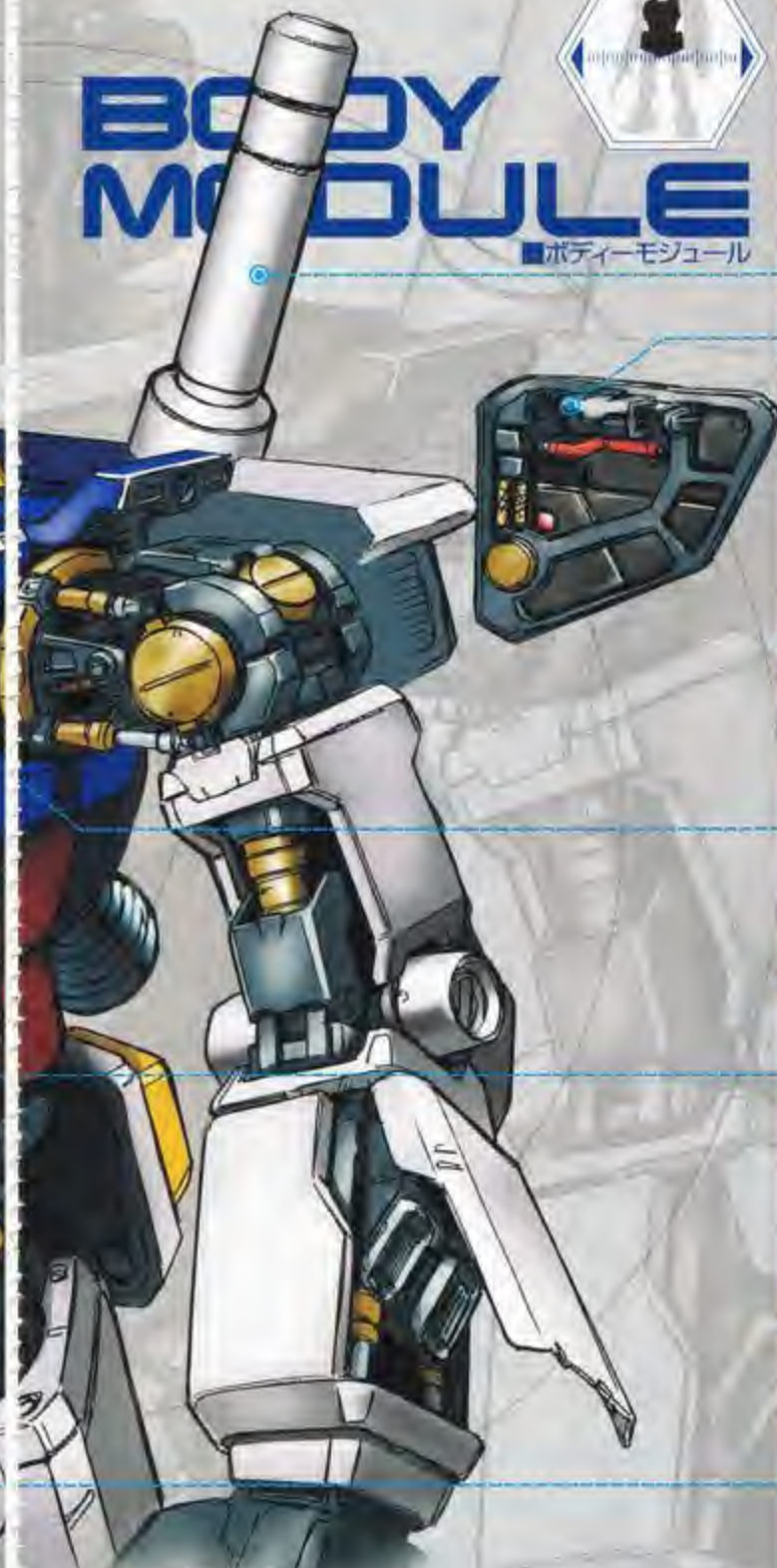
装甲には、ルナシーで産出するチタン系のレアメタルをベースとした特殊合金を採用。軽量で高剛性、高膨張性を持っており、戦闘中に幾度も直撃を受けても大破を逃れたのは、この装甲があったからといえる。コストが高いため、量産機への採用は見送られた。

## コア・ブロック・システム

コックピット部が上半身と下半身のモジュールから分離し、小型戦闘機として単独で活動できるシステム。機体が大破して戦闘不能になった場合でも、戦闘データを持ち帰ることができるように考案された。もちろん、貴重なデータを敵に奪われないためでもある。

## 冷却用ガス

大気圏突入時に、機体の温度を一定に保つために使用する。これにより、それまでは不可能とされていたMS単独での大気圏突入を実現。ちなみに無駄な熱の発生を防ぐため、各種電力の消費を最小限に抑え、稼働部分をロックした状態で突入することになる。







# BODY MODULE

■ボディーモジュール

## ビーム・サーベル

刃の部分<sup>は</sup>がミノフスキー粒子<sup>は</sup>で構成<sup>て</sup>されており、サーベル<sup>は</sup>状<sup>の</sup>のものから槍<sup>の</sup>状<sup>の</sup>のものへ切り替えが可能。接近戦用の武器で、超硬スチール合金<sup>は</sup>装甲<sup>の</sup>の敵機を一振りで切断するほど高い威力を持つ。エネルギーは掌部を通じて、随時機体本体から供給される仕組みだ。

## セミ・モノコック・システム

装甲はすべて分割されたパネルで構成されている。これは被弾時などにユニットを丸ごと交換せず、破損パネルの交換だけで修復が行えるという利点がある。同時に内部機器へアクセスがしやすいため、メンテナンス時間を大幅に短縮することが可能だ。

## ルナ・チタニウム合金

装甲には、ルナシーで産出するチタン系のレアメタルをベースとした特殊合金を採用。軽量で高剛性、高膨張性を持っており、戦闘中に幾度か直撃を受けても大破を逃れたのは、この装甲があったからといえる。コストが高いため、量産機への採用は見送られた。

## コア・ブロック・システム

コクピット部が上半身と下半身のモジュールから分離し、小型戦闘機として単独で活動できるシステム。機体が大破して戦闘不能になった場合でも、戦闘データを持ち帰ることができるように考案された。もちろん、貴重なデータを敵に奪われないためでもある。

## 冷却用ガス

大気圏突入時に、機体の温度を一定に保つために使用する。これにより、それまでは不可能とされていたMS単独での大気圏突入を実現。ちなみに無駄な熱の発生を防ぐため、各種電力の消費を最小限に抑え、稼動部分をロックした状態で突入することになる。



## メイン・カメラ

メイン・カメラは人間の目にあたる部分ではなく、頭頂部に内蔵されている。機体のもっとも高い位置に設置されることで、より正確な情報を得られるのである。また、センサーを内蔵したリア・カメラが後頭部に設置されており、後方の敵機も瞬時に察知可能だ。

## 60mmバルカン砲ユニット

近接戦闘における牽制用として活用する機関砲。MSを撃墜するほどの威力はないが、ピンポイントで攻撃を当てることで戦闘不能に陥らせることは可能であった。初めてのザクとの戦闘時にすぐに弾切れを起こしたことからもわかるように、装填数は多くはない。

## 各種センサー類

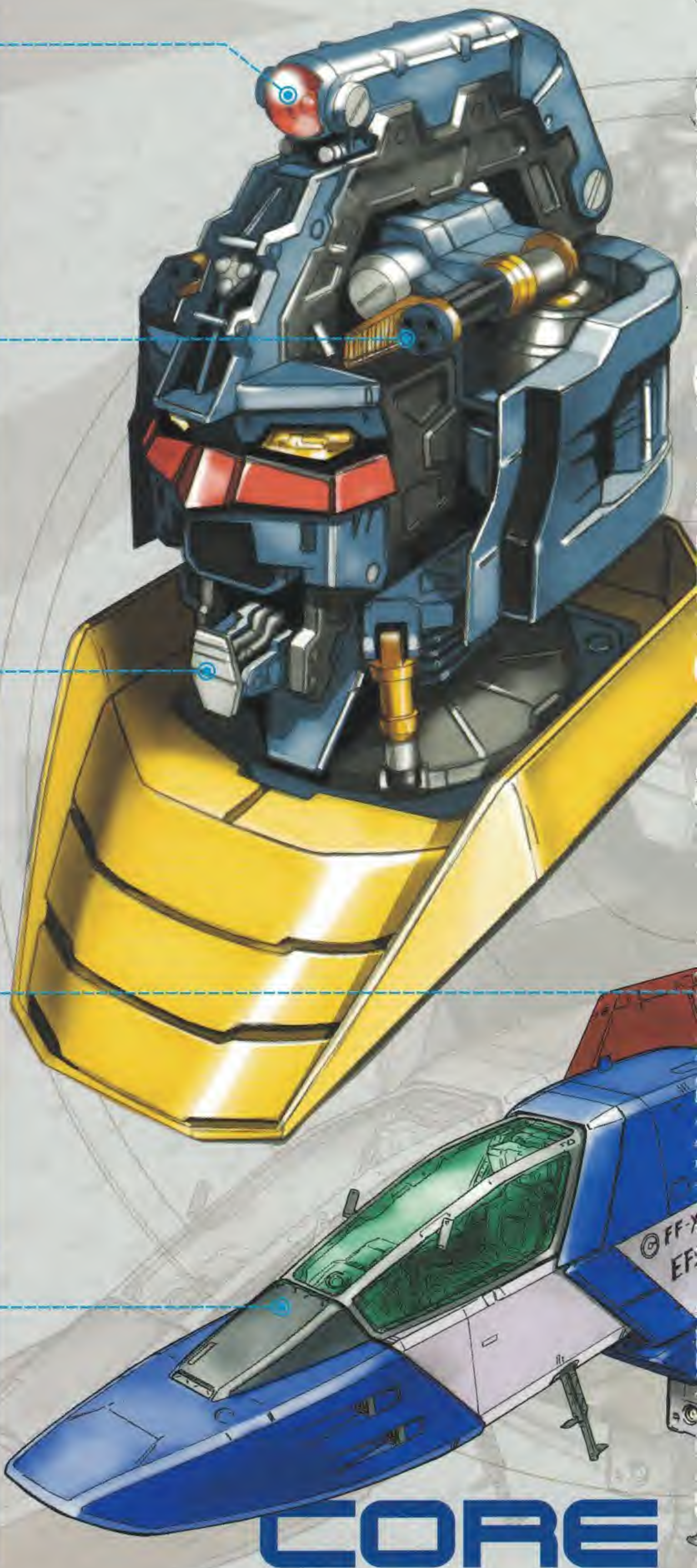
頭部各所には多種多様なセンサーが内蔵されており、あらゆる角度から対象物を分析することが可能。また、頭部が破壊された場合、索敵能力は低下するが戦闘能力に関しては問題ない。それは対ジオング戦で頭部を損失しても、戦い続けたことが実証している。

## NC-3型核融合ジェネレーター

コア・ファイターに2基搭載されており、RX-78-2のメイン動力源として機能している。機体には、ほかにも5基のジェネレーターが搭載されており、フル稼働時は当時の航空艦艇の水準を大幅に超える出力を生み、ザクⅡの約5倍のエネルギーゲインといわれる。

## コア・ファイター

RX-78-2のコクピット・ブロック・モジュールで、単なる脱出装置として機能するのみならず、戦闘機としても運用可能。戦うたびに戦闘データを蓄積していく教育型コンピュータを内蔵しており、機体自身が経験した戦闘を記憶、データ化することが可能だ。





# HEAD UNIT

■ヘッドユニット

## マルチブレード・アンテナ

RX-77-2やRX-75、母艦であるホワイトベースとの連携作戦を前提とした機体のため、通信用の無段階方位アンテナを標準装備。当然ながら、ミノフスキー粒子の干渉への防護処置が徹底して施されているため、散布下においても通信に支障が生じることはない。

## デュアル・カメラ

対象物を立体的に捕らえ、照準精度を上昇させるためのカメラで、視差による計測も可能。人間の目のような形状になったのは、カメラカバー用の素材の開発事情という説もあるが、もっとも有力な説は、人型にこだわった設計者のポリシーだというものだ。

## 4連装小型ミサイル

機体上部に搭載されたペンシル型空対空ミサイル。コア・ファイター単独での戦闘はほとんど想定していなかったため、装弾数は決して多くはない。ほかに機首の左右に1門ずつ30mm2連装バルカン砲を装備しているが、総じて戦闘力が高い機体とはいえない。

## MS名ゼリフ

「ボクがいちばん上手く  
ガンダムを動かせるんだ！」  
—アムロ・レイ—

艦を抜け出した罪で独房に入れられたアムロがつぶやいたセリフ。これは直前の戦闘で、MSの性能で勝てたことをランバ・ラルに指摘されたことを受け、パイロットとして自信をなくしそうな自分に言い聞かせた言葉である。

▶事実、物語中ではアムロだからこそ実現した戦闘方法が随所に見られた。



# FIGHTER

■コア・ファイター



## ビーム・サーベルマウント

ランドセルの左右に設けられた、ビーム・サーベル格納ユニット。水冷方式による冷却システムが内蔵されている。また、サーベル自身を収納する際、ビームの刃が出た状態で収納することが多いため、内部には独自のエネルギー放出システムも備わっている。

アールアンドアール エム

## R&R-M322

人間に近い動きを徹底追求したMS用汎用アームユニット。MS同士の格闘が想定されていたため、稼動部や動力チューブなどは可能な限り内蔵されている。さらに敵のデータ採取を極力防止するために、外観から内部機構がわからないように設計されている。

し せい せい きょ

## 姿勢制御バーニア

無重力域での姿勢制御の際に使用する補助バーニア。通常時は開閉式のカバーで塞がれており、使用頻度は低い。基本的にはAMBACによる姿勢制御が中心であり、燃料消費を伴う補助バーニアでの制御は緊急時のみに行うことが前提とされていた。

ワンポイント コラム

## ガンダム用特殊兵器

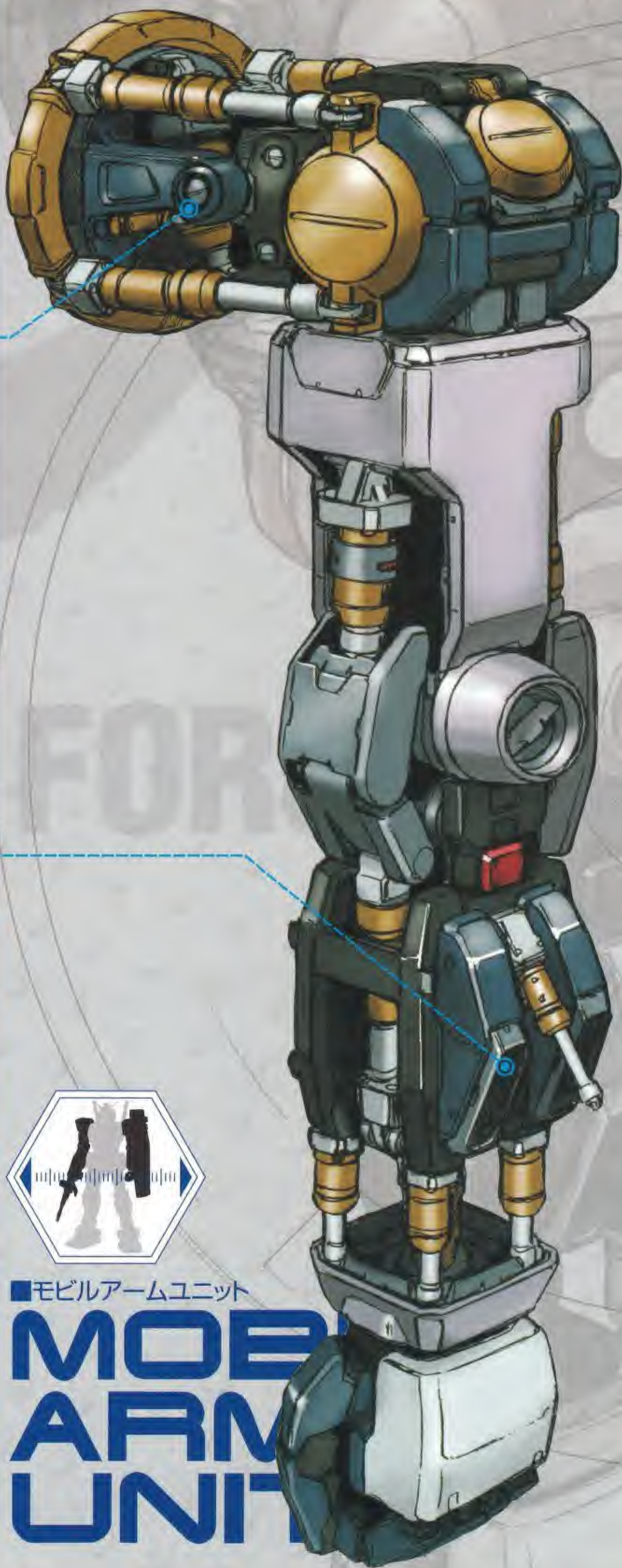
RX-78-2がメインで使用していたのは各種ビーム兵器であったが、携行無反動砲のハイパー・バズーカ、近接攻撃用のハイパー・ハンマーなど、実体兵器も用意されていた。ハイパー・ハンマーは何度か実戦で使用されたものの、後に採用されなかったことから、有力な兵器ではなかったことがわかる。このほかにも、使用さえされなかった兵器も存在する。

▶無重力域内ならまだしも、無重力域での実体兵器はイマイチ安定性に欠ける。



■モビルアームユニット

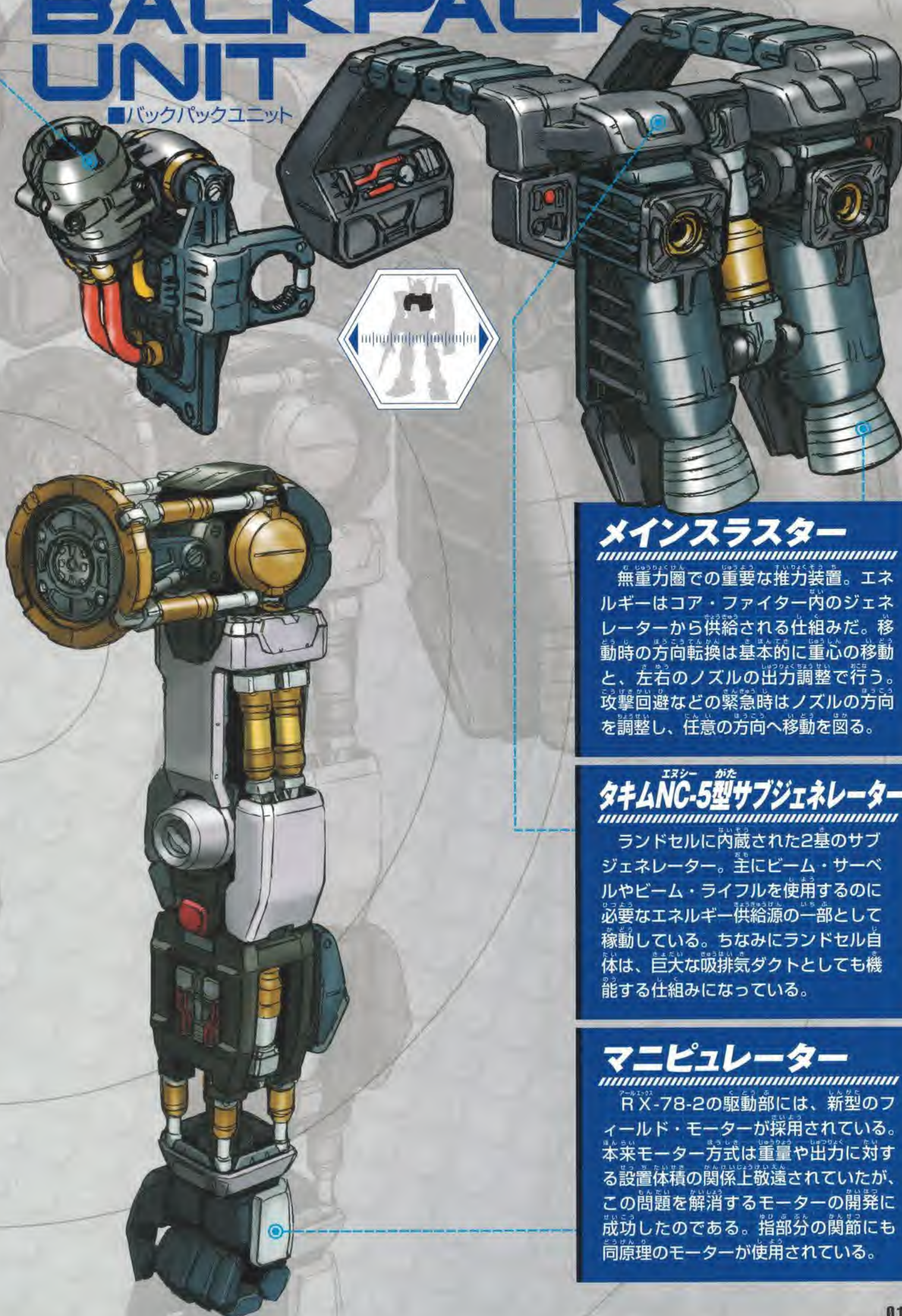
# MOBIL ARM UNIT





# BACKPACK UNIT

■バックパックユニット



## メインスラスタ

無重力圏での重要な推力装置。エネルギーはコア・ファイター内のジェネレーターから供給される仕組みだ。移動時の方向転換は基本的に重心の移動と、左右のノズルの出力調整で行う。攻撃回避などの緊急時はノズルの方向を調整し、任意の方向へ移動を図る。

## タキムNC-5型サブジェネレーター

ランドセルに内蔵された2基のサブジェネレーター。主にビーム・サーベルやビーム・ライフルを使用するのに必要なエネルギー供給源の一部として稼働している。ちなみにランドセル自体は、巨大な吸排気ダクトとしても機能する仕組みになっている。

## マニピュレーター

RX-78-2の駆動部には、新型のフィールド・モーターが採用されている。本来モーター方式は重量や出力に対する設置体積の関係上敬遠されていたが、この問題を解消するモーターの開発に成功したのである。指部分の関節にも同原理のモーターが使用されている。



## 姿勢制御バーニア

腕部のものと同様に補助的に使用するバーニアだが、使用頻度は脚部の方が高い。単に無重力圏での姿勢制御だけではなく、重力圏での歩行時にも活用することになる。また、脚部に搭載されたジェネレーターを冷却する際の吸排気装置として機能する一面もある。

## 油圧式シリンダー

歩行時などの衝撃を吸収し、コクピットに伝わる衝撃を軽減するとともに駆動部の安定した動作を補助している。基本的には工業用機械などに使用されているものと同等品で、MS専用開発されたパーツではない。単体でのコストは非常に低く、交換も容易だ。

## アールエクスエル ユーディー RX-LU-D1

ザクⅡのデータを参考に、地球連邦が開発したMS用の歩行システム。単に二足歩行用の機能だけではなく、各種センサーやサブ・カメラなど情報収集機器が多数内蔵されている。ザクⅡのデータはあくまで参考であり、実質は独自の技術で構成されている。

## 水冷用パイプ

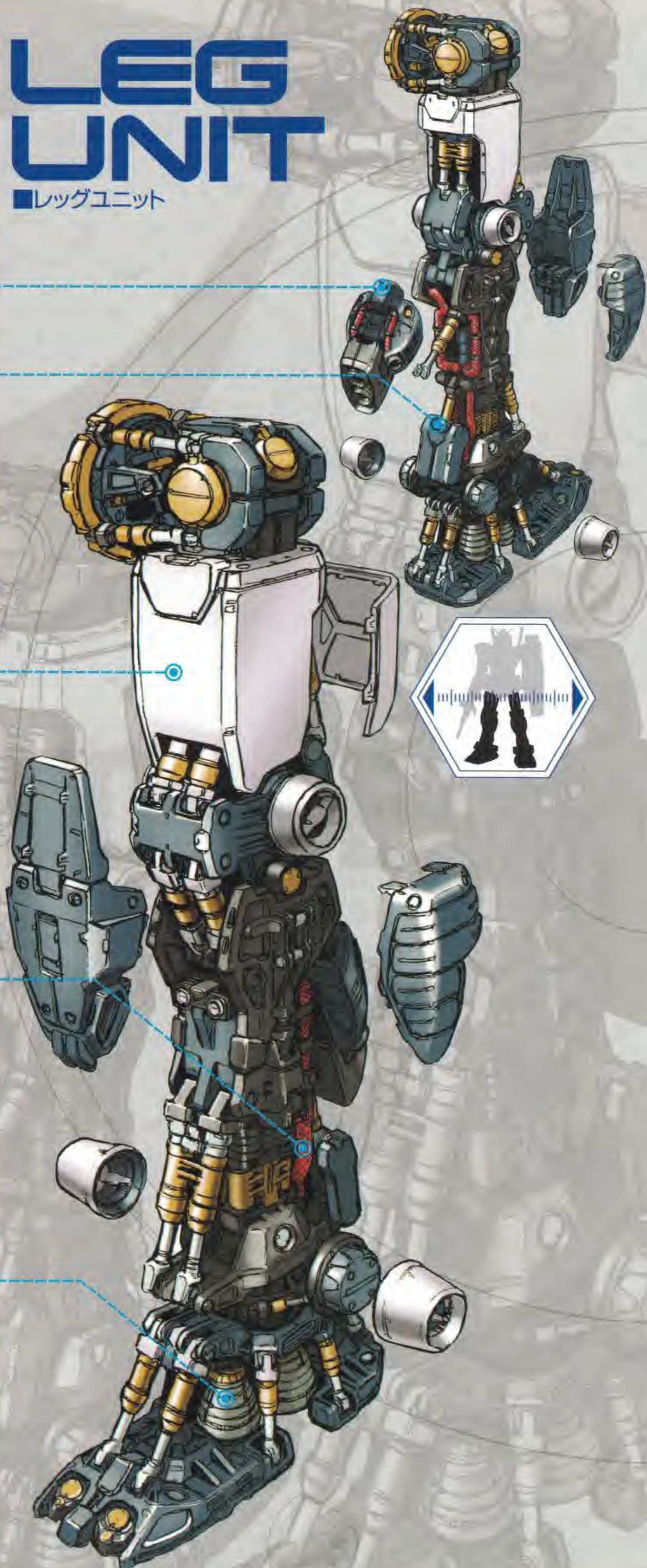
脚部ジェネレーター用の冷却水のほか、動力パイプなどが収納されている。人間でいう血管にあたるもので、破損状況によっては歩行不能になることも。そのため被弾率が高い前面を避け、脚部背面のフレーム内部に組み込むような形で取り回す設計となっている。

## 足底バーニア

足底のバーニアは重力圏における、歩行時や着地時のショック吸収に役立っている。脚部には運動性能向上のために独立したジェネレーターが搭載されており、これにほぼ直結した形になっている。その他のバーニアよりも出力が高く、重力圏では使用頻度が高い。

# LEG UNIT

■レッグユニット





パーフェクトグレード  
**PERFECT GRADE**  
アールエックス ガンダム  
**RX-78-2 GUNDAM**

■バンダイ ■発売中 ■1万2600円(税込)

機体の外観のみならず、内部メカニズムも可能な限り再現した究極のRX-78-2モデル。単なるディテールだけではなく、パーツごとの機能も再現。腕部や脚部の稼動にシンクロして各部のシリンダーまで伸縮する徹底ぶりだ。各種メンテナンスハッチの開閉も可能になっている。



◀頭部のカバーも自在に開閉でき、内部メカを確認して楽しむことも。発光ダイオードでカメラアイを光らせることも可能。



◀専用のポリパーツの採用により、パーツの開閉は実にスムーズ。一部のパーツにはメッキパーツを採用している。



▲コア・ファイターまでも完全立体化。コア・ブロックへの変形ギミックも原作どおりの仕組みだ。



▲両腕、両脚部にダンパー機構を含む可動式内部骨格を再現。装甲を取り外すことで、内部メカニズムを徹底的に楽しむことができる。



# 勝利を陰で支えた 支援機の要



## BODY MODULE

■ボディーモジュール

### +

## ARM UNIT

■アームユニット

#### SPEC DATA

所属：地球連邦

頭頂高：17.5m 本体重量：51.0t

ジェネレーター出力：1380kW

スラスター推力：5万1800kg

RX-78-2との連携を前提に

開発された特化支援機

RX-78-2と同様に、地球連邦のV作戦の下で開発された中距離支援型MS。RX-77は初期試作型のほかに、先行型仕様のものが6機生産されていた。そのうちの3機がサイド7にてトライアルを行っていたが、ザクⅡの襲撃を受けた際に2機が破壊された。

PILOTパイロット

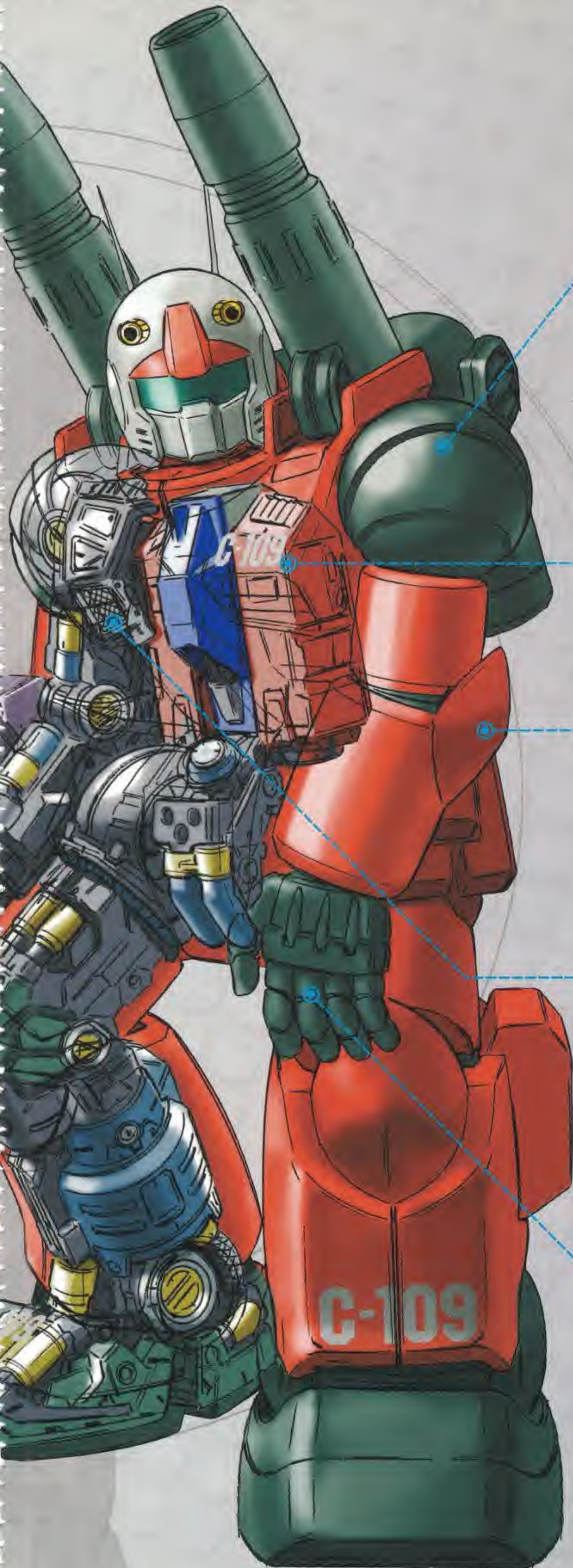
カイ・シデン



パイロットとしては未経験であったが、人手不足からRX-77-2を任されることに。アムロとまではいかないが、未経験ながらもMSを乗りこなすことができる技量の持ち主だ。

アール エックス  
**RX-77-2**  
 E.F. SPACE FORCE  
**GUNCANNON**  
 —ガンキャノン—





## ショルダーアーマー

キャノン砲搭載の関係上、腕部の稼動構造の大半が肩部自体に内蔵されている。そのため肩部はRX-78-2と異なる形となり、ショルダーアーマー自体の形状も特殊なものを採用。球状のアーマーは装甲厚の面で信頼性が高く、被弾時に破損しにくい利点を持つ。

## 重装甲

主に後方からの支援砲撃や中距離からの狙撃といった任務が想定されていた機体のため、機動性よりも耐弾性が重視された。装甲素材はRX-78-2と同じルナ・チタニウム合金を使っているが、装甲厚や形状などが異なり、当時のMSとしては破格の装甲強度を誇る。

## エルボージョイントアーマー

関節部を保護するためのアーマー。丸みのある形状は、銃弾を受け流すために考案されたもので、腹部に腕を回すことでコクピット部を守ることも。また、単にアーマーとしての役目だけでなく、低姿勢での砲撃時に関節部を固定し安定性を高める機能も担う。

## エアインテーク

機体内部の冷却用に大気を吸引、排出する大型の装置。RXシリーズのMSはすべて胸部に同装置が設けられている。これは、コア・ファイターの高出力ジェネレーターが発する熱量が膨大なため、即座に排気し、大量の大気で冷却するのに適した場所だからである。

## マニピュレーター

基本的にはRX-78-2と同様のマニピュレーターを採用しているが、レスポンスよりはトルクを優先した調整が施されている。これは周囲の岩盤などを手で掴み、機体を安定させる際に重要なことで、中距離から安定した砲撃を実現するのに一役買っている。



## 240mm<sup>ミリメートル</sup>キャノン砲<sup>ほう</sup>

火器としては信頼性の高い兵装で、炸薬によって実体弾を射出する低反動砲。確実な支援を実現するために、大気で威力が減衰してしまうビーム砲ではなく、実弾兵器が採用されることになった。機体胸部に弾倉が設けられており、装弾は2門合計で40発前後。

## 水冷用ジャケット<sup>すいれいよう</sup>

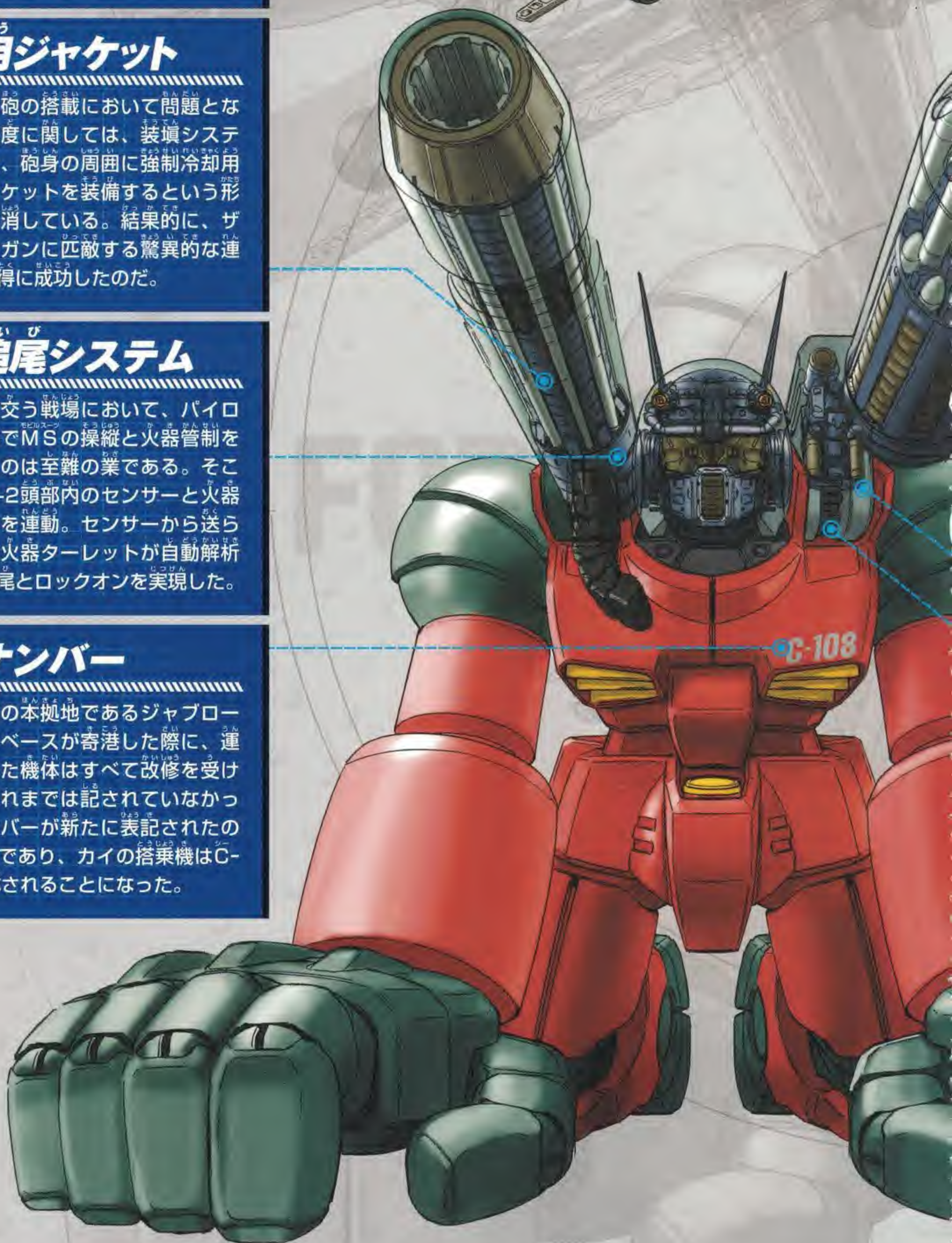
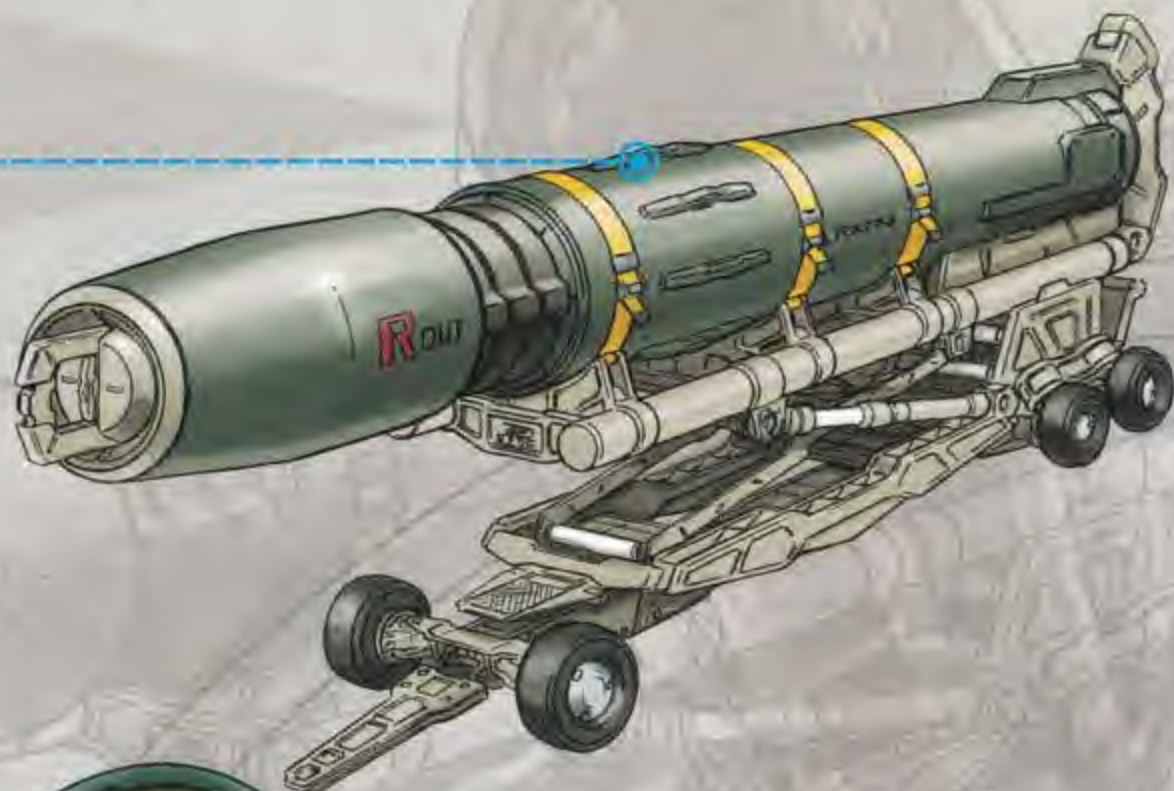
キャノン砲の搭載において問題となった連射速度に関しては、装填システムの改良と、砲身の周囲に強制冷却用の水冷ジャケットを装備するという形でそれを解消している。結果的に、ザク・マシンガンに匹敵する驚異的な連射能力の獲得に成功したのだ。

## 自動追尾システム<sup>じどうついび</sup>

砲弾飛び交う戦場において、パイロットが単独でMSの操縦と火器管制を同時に行うのは至難の業である。そこでRX-77-2頭部内のセンサーと火器ターレットを連動。センサーから送られた情報を火器ターレットが自動解析し、自動追尾とロックオンを実現した。

## 機体ナンバー<sup>きたい</sup>

地球連邦の本拠地であるジャブローにホワイトベースが寄港した際に、運用されていた機体はすべて改修を受けている。それまでは記されていなかった機体ナンバーが新たに表記されたのもこのときであり、カイの搭乗機はC-108と呼称されることになった。





## スプレーミサイルランチャー

12連装ロケット弾ポッドとも呼称されるオプション装備。サイド7で破壊された機体には、これを装備していたものもあった。弾幕の展開に有効であると考えられていたが、ミノフスキー粒子散布下では命中精度が低下するためほとんど使用されることはなかった。

## ビーム・ライフル

RX-77-2シリーズのビーム・ライフルは、RX-78-2のXBR-Mタイプとは別設計であるXBR-Lタイプのデバイスを搭載している。LタイプはMタイプよりも取り回しにくいという欠点があるが、照準精度や射程などが改善されており、狙撃に特化した機能を備えている。

## 固定砲台

パイロットに複雑な操縦が強いられないよう、砲台部は左右旋回を切り捨て上下稼動のみの固定砲台を採用している。また、スプレーミサイルランチャーなどのオプション装備は素早く換装できるようになっているため、急な作戦変更にも対応することが可能だ。

## 反動制御システム

本来、実体弾を射出するキャノン砲は、低反動タイプとはいえビーム・ライフルなどに比べ砲撃時の反動が非常に激しい。特に二足歩行タイプであるRX-77-2は、反動が命中精度に大きな影響を与えるため、砲台内部にも反動を抑えるための装置が内蔵されている。

## 砲撃システム

両手と両膝を着き、低姿勢で攻撃するのが基本的な砲撃姿勢である。これは、四肢による機体の固定で命中精度が高まるうえ、姿勢を低くすることで対向面積が小さくなり、被弾率の低下にもつながり、確実な支援を行いながらも自機を守る、最適な姿勢だ。

# WEAPON

■ウェポン



## 60mmバルカン

頭部のバルカン砲はRX-78-2と同型のものを搭載。対MS戦においては近接戦闘時の牽制用兵器として活用、防衛戦時には戦闘機を撃ち落とすのに使用されることが多い。ただし、装弾数があまり多くはないため、あくまで補助兵器としての運用が前提となる。

## メイン・カメラ

メイン・カメラにはモノ・センサー方式のカメラを採用。これはRX-78-2のデュアルセンサーよりも、性能は若干低下するが生産工程が簡略化できるというメリットがある。また、性能も低下しているとはいえ、支援を目的とした機体には十分なレベルであった。

## 砲弾供給装置

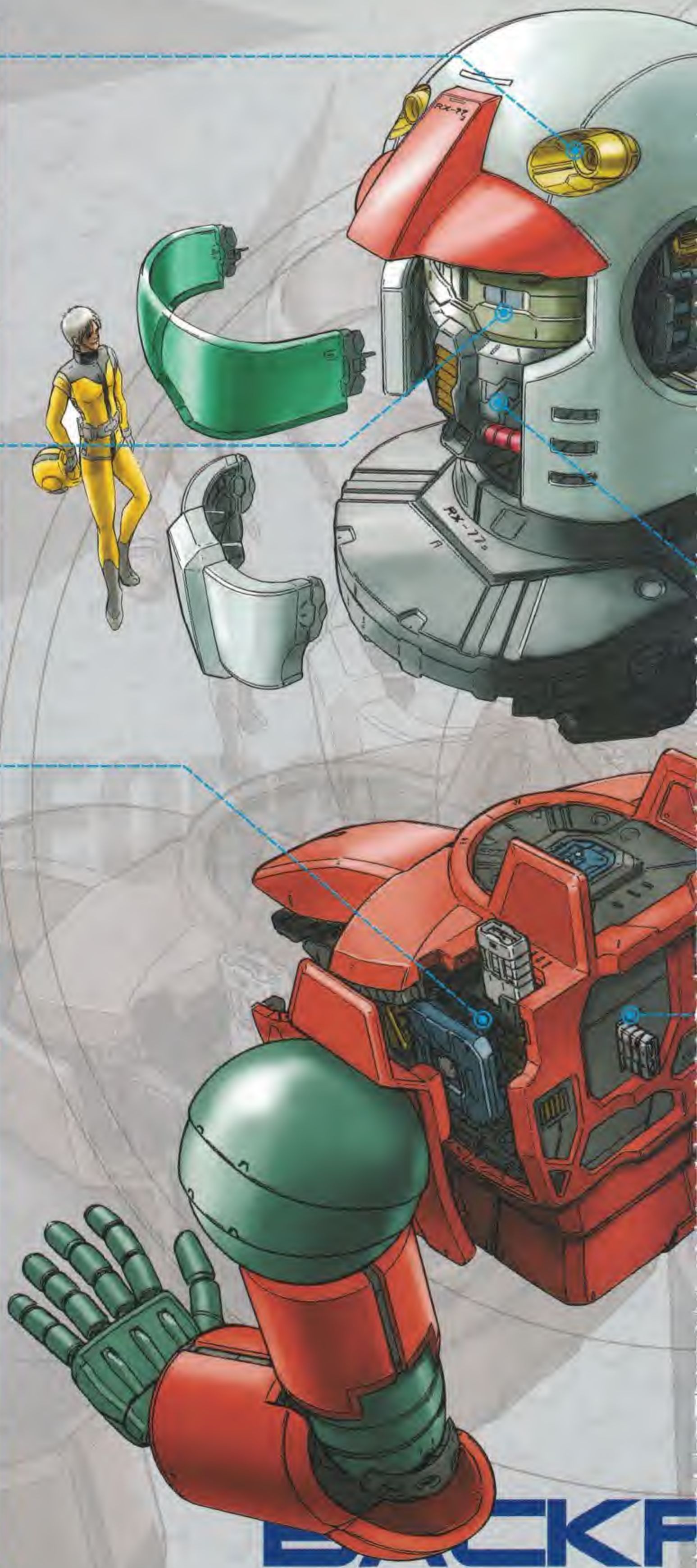
RX-77-2のボディーユニットは、砲撃戦に特化した構造と言っても過言ではない。腕部の稼動構造の大半を肩部に内蔵することで胸部にスペースを確保し、そこにキャノン砲用の砲弾と炸薬の供給装置を搭載。重要な供給装置を分厚い装甲で守ることに成功している。

### ワンポイント コラム

## ガンダム用特殊兵器

ホワイトベース隊がジャブロー到着時に、サイド7から運用されていたカイ・シデン機はC-108とナンバーが施され、新たにC-109とナンバリングされたRX-77-2が同部隊に配備された。この機体には、それまでRX-75を操縦していたハヤト・コバヤシが搭乗。以後の作戦においては、2機のRX-77-2の支援のもとでRX-78-2の運用が行われた。

▶新たな機体の追加により、ホワイトベース隊の戦術の幅が広がる結果に。





# HEAD UNIT

■ヘッドユニット



## マルチロッドアンテナ

ミノフスキー粒子の干渉を防ぐための策が徹底的に施された通信用アンテナ。RX-78-2のブレードアンテナとは異なる、ロッドタイプのものを採用している。砲撃による破損を免れるため、通信装置を含むアンテナ本体は後頭部に配置。後方に折りたたむことも可能。

## メンテナンスハッチ

人間の耳にあたる部分は、頭部のメンテナンスハッチとなっている。頭部には火器官制を行う各種センサーやコ・プロセッサ・システムが内蔵されているため、メンテナンス頻度が非常に高い。そのため、アクセスのしやすさを重視した設計が行われたのだ。

## レーザー&電磁波センサー

マスク部分にはレーザーや電磁波センサーを内蔵。また、頭部冷却用のインテークも装備されており、頬と顎の部分から得た大気を内部に循環させている。ただし仕様は運用中に逐次更新されており、時期によってそれぞれの配置は大幅に異なっている。

## マウントラッチ

背部推進装置用のマウントラッチは、オプション装備の換装が簡単に行えるように非常に単純な構造になっている。ホワイトベース隊の機体には採用されることはなかったが、RX-77-2を支援型に捉われない機体にすべく、強化ランドセルの研究、開発が行われた。

## メインスラスタ

ビーム・サーベルを搭載していないため、プロペラントタンクを内蔵するなど、ランドセル自体は推進機能に特化したシンプルな形状をしている。単に推進力を得るための装置としてだけでなく、無重力圏では砲撃時にバランスを崩さないために使用することも。

■バックパックユニット

# PACK UNIT



## コア・ブロック・システム

RX-78-2、RX-75との互換性を前提に開発されているため、同様のコア・ブロック・システムが採用されている。コア・ファイターに搭載されたジェネレーターが、機体のメインジェネレーターとして稼動。キャノン砲関連のシステムの電力もここから補っている。

## CORE BLOCK

■コア・ブロック



## コクピット

コア・ファイターのコクピットが、そのままMSのコクピットとなる。教育型コンピュータが搭載されており、各種戦闘データを分析、適切な対処方法を自ら構築する能力を持っている。また、これらのデータは他のRXシリーズと容易に共有することが可能だ。

## サーモセンサー

機体各所にはさまざまな種類のセンサーが搭載されている。腰部には熱源探知が可能なサーモセンサーがあり、周囲の状況をグラフィカルにコクピットのモニターに表示することが可能。特に周囲の温度が低い宇宙空間では、敵機の早期発見に活躍する。



## LEG UNIT

■レッグユニット

## ハンドグレネード

ランチャーを使わず、マニピュレーターによって投擲する手榴弾。対MS戦などではあまり効果が期待できないが、拠点攻略時の施設破壊などに有効だ。脚部に専用の収納ラックが用意されているが、両脚合わせて6発程度しか収納できないため使用頻度は低い。



## アングルサポートユニット

各種センサーを内蔵したユニット。主に歩行補助のためのセンサーが搭載されている。RX-78-2は専用のアーマーで保護しているが、RX-77-2はほぼ剥き出しに近い構造となっている。そのためユニット自体の装甲を強化、形状も被弾しにくい球状のものになっている。



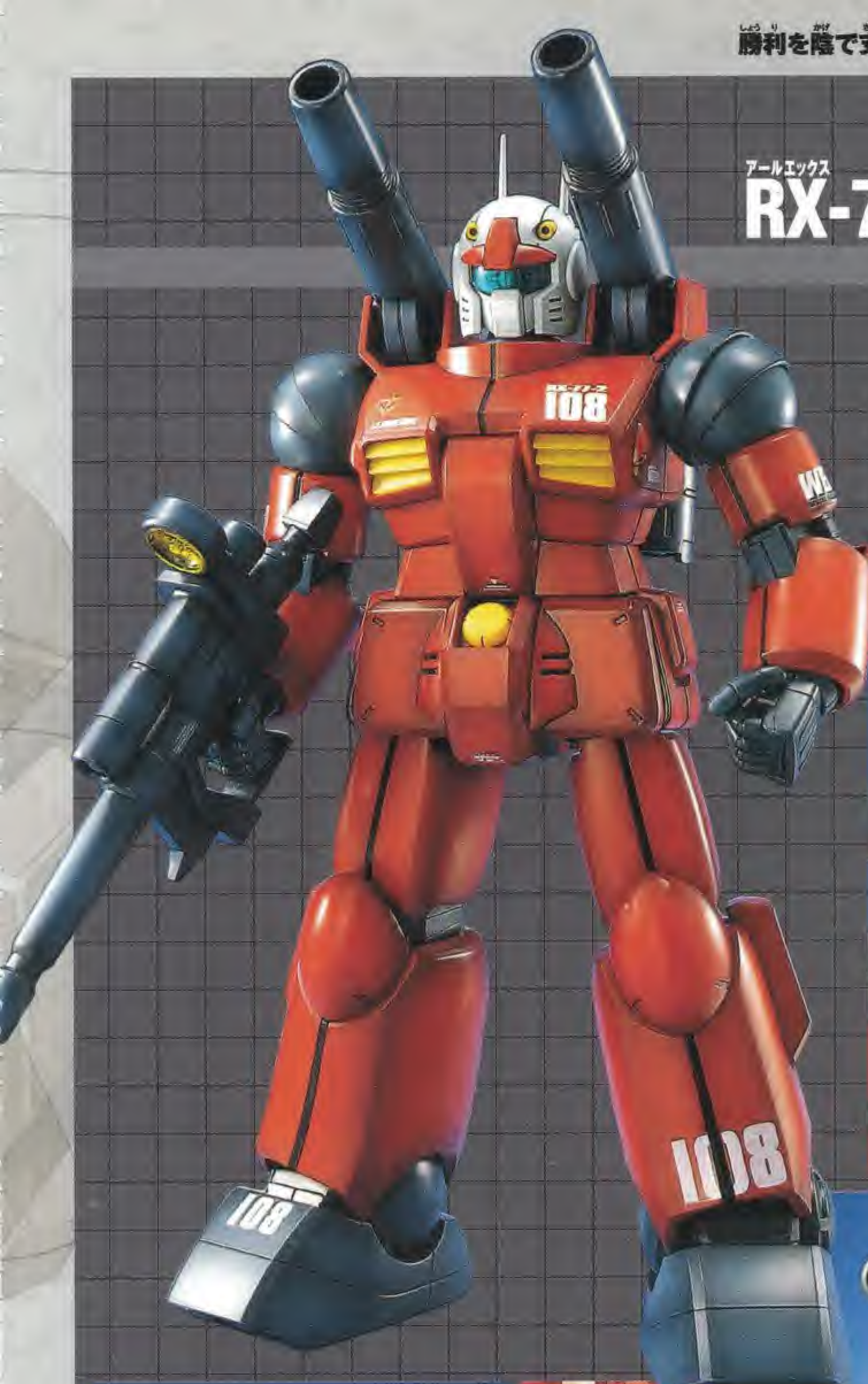
マスターグレード  
**MASTER GRADE**  
ガンキャノン  
**RX-77-2 GUNCANNON**

■バンダイ ■発売中 ■3150円(税込)

脚部装甲の脱着が可能なモデル。コア・ブロック・システムも完全再現しており、AパーツとBパーツ、そしてコア・ファイターに分離することができる。頭のメイン・カメラ部分は、モノ・センサー方式のカメラが透けて見えるかのようなデザインになっているのが特徴だ。

◀ キャンノンはもちろん可動式。可動範囲は実機と同様で、左右それぞれが独立して動く仕組みになっている。

◀ コクピット部の開閉システムも完璧に再現。さらに内部には、操縦しているパイロットの姿を見ることが出来る。



▲脚部の装甲以外に、背部ランドセルのカバーも脱着式になっている。脚部側面のラックにはハンドグレネードを収納できる。

▲スプレーミサイルランチャーをはじめ、脱着交換用の各オプションパーツも充実している。





アール エックス

RX-75

GUNTANK

ーガンタンクー

アールエックス RX-77-2とともにアールエックス RX-78-2を支援し、ホワイトベース隊  
を守り続けた機体。二足歩行型のMSが主流となり、戦闘に機動  
力が求められたなかでも、大破することなく戦い続けることがで  
きたことが機体の性能の高さを物語っている。重戦MSとして考  
えれば、傑作中の傑作機と言っても過言ではないだろう。

## SPEC DATA

所属：地球連邦

頭頂高：15.0m 本体重量：56.0t

ジェネレーター出力：878kW

スラスター推力：8万8000kg

BODY  
MODULE

ボディーモジュール

後方支援に性能を特化した

地球連邦初のMS

アールエックス RX-75の原型となる機体は、アールエックス RX計画よ  
りも前に次世代主力戦車の開発というコンセ  
プトのもとで開発が進められていた。しかし  
RX計画の発動によってそれまでの技術をM  
S開発へ移行。すでに原型ができていたR  
X-75が、最初のMSとして誕生した。



## PILOT

パイロット  
ハヤト・コバヤシ

最初はふたりで操  
縦を行っていたが、  
パイロット不足から  
ハヤトがひとりで操縦することに。もとも  
とは民間人であったが、アムロへの対抗心  
もあってパイロットに立候補した。

ホワイトベース たい

WB隊を

まも ぬ じゅう せん モビルスーツ  
守り抜いた重戦MS





## 開発技術

開発当初、従来の戦闘車両と比べ、あまりにも重く巨大な機体の開発は技術陣の頭を悩ませた。そこで技術陣は、ロケットの打ち上げに使用される移動式台座や建設機械の技術を応用。RX-75は、これら旧世紀に確立した実績ある技術をもとに開発されたのである。

## フレキシブル・ショルダー

肩部にはプラモデルのボールジョイントのような構造をしたフレキシブル・ショルダーが採用されている。これにより両手のミサイル砲の攻撃範囲が広がるだけでなく、わざわざ重い機体を動かさなくても腕部だけで微妙な照準調整を行うことが可能だ。

## 姿勢制御バーニア

RX-75はキャタピラ式のため、宇宙空間でAMBACシステムによる姿勢制御を行うことができない。そのため宇宙空間での運用時には、機体底部のバーニアによって姿勢制御を行うことになる。また重力圏内では、母艦からの空中発着進時に着地補助用として活用する。

### ワンポイント コラム

## 4機存在したRX-75

RX-75は本来、4機がすでに完成しており、サイド7にて最終テストが行われていた。しかし、ジオン公国の部隊による襲撃を受けた際に3機が撃破され、残された1機のみがホワイトベースに搭載されたのである。試験的であるとはいえ同時に4機も開発していたことから、地球連邦がこの機体に信頼を寄せていたことは間違いない。

▶ 一気に3機を失ったサイド7への襲撃は、地球連邦には大きな痛手に。





## 120mm低反動キャノン砲

最大射程は240kmで、16発連続発射が可能なRX-75の主要兵器。左右の砲台が独立稼動するため、別々の標的を狙い撃つことができる。砲弾は完全燃焼式の薬莖を採用。MS用に開発された兵器で、砲撃時にバランスを崩さないように反動対策が施されている。

## 砲弾供給装置

RX-77-2と同様に、砲弾供給装置は機体胸部に設けられており、分厚い装甲で守られている。ザク・マシンガン並みの連射速度をキャノン砲で実現できた理由のひとつは供給装置の高性能化にあり、これは地球連邦が培ってきた兵器開発技術の高さを証明している。

## エアインテーク

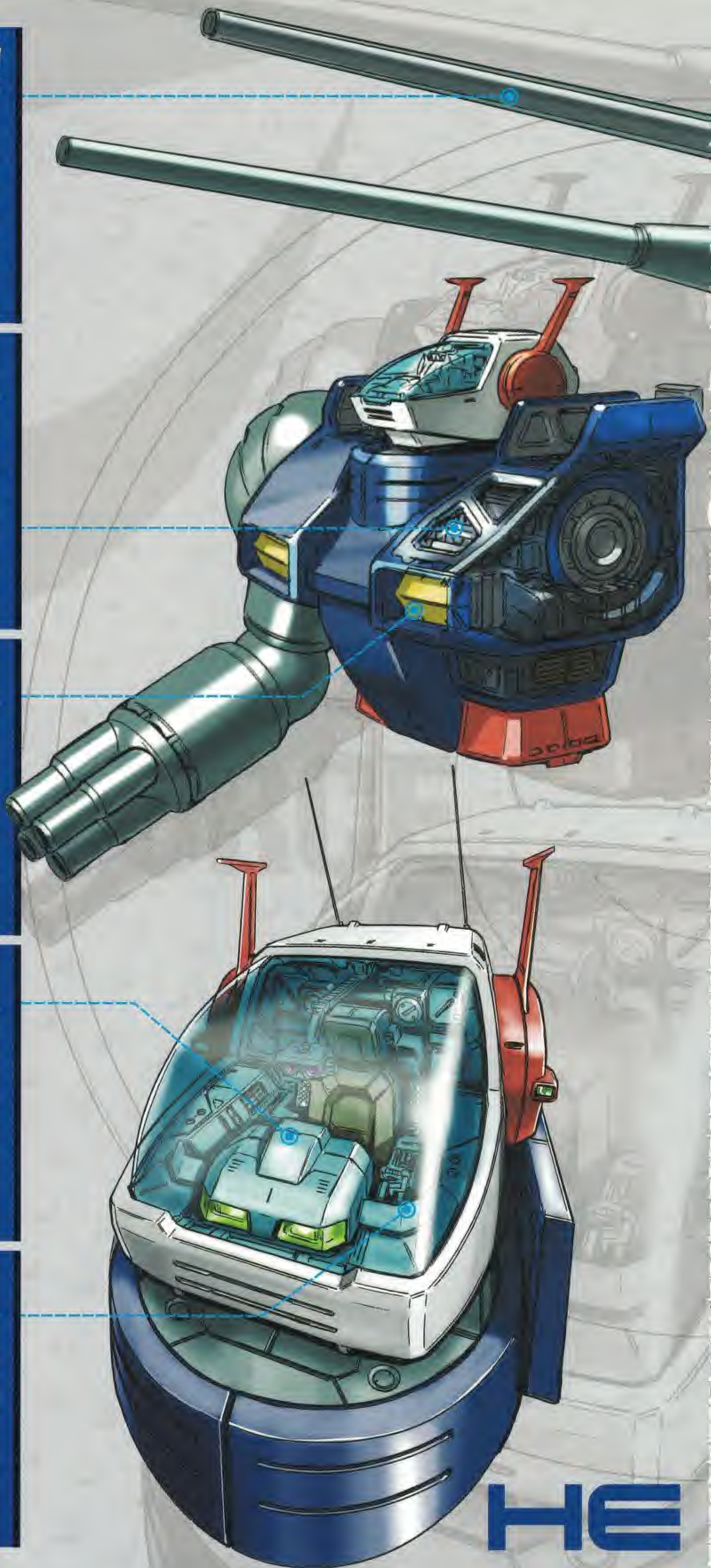
機体内部の温度が上昇すると、充填砲弾が暴発する恐れもある。そのため、胸部のエアインテークは運用上欠かすことができないもので、つねに大量の大気を循環させて冷却を行っている。また、吸排気口部には異物混入を防ぐフィルターが何層も設けられている。

## 頭部コクピット

頭部のコクピットは、両肩のキャノン砲と両手のミサイル砲の砲座として使用し、腹部コクピットは機体制御に用いられていた。しかしパイロット不足という状況もあり、頭部コクピットへ全操縦システムの移行が行われ、ひとりで操縦できる機体に改修された。

## 防弾キャノピー

レーダー類が役に立たないミノフスキー粒子散布下での戦闘に備え、頭部コクピットには透過性が高い特殊素材の防弾キャノピーが採用された。パイロットの目視による索敵を可能にしたわけだが、その反面、敵に狙われやすいというデメリットも背負うことに。

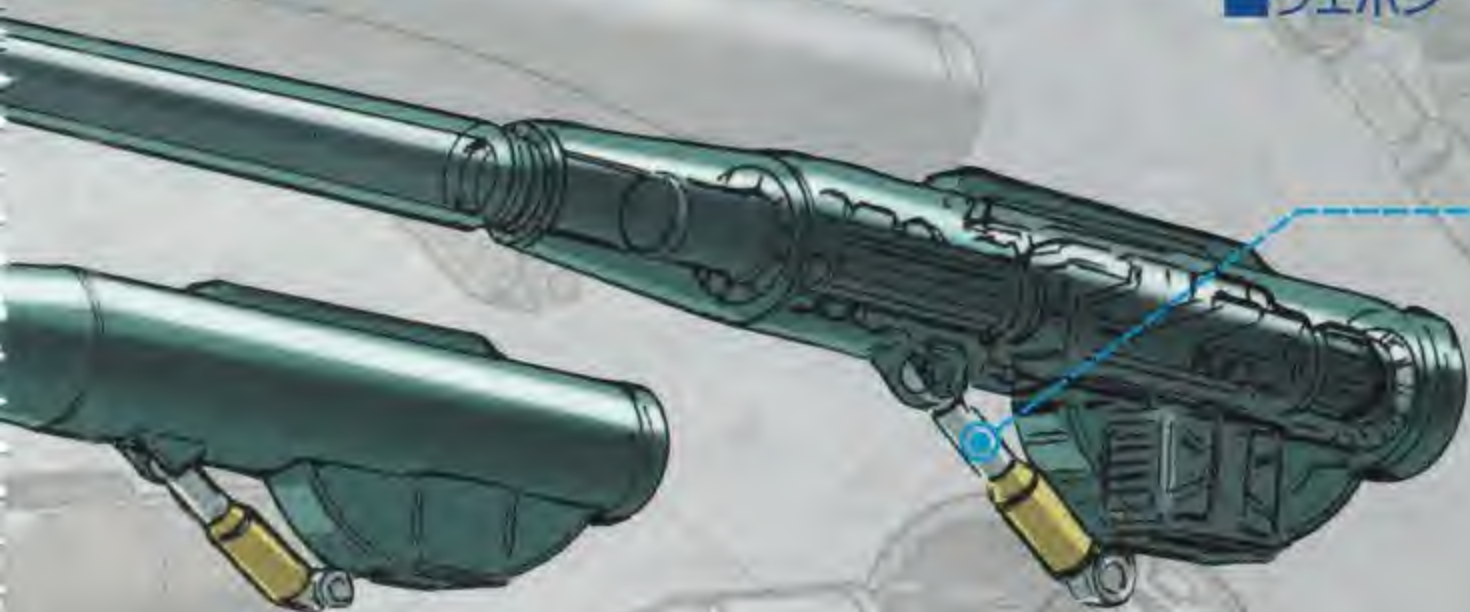


HE



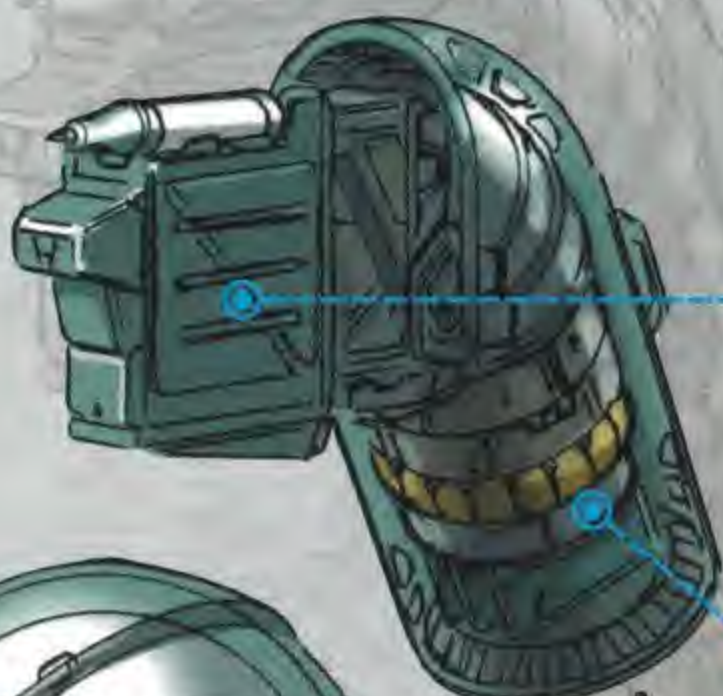
# WEAPON

■ウェポン



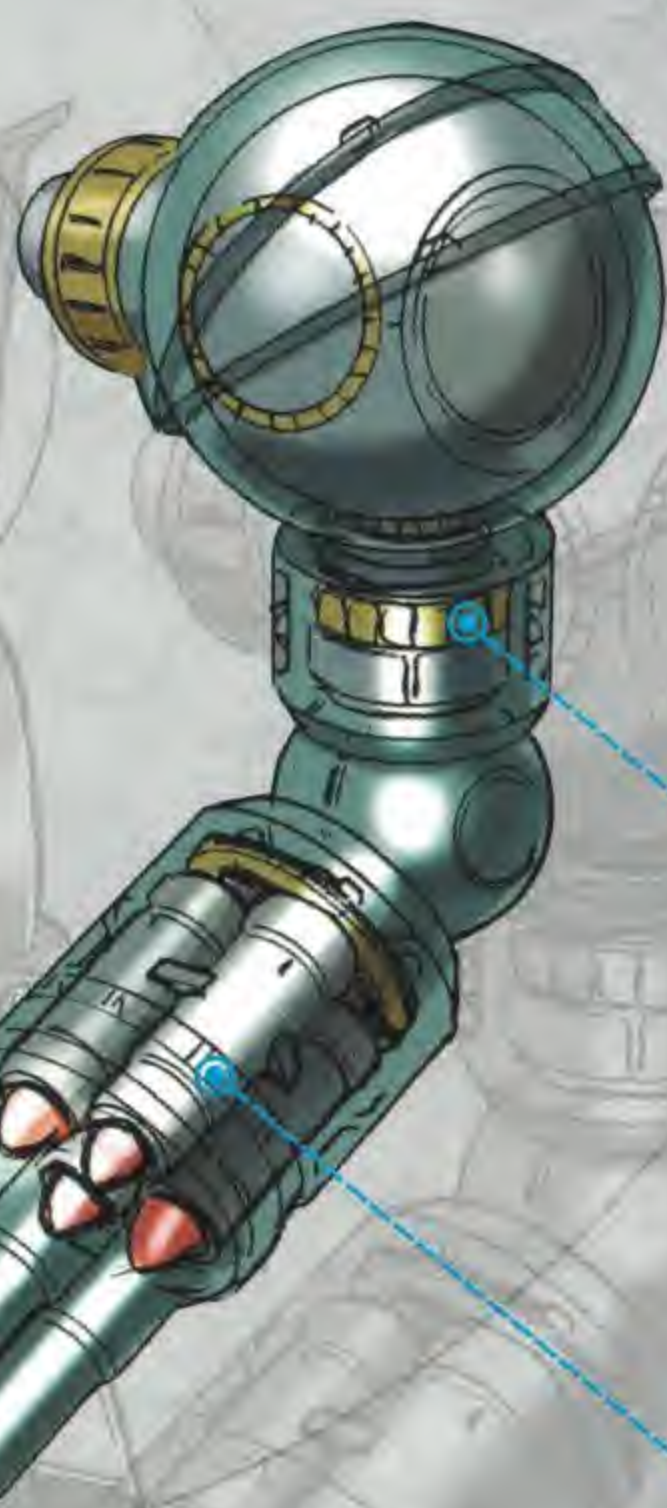
## 伸縮シリンダー

キャノン砲の稼動を安定させ、さらに砲撃時の反動を吸収するショックアブソーバーとしても機能。砲身を固定する役目もあり、特に長距離砲撃で命中率をアップするのに欠かせない補助パーツのひとつだ。技術自体は旧世紀に確立した兵器技術の流用である。



## 砲弾カートリッジ

カートリッジはメインスラスタと一体化された構造で、充填は背部から引き抜いて行う仕組みになっている。予備パーツが充実した状況下であれば、弾切れの際に戦闘中でも背部ユニットの交換で補充が可能であったが、ホワイトベース隊では実践されなかった。



## メインスラスタ

宇宙空間での使用も想定されていたため、背部にはメインスラスタが設けられている。重力圏内では機体底部のバーニアと併せ、上空からの発進における着地制御に用いることが多い。機体重量の関係上、フル出力を試みたとしても長時間飛行は不可能である。

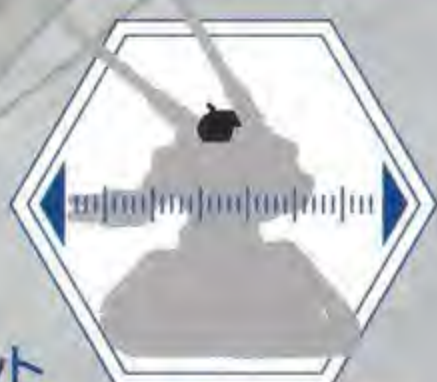


## 給弾機構

腕部は基本的にミサイル砲の給弾機構として設計されたため、肘関節の可動範囲は非常に狭い。肩部に自由度が高いフレキシブル・ショルダーが採用されたのは、これを補うためでもある。手の先だけに見えるが、実際は腕全体でひとつの兵器となっているわけだ。

## 4連装ボップ・ミサイル

射程は20kmで120発の連続発射が可能な中距離支援用兵器。もともとRX-75専用が開発されたものではなく、対MS戦対策として他の兵器の機構を急遽組み込んだものなので、構造自体は実に大雑把と言える。薬莖はキャノン砲と同じ完全燃焼式のものを採用。



ヘッドユニット

# AD UNIT



## コア・ファイター

腹部にコア・ファイターを収納するコア・ブロック・システムを採用。実戦投入当初は、機体の操縦を腹部コクピットで行っていた。一年戦争末期に数機のみ実戦投入された量産型モデルには、コスト的な問題からコア・ブロック・システムが排除された。

## ハイブリッド式エンジン

小型熱核反応炉が開発される前に完成した機体のため、原子炉とガスタービンのハイブリッド式といった旧式エンジンを採用している。そのため、ジェネレーターの出力不足からビーム兵器の搭載は見送られ、実弾兵器の火砲のみが搭載されることになった。

## キャタピラ

開発当初は技術的な問題はもちろん、二足歩行の信頼度そのものが低かったため、移動ユニットにはキャタピラが採用されることになった。最高時速は70kmと、MSと比べて決して速い機体ではなかったが、あらゆる地形への対応能力は非常に高く評価された。

### ワンポイント コラム

## ガンダム用特殊兵器

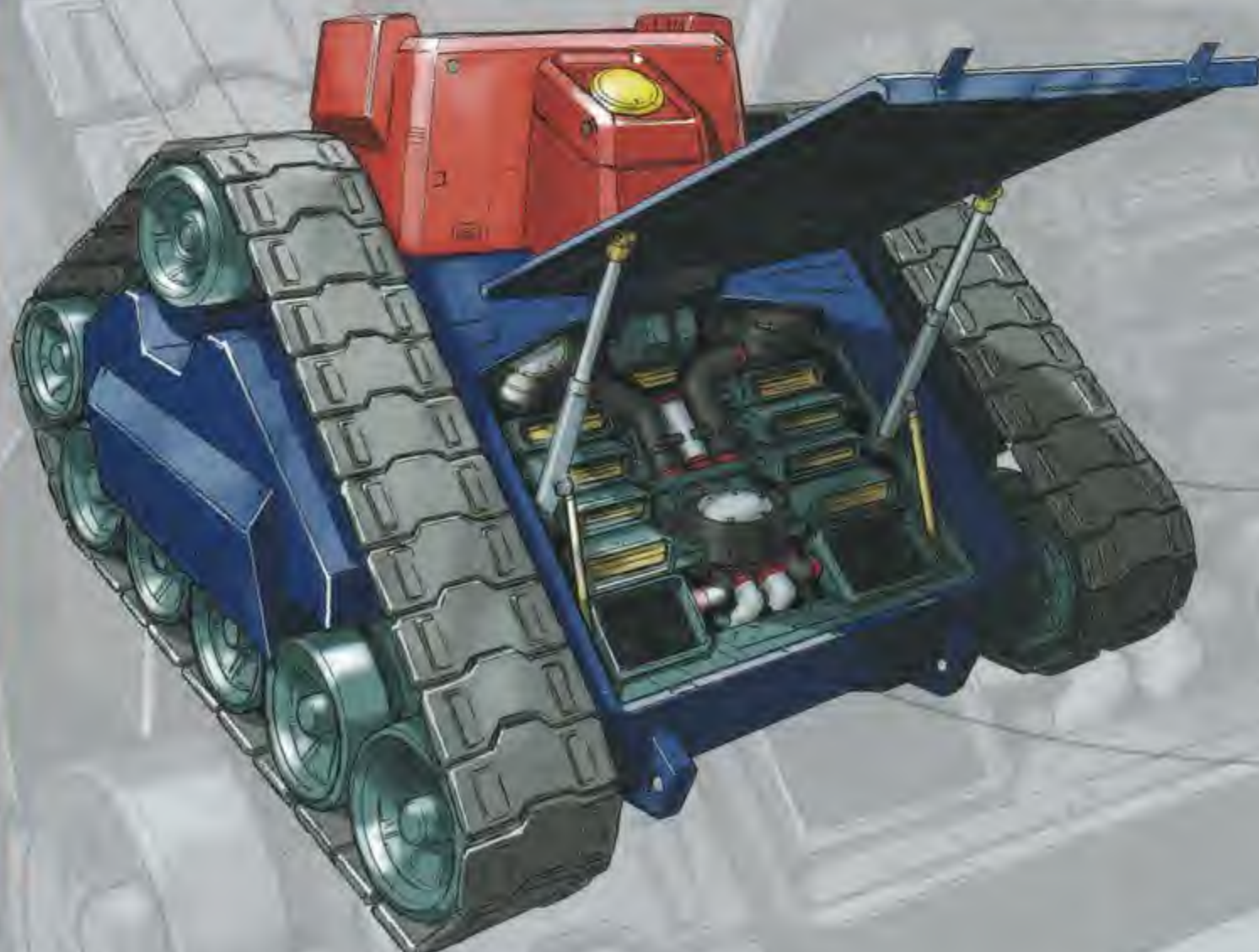
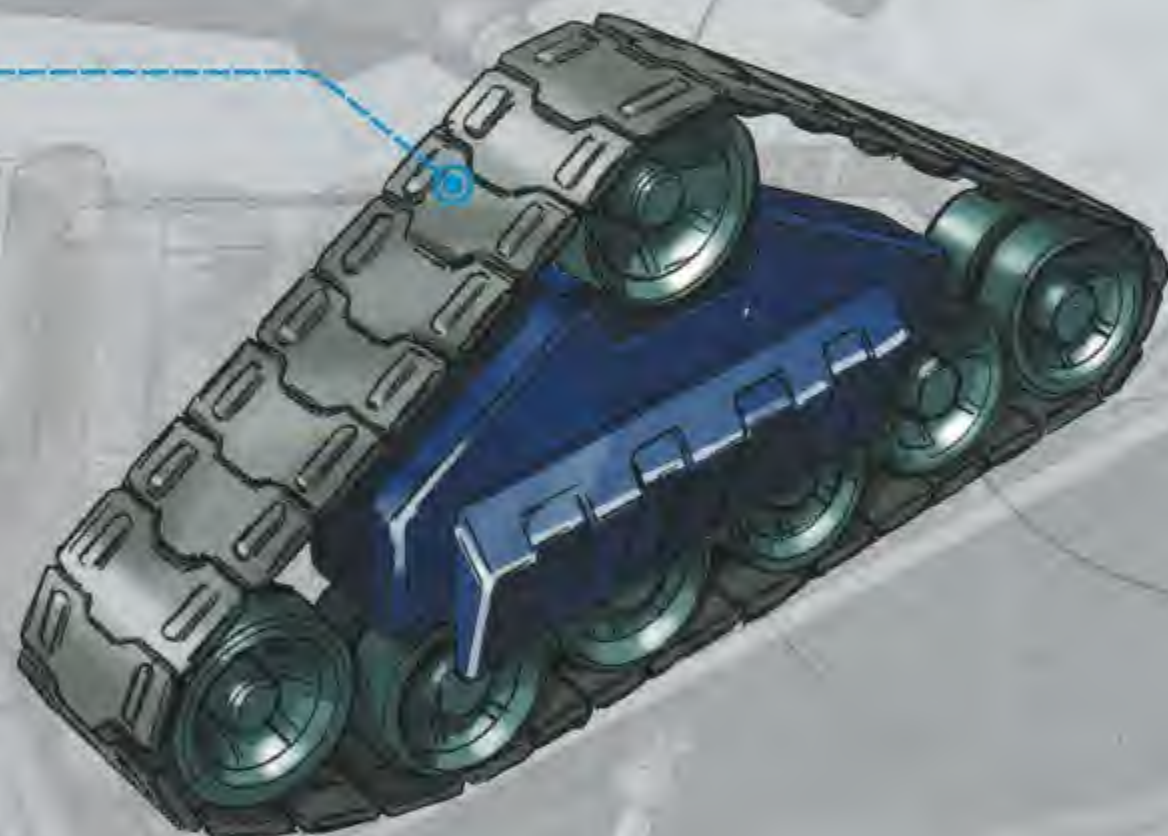
RX-75は実戦投入時、ふたりのパイロットが頭部と腹部のコクピットに乗り込んで操縦していた。しかし、腹部コクピットを担当していたリュウ・ホセイが戦死。その後は頭部コクピットのみで操縦を行うことになった。また、ジャブローに到着した際、前線が宇宙へ移行することもあり、RX-75は降ろされ、代わりにRX-77-2が導入された。

機に体当たりを試み、リウは帰らぬ人になった。



# TANK UNIT

■タンクユニット





# HIGH GRADE UNIVERSAL CENTURY RX-75 GUNTANK

■バンダイ ■発売中 ■840円(税込)

カトキハジメ氏によるリファイン設定に基づいて立体化された1/144モデル。RX-75のプラモデルは少ないため、貴重なモデルであることは間違いない。パーツが6色に多色成形されているため、彩色せずに組み立てるだけでも設定色どおりの仕上がりを楽しむことができる。

▲左右のキャノン砲は自由に動かすことが可能。長距離支援MSならではの、迫力の砲撃シーンを再現可能だ。

▲オーブントップ型のコクピットには、クリアパーツを採用。内部にはパイロットの姿が。

▲リファイン設定に基づいたモデルのため、やや洗練されたデザインになっている。各部のディテールも実に細かく、この機体の大きな特徴であるキャタピラ部分の機構も忠実に再現。他の機体にはない独特な重量感があふれている。

▲キャタピラ部には接着、塗装ができる特殊な軟質素材を採用することで、機構のみならず質感までもリアルに再現している。



# 部隊編制の基盤となる 量産型MS

一年戦争後期における地球連邦の部隊編制の基盤として、RB-79とともに活躍した量産型MS。RX-78-2の戦闘データを基に作られただけであり、ポテンシャルが非常に高い機体でさまざまなバリエーションを生み出していった。

## SPEC DATA

所属：地球連邦  
頭頂高：18.0m 本体重量：41.2t  
ジェネレーター出力：1250kW  
スラスター推力：5万5500kg

最強のMSのデータを基に  
本格量産された機体

そもそも量産機の開発はRX-78の開発と並行して進められていた。試験的に何機か完成し実戦配備されていたが、最終的にはそれらは量産化されず、RX-78をベースとした量産機の開発という本来の生産計画に準じ、RGM-79という機体が完成したのだ。

## PILOT

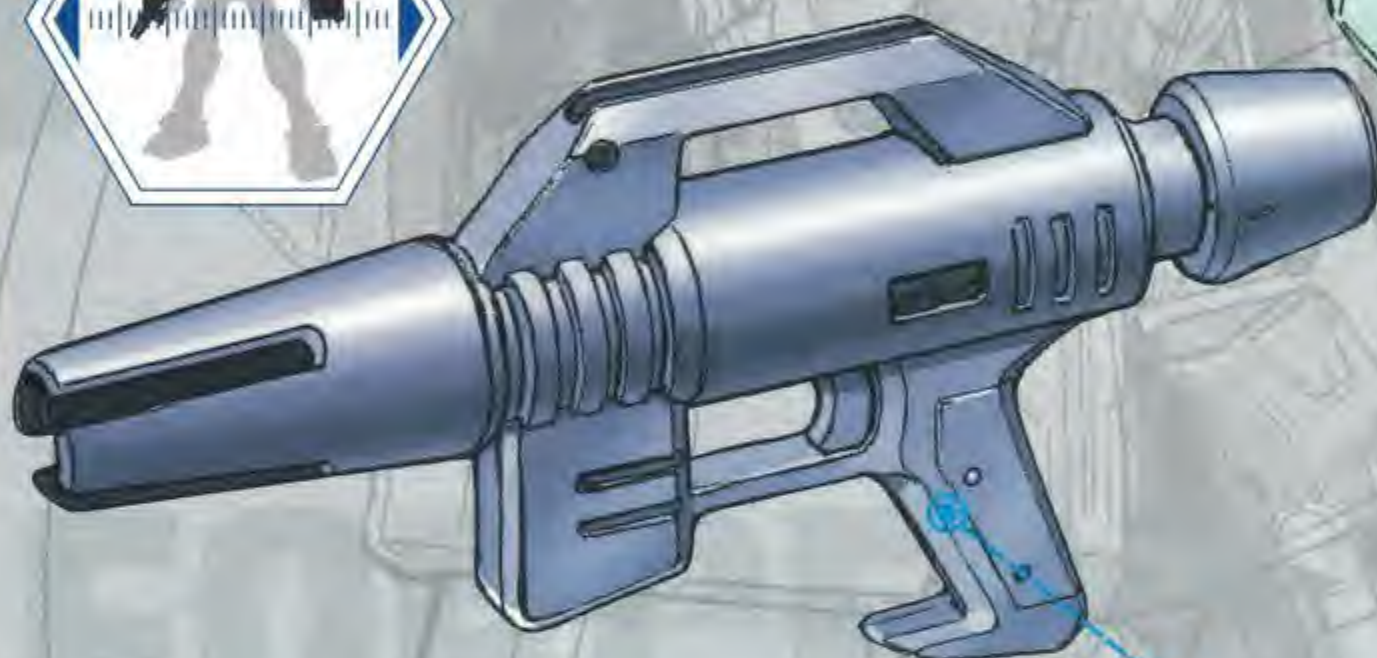
パイロット  
地球連邦パイロット

開戦当初の戦闘で多くの正規パイロットを失っていたこと

もあり、RGM-79のパイロットには士官候補生や予備役の登用も余儀なくされた。なかには戦闘経験がない者もいたという。

# WEAPON

■ウェポン



# ARM+UNIT LEG+UNIT

■アームユニット

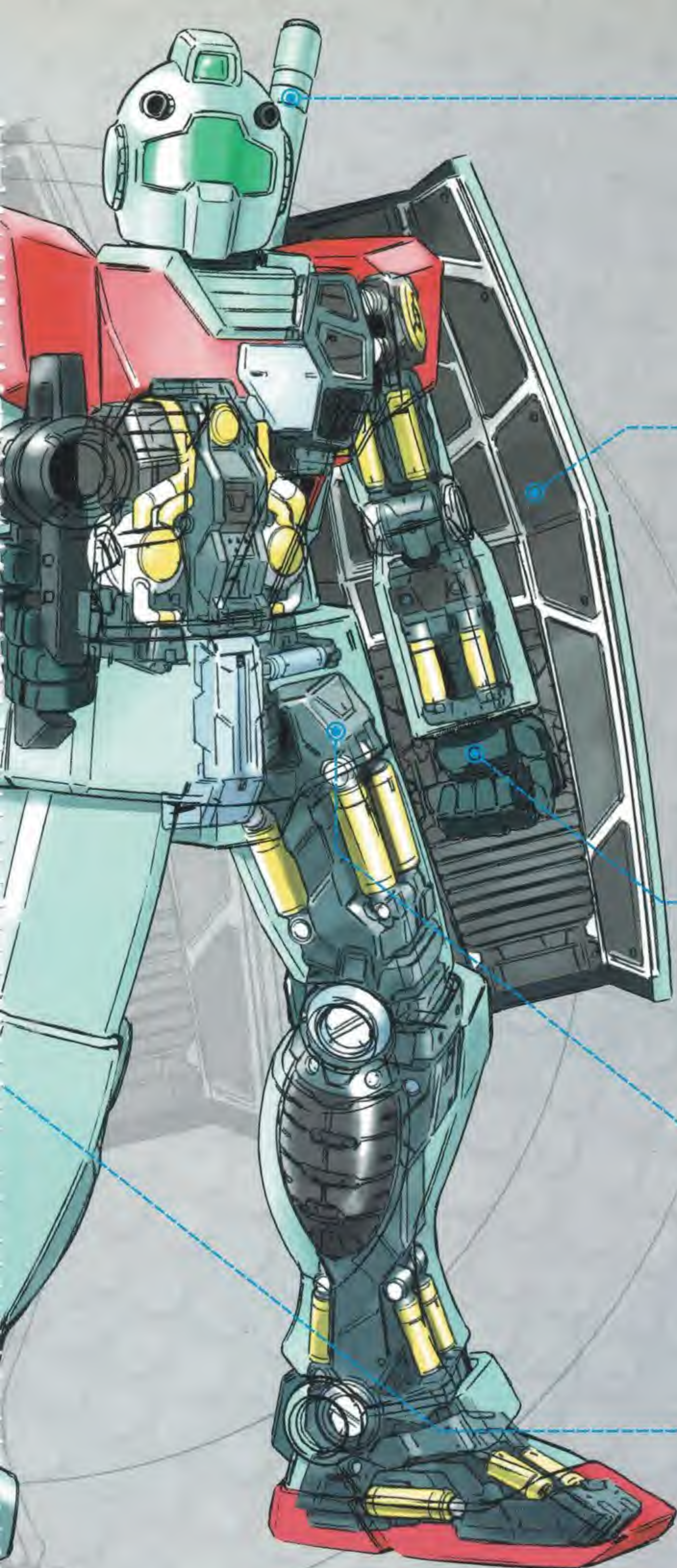
■レッグユニット



アール ジー エム  
**RGM-79**  
**GM**  
—ジュー—

E. F. SPACE FORCE





## ビーム・サーベル

基本的にはRX-78に搭載されていたものと同様のビーム・サーベルで、手のひらの部分からエネルギー供給を行う仕様になっている。コスト削減はもちろん、RX-78-2の戦闘データから2基を搭載する必要性が見出せなかったため、RGM-79では1基になった。

## シールド

連邦製のMSに標準装備される防御装備で、堅牢さよりも衝撃吸収を目的とした設計が施されている。RXシリーズが使用していたものよりも、防御しやすいようにスライド・ハンドルが一部改善されたほか、腕部に専用のラッチを搭載する機体もあった。

## マニピュレーター

マニピュレーターの構造はRX-78-2の構造をそのまま引き継いでいる。コスト的には決して安いものではないが、ビーム・サーベルやビーム・スプレーガンといったマニピュレーターの細かな動作を必要とする武器を携行するうえでは、欠かすことができない。

## 機体の軽量化

投入する環境をあらかじめ選択することで余分な装備、パーツを排除し徹底した軽量化が施されている。これは不要物の排除によるコスト削減のほか、軽装甲であるがため機動性をアップし、敵の攻撃を受け止めずに回避する戦法を前提としているからでもある。

## ビーム・スプレーガン

ビーム・ライフルと比べて射程が短く貫通力も劣ってしまうが、近距離では同レベルの破壊力を発揮する主要兵器。多くの機体には右腰部に専用のラッチが設けられている。なかには長時間を要するが、ラッチにエネルギーの充填機能を備えたものも存在する。



## メイン・カメラ

メイン・カメラは頭頂部、人間の目にあたる部分にはデュアル・タイプの光学端末が搭載されている。頭部はRX-78と同様にセンサーの集合体であり、構造もほぼそのままだが、各種のデバイスやセンサー類は機能を維持したまま小型化に成功している。

## 60mmバルカン砲

近接武装として有効とされたバルカン砲は、ユニット自体はそのままの仕様であるが、頭部のスペースを生かして装弾数が増量されている。ビーム・スプレーガンの性能上、近接戦闘を行うことが多い機体であるため、装弾数の増量は非常に効果的であった。

## チタン系合金

RXシリーズに採用されていたルナ・チタニウム合金製の装甲はコスト面で見送られ、RGM-79にはチタン系合金を使用した装甲が採用された。軽量ではあるものの耐弾性はあまり高くはなく、戦闘中に攻撃が直撃して一撃で大破する機体も少なくなかった。

## ジェネレーター

ジェネレーター出力はRX-78-2よりもやや低いだが、投入環境を限定して使用する量産機としては十分であった。コア・ブロック・システムが排除されており、ジェネレーターは胴部に単独で設置。脚部にも歩行補助用の小型ジェネレーターが内蔵されている。

## コクピット・ブロック

コクピット・ブロックは構造的にはコア・ブロックを参考に設計されており、ブロックの換装だけで宇宙用、もしくは地上用に特化することが可能。また操縦系統は、パイロットの配置転換をスムーズに行えるように、航空機や航宙機に近いものになっている。

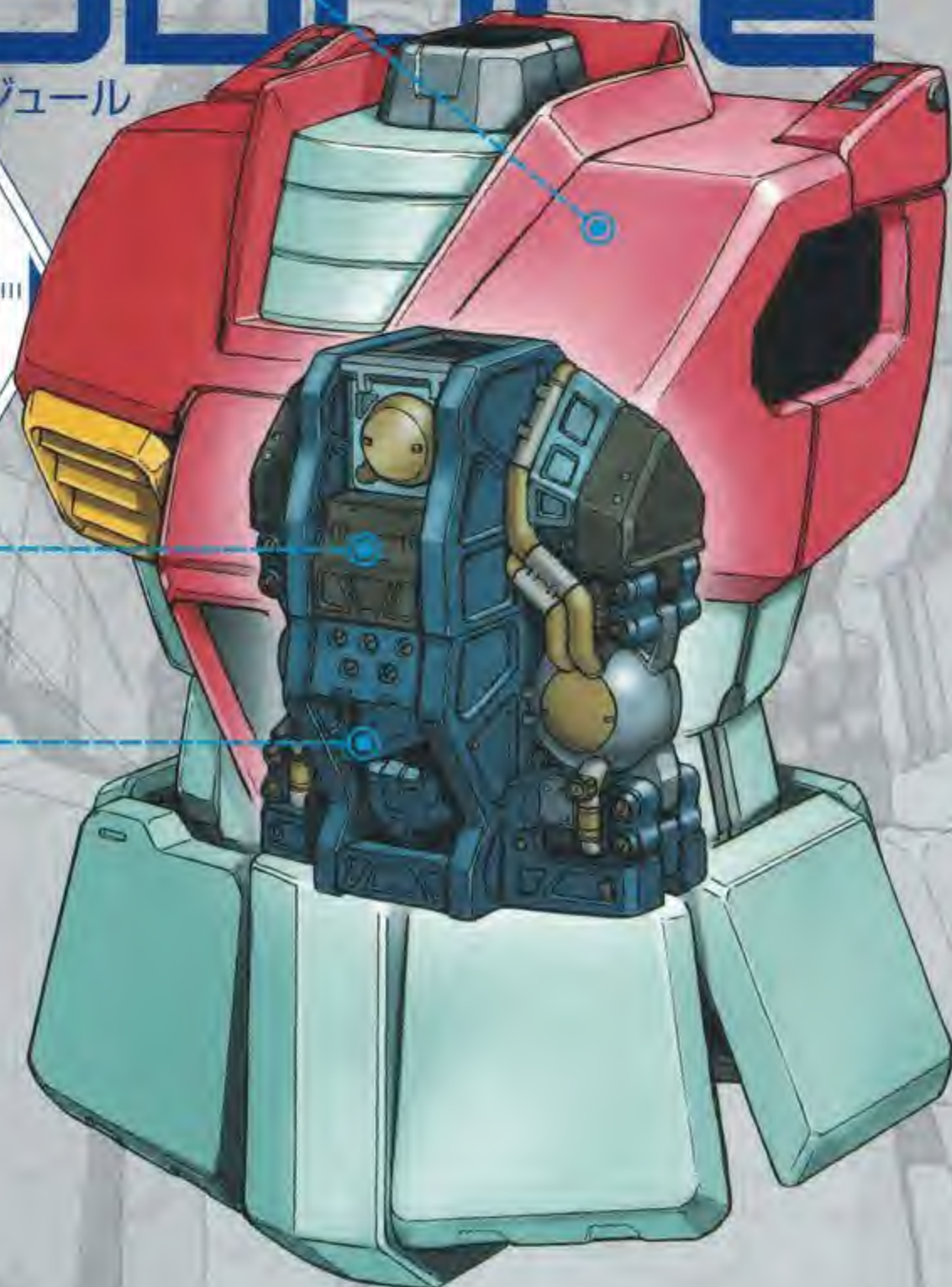
# HEAD UNIT

ヘッドユニット



# BODY MODULE

ボディーモジュール





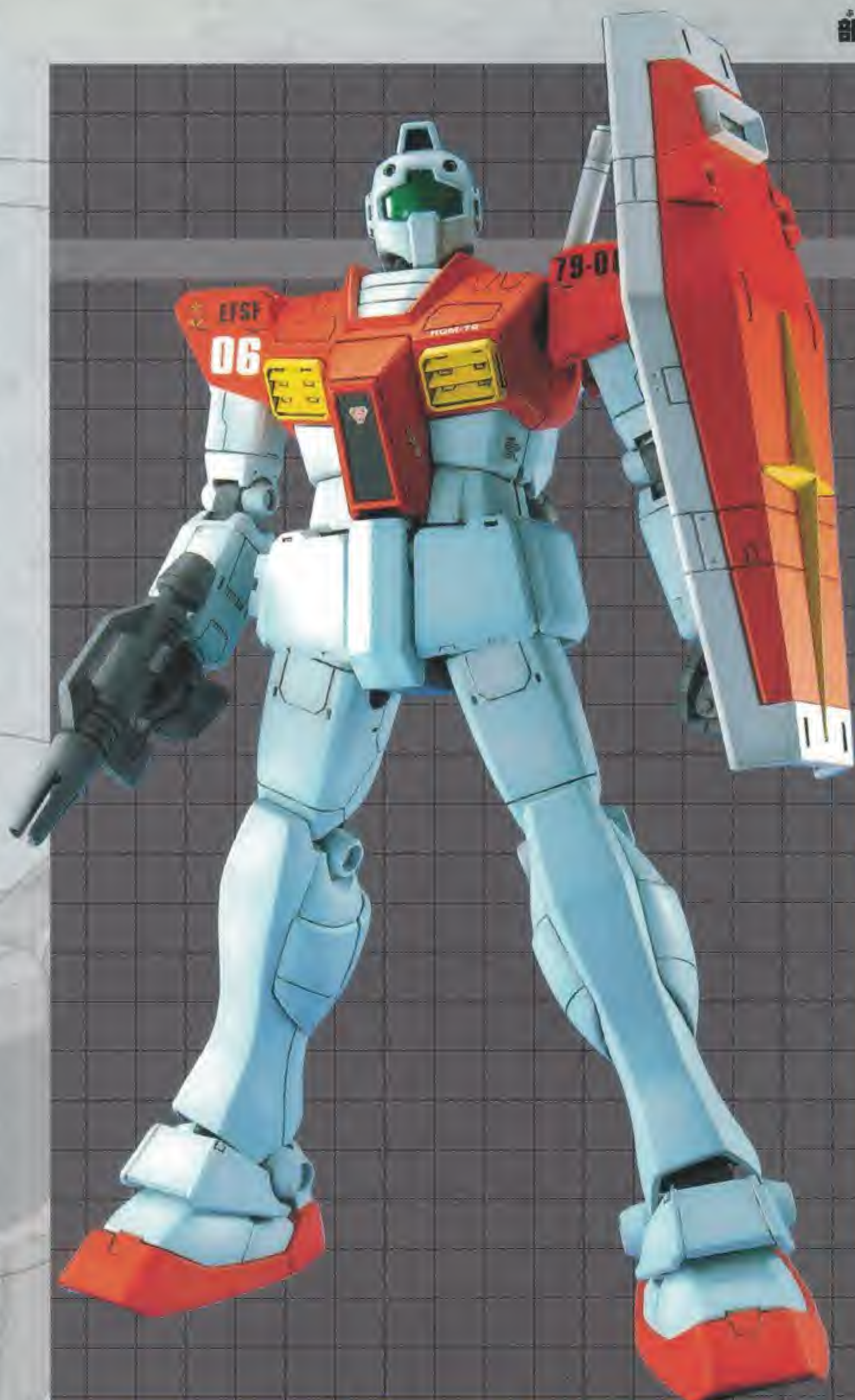
# MASTER GRADE アールジーエム ジム RGM-79 GM

■バンダイ ■発売中 ■2625円(税込)

細部に渡って、機体設定に沿ったさまざまなギミックを楽しむことができるRGM-79の最高峰モデル。ランドセル用のオプションが豊富で、バリエーション豊かな機体に仕上げるのが可能だ。ビーム・スプレーガンなど、主要兵装がすべて同梱されている。

◀コクピット・ハッチは、メンテナンス・ハッチを兼ねているため、開くと周辺のメカも露出する仕組みになっている。

◀腰の腰部分には姿勢制御用のバーニアが内蔵されている。ここまで開いた状態で確認できるのは、プラモデルならでは。



▲腰のラッチにはビーム・スプレーガンを装着することも。多彩な兵装および手パーツが用意されているので、思い通りのポーズやシチュエーションを楽しめるのがうれしい。



▲バックパックにアタッチメントユニットを装着することでバズーカの装備が可能。また、腕部のマウント・ラッチも完全再現している。



# きよ てん こう りやく かつ やく 拠点攻略で活躍した りょう さん がた し えん き 量産型支援機

いねんせんそうまつきに てんかい  
一年戦争末期に展開された、ソ  
ロモンおよびア・バオア・クー攻  
略戦で1200機以上が参戦。RG  
M-79とともに期待どおりの戦果  
を挙げた量産機。単体での戦闘能  
力は決して高くはないが、支援機  
としてMS部隊の構築に活躍した。

## SPEC DATA

所属：地球連邦

全高：12.8m 本体重量：17.2t

ジェネレーター出力：400kW

スラスタースタ推力：—

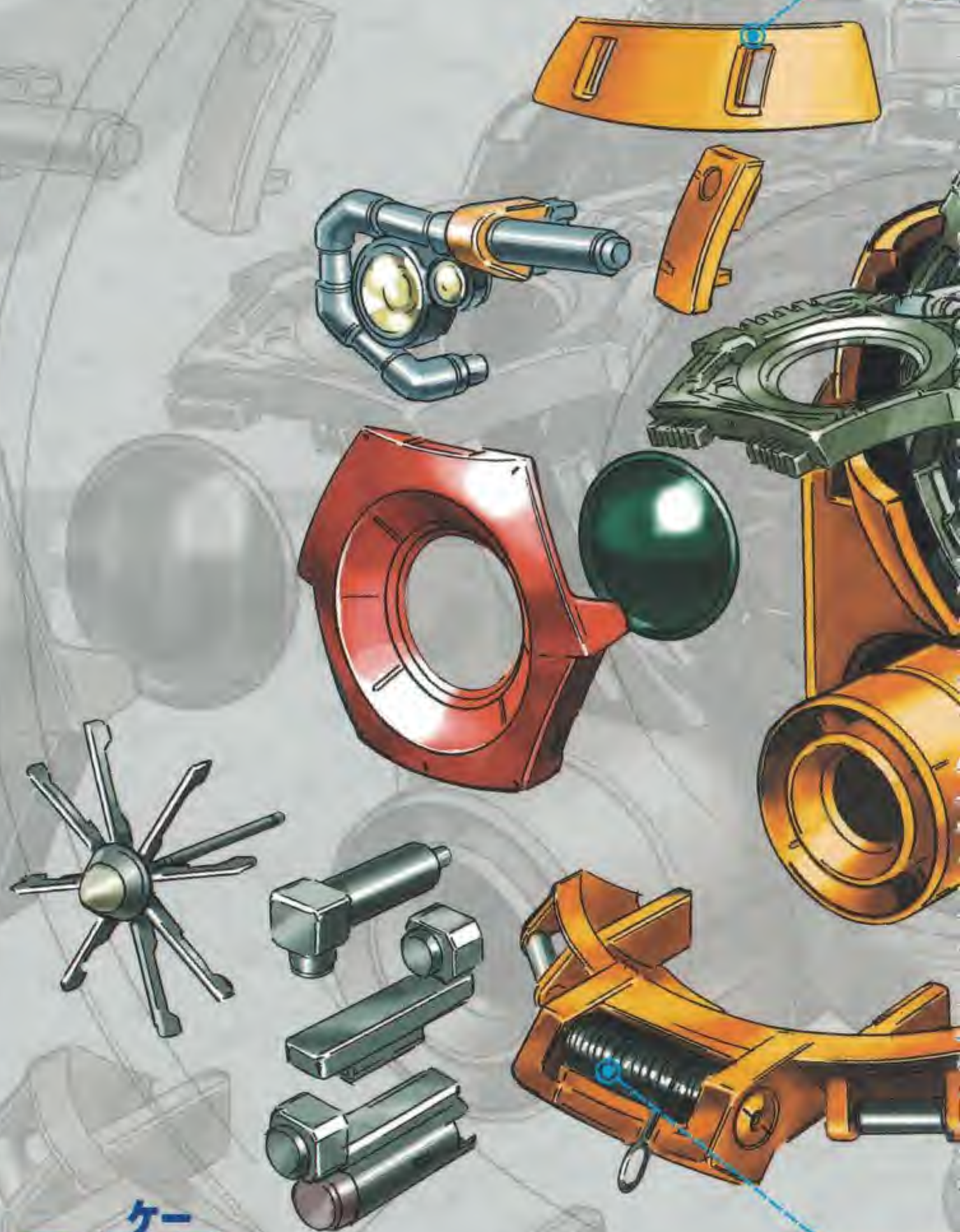
アールジーエム  
RGM-79のスペック不足が  
開発に至った大きな要因

地球連邦は量産型MSとしてRGM-79を開発したが、最初に作られた機体の性能は、予定のスペックに達していなかった。そこで、以前より宇宙空間での作業用として使用されていた機体を兵器化。RGM-79の支援機としてRB-79Kが誕生した。

PILOT パイロット  
シロー・アマダ



たまたま遭遇した  
戦闘で、自軍のMS  
を助けるべく輸送艇  
に搭載されていたRB-79Kで出撃。相打  
ちではあるが、遥かに凌ぐ性能を持つMS-  
06RD-4高機動試験型ザクを撃破した。

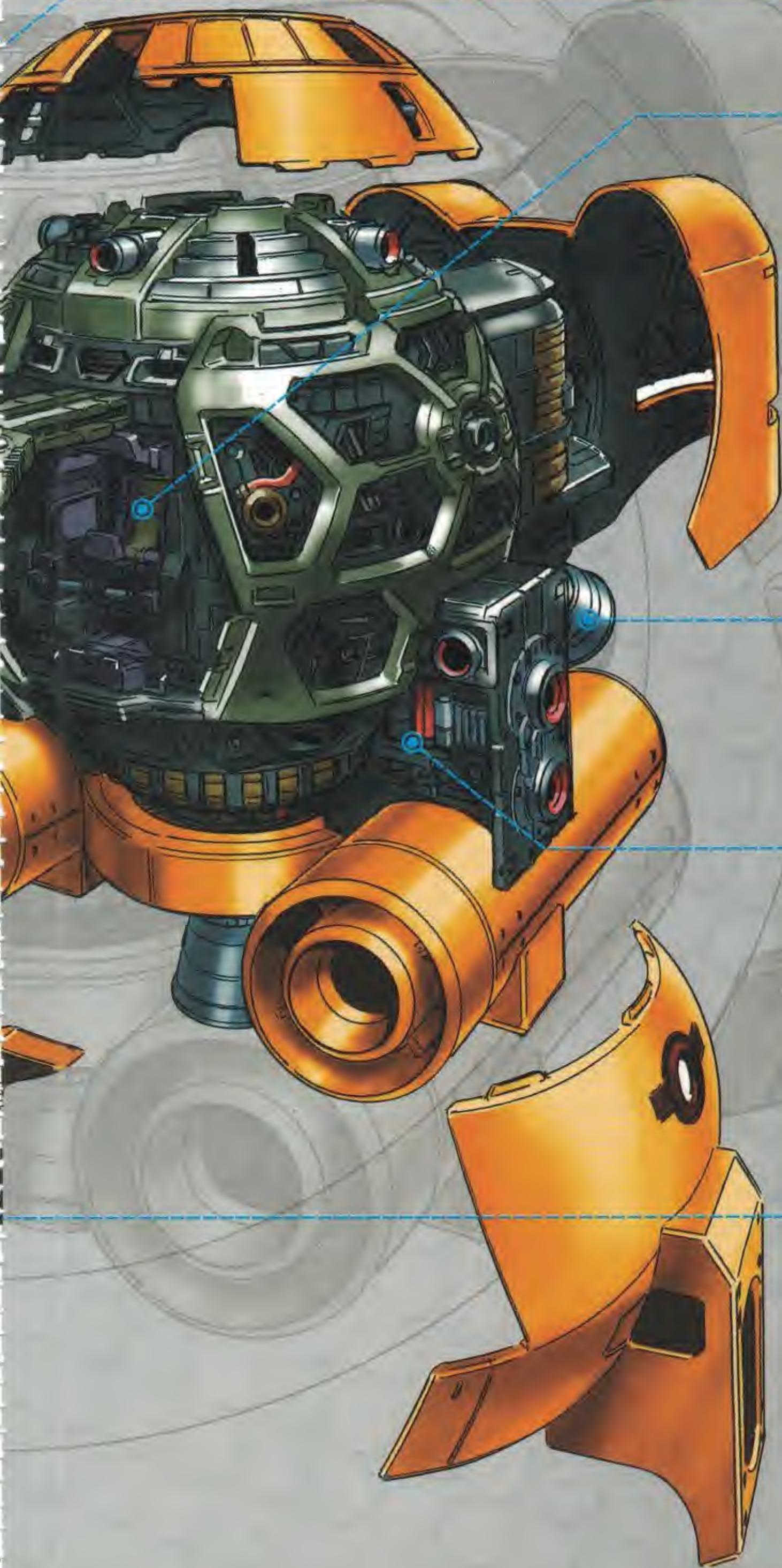


アール ビー ケー  
E.F. SPACE FORCE **RB-79K**  
**BALL** —ボール—



■ボディーモジュール

# BODY MODULE



## けい ごう きん チタン系合金

装甲材は、量産化に伴うコストの関係上RGM-79と同様のチタン系合金を採用。バルカン砲程度であれば、直撃されても戦闘不能になるほどの損傷を受けることはなかった。そもそも重装甲を施して機体重量が増加してしまうと運用に支障をきたす恐れがある。

## コクピット

民生品の作業用機体を兵器化する際に、まず重視されたのがコクピット回りの改良である。コクピットブロックや生命維持装置、制御機器などはほぼ流用されているが、生存率を向上させるため、周辺をトランスフレーム構造で覆って戦闘レベルまで強化している。

## こう き どう 高機動バーニア

改良によって機体重量が増加したぶん、機動性の保持のために高機動バーニアを搭載。姿勢制御は機体各所に設けられたサブスラスターで行う。これらには、一種の指向性爆薬に近い固形燃料ペレットを爆発的に燃焼させることで、瞬間的に大推力を発生させる。

## ねん りょう てん ち 燃料電池

主電源装置には400kWの燃料電池が使用されている。MSと比べると低出力ではあるが、後方支援を想定した機体のため、高性能なジェネレーターは必要とされなかった。また、基礎フレームの流用が前提のため、ジェネレーターの大型化が不可能でもあった。

## ウインチ

初期生産されたRB-79Kは、作業用のウインチが残されたままの状態であった。これはアンカーの交換によってさまざまな用途に使用できるため、戦場での使い道も模索されたが、結果的に後に生産された機体には採用されることはなかった。



## マニピュレーター

既存の作業機器の同等品で構成されており、地球連邦製のMSが標準仕様としているフィールドモーターは採用されていない。パイロットが直接目視とモニターカメラを併用して操縦する仕組みで、自機を母艦に固定したり僚機に武装を渡す際に使用された。

## サブアーム

より大きな荷物の運搬が行えるように、マニピュレーターには補助アームが追加装備されている。ただし、初期生産されたRB-79Kの大半がこれを装備していたものの、コストなどの都合上本格量産された時期の機体ではオミットされている場合が多かった。

## フィフティーンキャリバー

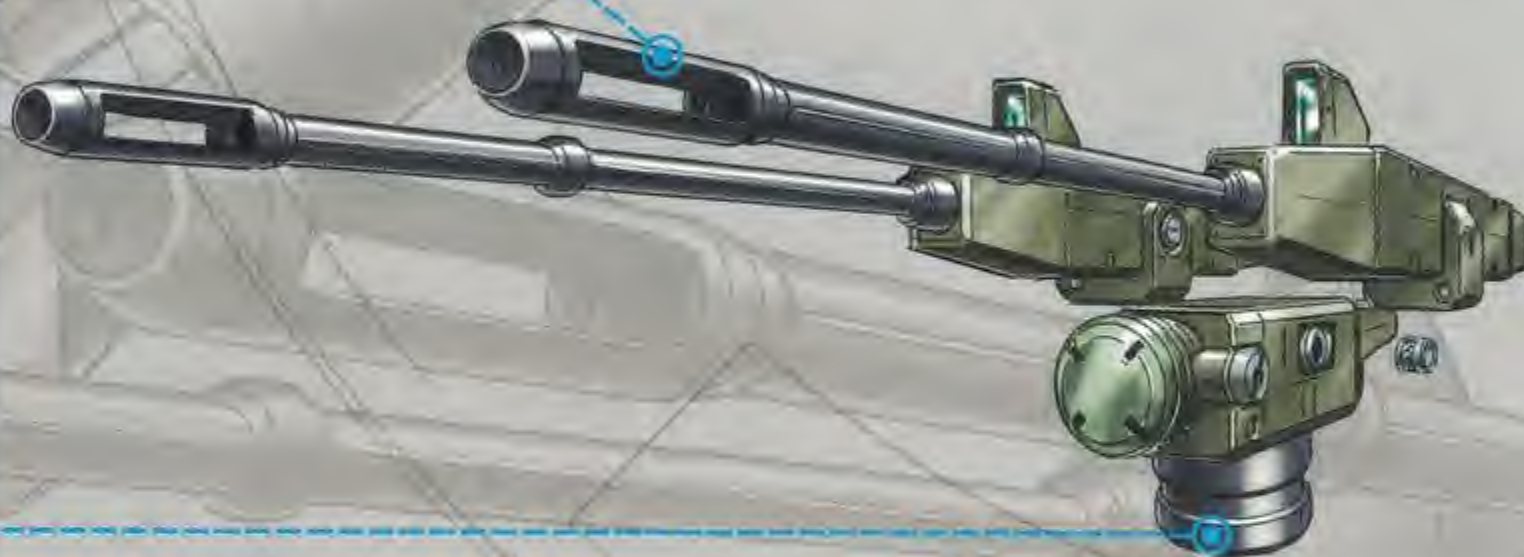
初期生産型であるRB-79Kは、試作機として運用されていたため武装も多種多様であった。もっとも多く装備されたのが、フィフティーンキャリバーと呼ばれる2連装のキャノン砲で、輸送艦の護衛機に採用されていた。零距离射撃も可能であったと言われる。

## 低反動180mmキャノン砲

RGM-79の支援という運用目的から、本格量産された機体には、基本的に低反動180mmキャノン砲が搭載されることになった。これはRX-75の運用データをもとに選出された兵装で、対MS用としても実に有能であった。ちなみに装弾数は21発だ。



ARM  
UNIT  
■アームユニット



■ウェポン

WEAPON



# MASTER GRADE RB-79 BALL(Ver.Ka)

■バンダイ ■発売中 ■2100円(税込)

メカデザイナーとして知られるカトキハジメ氏の監修で、ディテールをより精密に再現したマスターグレードモデル。稼動アーム基部の関節カバーなどには軟質パーツを使用し、リアルな質感を表現。精密感を演出するため、アーム先端には極細のリード線を使用している。



▲各クローの稼動はもちろん、展開式のサブアームの装着も可能。見た目だけではなく、動きの面での徹底再現も実現している。



▲コクピットは開閉式になっており、パイロットの搭乗風景を楽しむことが可能。内部のメカニクも細部までこだわっている。



▲コアフレームの上にトラスフレームを左右から抱え込む、二重構造の内部フレームも完璧に再現している。



▲整備ドックをイメージした、専用ディスプレイスタンドやメカニククルーのフィギュアが付属。戦闘準備のシーンを演出することが可能だ。





エス シー ブイ  
SCV-70

E.F. SPACE FORCE

—ホワイトベース—

WHITE BASE

いち ねん せん そう さい だい しゅ くん かん  
一年戦争最大の殊勲艦

SPEC DATA

所属：地球連邦  
全高：93.0m 本体重量：3万2000t  
最高出力：55万馬力  
最高速度：マッハ12

PILOT

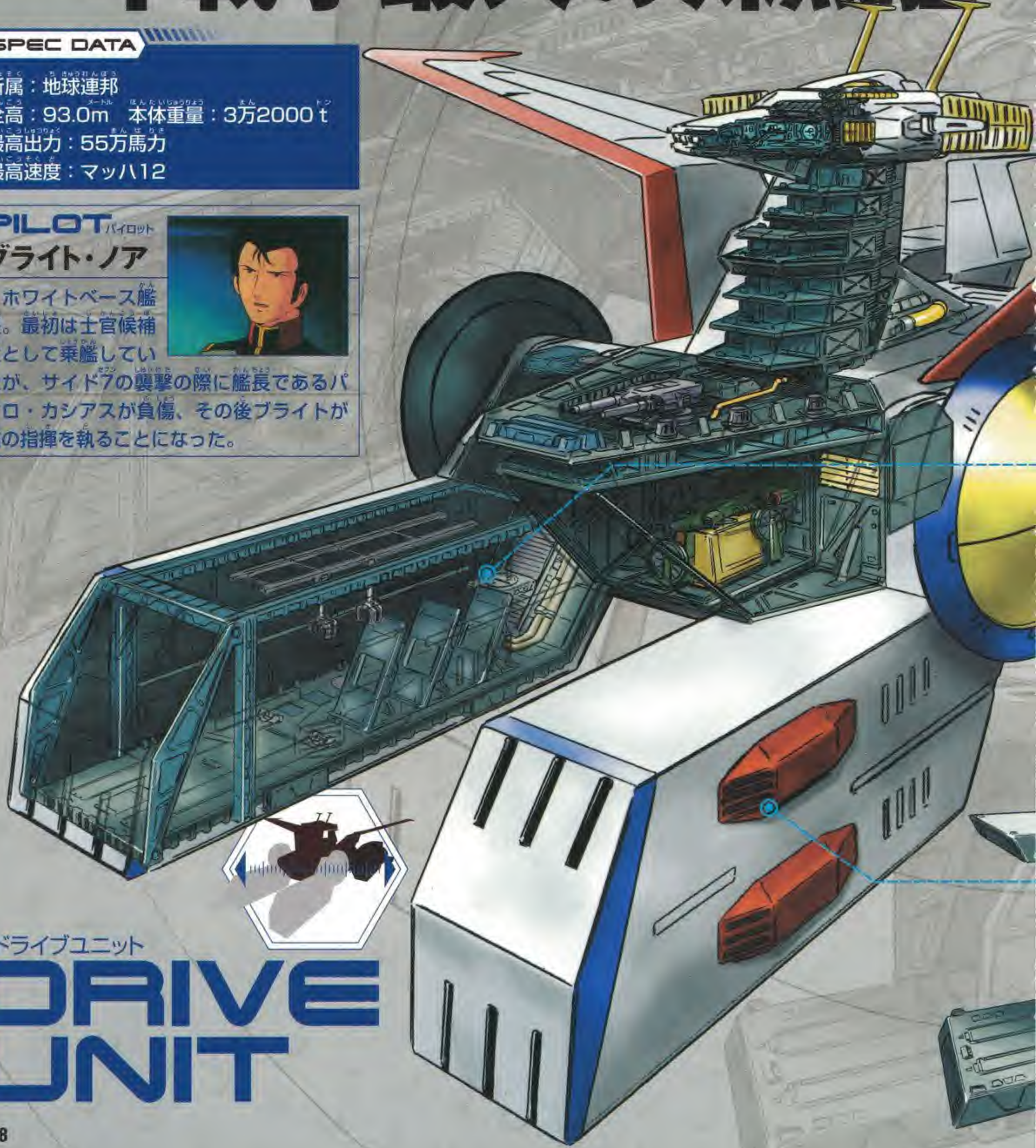
パイロット  
ブライト・ノア



ホワイトベース艦長。最初は士官候補生として乗艦していたが、サイド7の襲撃の際に艦長であるパオロ・カシアスが負傷、その後ブライトが艦の指揮を執ることになった。

ドライブユニット

DRIVE UNIT





# SCV-70 WHITE BASE

## 一年戦争最大の殊勲艦

### SPEC DATA

所属：地球連邦  
全高：93.0m 本体重量：3万2000t  
最高出力：55万馬力  
最高速度：マッハ12

### PILOT ブライト・ノア

ホワイトベース艦長。最初は士官候補生として乗艦していたが、サイド7の襲撃の際に艦長であるバオロ・カシアスが負傷。その後ブライトが艦の指揮を執ることになった。

### ドライブユニット DRIVE UNIT

RXシリーズの搭載を前提に開発された、地球連邦のホワイトベース級強襲揚陸艦。ジオン公国の襲撃を逃れるべくサイド7から出撃して以来、歴戦の兵たちの攻撃にさらされるが、決戦の地、ア・バオア・クーにたどり着くまで撃沈されることなく戦い続けた。

### 地球連邦初のMS搭載能力を持つ宇宙艦

ホワイトベースの開発は、一年戦争開戦前からすでに始まっていた。とはいえ、当初は戦艦を目的とした宇宙艦としての開発であり、戦闘機の搭載が予定されていた。しかし、V作戦の発動でMSの運用を目的とした艦に改修され、サイド7にMSを受け取りに行った際に、ジオン公国の襲撃を受けてしまう。

### 後部ミサイル発射装置

左右のリアウイングには、後方攻撃用のミサイル発射装置を3門ずつ搭載。エンジン部を狙ってくる敵機の迎撃に活躍する。また、ミサイル対策としてホーミング機能が搭載されているため、ある程度の範囲であればミサイルを自動追尾で破壊可能だ。

### エンジンナセル

本艦の大きな特徴として、全体がブロック構造で構築されている点が挙げられる。このエンジンナセル部分も同様で、損害を受けた際に他所へ被害が広がる前に分離することが可能。主要エンジンが片側だけになってしまうが、分離後も航行を続けることができる。

### 第1デッキ&第2デッキ

第1、第2デッキはRXシリーズの換装システムが備わった格納庫となっており、出撃時は直接ここから発進することが多い。左右のデッキがまるで木馬が前脚を伸ばしているように見えるため、ジオン公国はホワイトベースのことを「木馬」と呼称していた。

### 2連装メガ粒子砲

両サイドの装甲部に内蔵された2連装メガ粒子砲で、ジャブローに到着した際に構連装から縦連装に換装された。開閉式で、航行時には内部に収納する構造になっている。また、旋回式砲台を使用しているため側面はもちろん、後方への攻撃にも使用できる。

### ミサイル発射装置

第1、第2デッキの側面にはそれぞれ12門ずつミサイル発射装置が設けられている。これらは単に前方攻撃用としてだけではなく、MSが出撃する際に敵機を近づけないための支援用としても活躍。固定砲台のため、あまり細かな照準調整を行うことはできない。





アールエックス  
RXシリーズの搭載を前提に開発された、地球連邦  
のホワイトベース級強襲揚陸艦。ジオン公国の襲撃を  
逃れるべくサイド7から出撃して以来、歴戦の兵たち  
の攻撃にさらされるが、決戦の地、ア・バオア・クー  
にたどり着くまで撃沈されることなく戦い続けた。

## 地球連邦初のMS搭載能力を持つ宇宙艦

ホワイトベースの開発は、一年戦争開戦前からすでに始まっ  
ていた。とはいえ、当初は戦闘を目的とした宇宙艦としての  
開発であり、戦闘機の艦載が予定されていた。しかし、V作戦  
の発動でMSの運用を目的とした艦に改修され、サイド7にM  
Sを受け取りに行った際に、ジオン公国の襲撃を受けてしまう。



## 後部ミサイル発射装置

左右のリアウイングには、後方攻撃用  
のミサイル発射装置を3門ずつ搭載。  
エンジン部を狙ってくる敵機の迎撃に  
活躍する。また、ミサイル対策としてホ  
ーミング機能が搭載されているため、あ  
る程度の範囲であればミサイルを自動追  
尾で破壊可能だ。

## エンジンナセル

本艦の大きな特徴として、全体がブ  
ロック構造で構築されている点が挙げ  
られる。このエンジンナセル部分も同様  
で、損害を受けた際に他所へ被害が  
広がる前に分離することが可能。主要  
エンジンが片側だけになってしまうが、  
分離後も航行を続けることができる。

## 第1デッキ&第2デッキ

第1、第2デッキはRXシリーズの  
換装システムが備わった格納庫となっ  
ており、出撃時は直接ここから発進す  
ることが多い。左右のデッキがまるで  
木馬が前脚を伸ばしているように見え  
るため、ジオン公国はホワイトベース  
のことを“木馬”と呼称していた。

## 2連装メガ粒子砲

両サイドの装甲部に内蔵された2連装  
メガ粒子砲で、ジャブローに到着し  
た際に横連装から縦連装に換装された。  
開閉式で、航行時には内部に収納する  
構造になっている。また、旋回式砲台  
を使用しているため側面はもちろん、  
後方への攻撃にも使用できる。

## ミサイル発射装置

第1、第2デッキの側面にはそれぞ  
れ12門ずつミサイル発射装置が設けら  
れている。これらは単に前方攻撃用と  
してだけではなく、MSが出撃する際  
に敵機を近づけないための支援用とし  
ても活躍。固定砲台のため、あまり細  
かな照準調整を行うことはできない。



## メインブリッジ

操艦や通信、策敵など、多様な機能が備わった艦の中核。ミノフスキー粒子散布下での運用を前提に開発されたため、大型の窓を採用して目視での索敵能力を高めている。また、メインブリッジ後方のスペースには、各種コンピュータやセンサーが収納されている。

## 居住ブロック

各クルーの私室があるブロック。無重力圏では、コロニーのように居住ブロック自体が回転して重力を発生させるため、重力圏と同様の感覚で生活することができる。艦の両サイドに円形の装甲が設けられているのは、この居住ブロックを守るためである。

## 対空機銃座

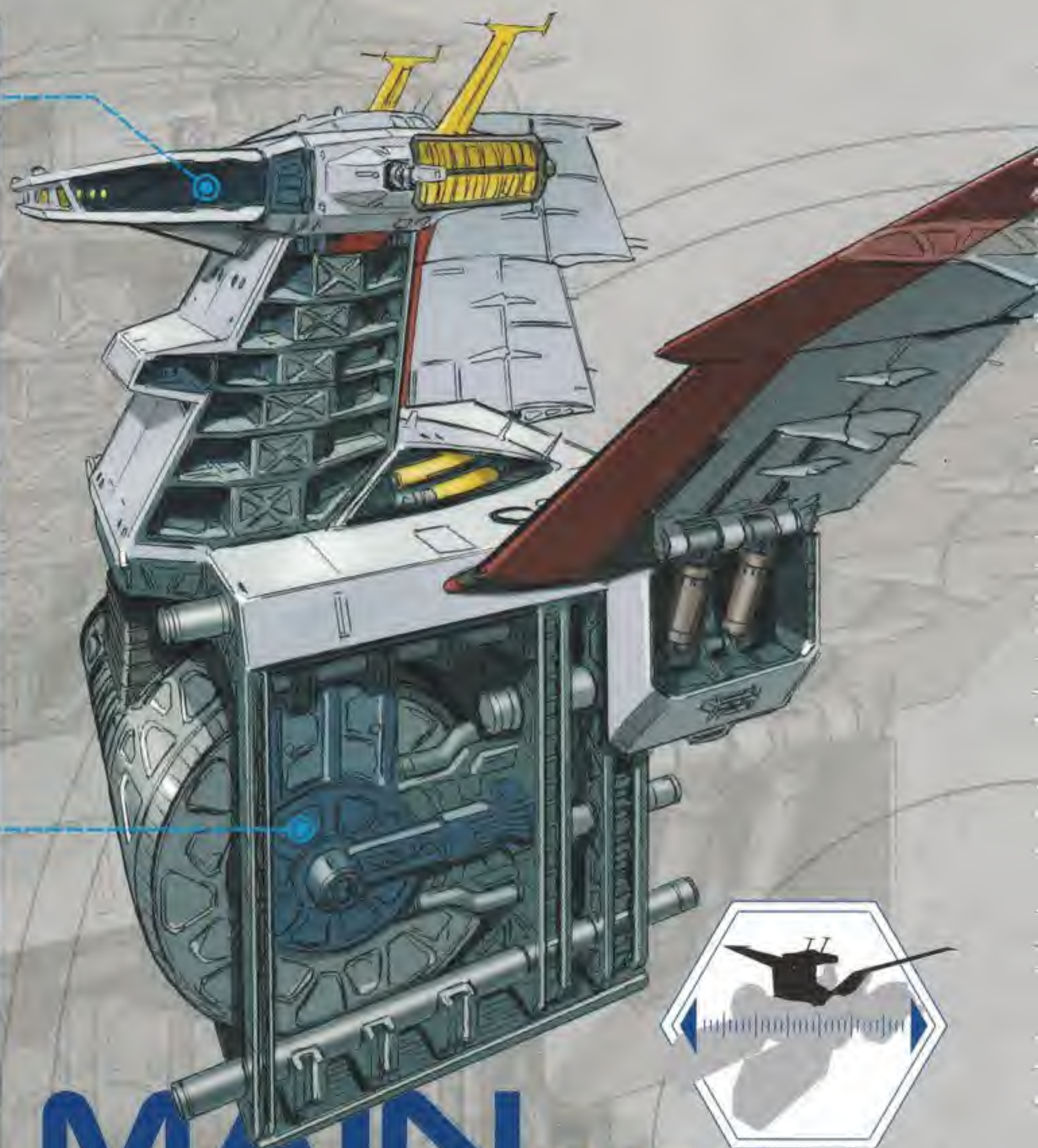
ミノフスキー粒子の影響を受けないことから、手動式の対空機銃座を採用。このほかにも船体底部など、全部で35基以上もの機銃座が設置されている。基本的に対戦闘機用の武装ではあるが、当たりどころによってはMSを撃墜することも不可能ではない。

## 880mm2連装砲

ホワイトベースの主砲で、ザンジバル級の戦艦と十分に渡り合える威力を持つが、メガ粒子砲とは異なり使用時の反動が大きいため、発射時は操艦に十分な注意が必要とされる。詳細は不明だが、弾頭重量は2tにもおよび、地上での射程は約70kmといわれている。

## 第3デッキ

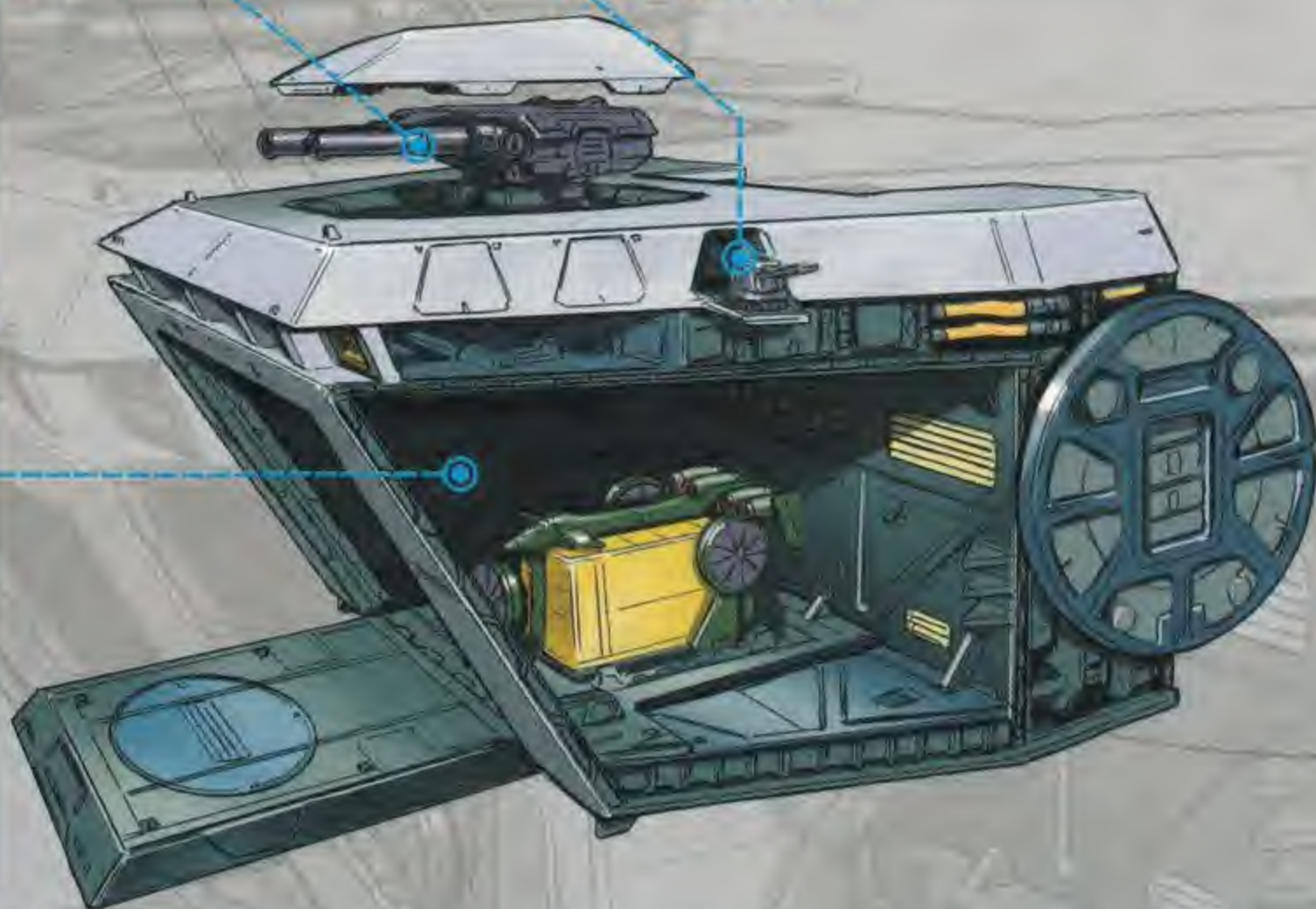
MSの輸送を目的に開発されたガンペリーを収納するデッキ。重要区分に隣接しているため、戦闘時は開閉を行わない。ちなみに、ガンペリーから投下したA・Bパーツとコア・ファイターを空中換装させるという離れ業を、アムロは成功させている。



MAIN  
BRIDGE  
THIRD  
DECK

■メインブリッジ

■第3デッキ





## メインブリッジ

操艦や通信、策敵など、多様な機能が備わった艦の中枢。ミノフスキー粒子散布下での運用を前提に開発されたため、大型の窓を採用して目視での索敵能力を高めている。また、メインブリッジ後方のスペースには、各種コンピュータやセンサーが収納されている。

## 居住ブロック

各クルーの私室があるブロック。無重力圏では、コロニーのように居住ブロック自体が回転して重力を発生させるため、重力圏と同様の感覚で生活することができる。艦の両サイドに円形の装甲が設けられているのは、この居住ブロックを守るためである。

## 対空機銃座

ミノフスキー粒子の影響を受けないことから、手動式の対空機銃座を採用。このほかにも船体底部など、全部で35基以上もの機銃座が設置されている。基本的に対戦艦機用の武装ではあるが、当たりどころによってはMSを撃墜することも不可能ではない。

## 880mm2連装砲

ホワイトベースの主砲で、ザンジバル級の戦艦と十分に渡り合える威力を持つが、メガ粒子砲とは異なり使用時の反動が大きい。発射時は操艦に十分な注意が必要とされる。詳細は不明だが、弾頭重量は2tにもおよび、地上での射程は約70kmといわれている。

## 第3デッキ

MSの輸送を目的に開発されたガンベリーを収納するデッキ。重要区分に隣接しているため、戦闘時は開閉を行わない。ちなみに、ガンベリーから投下したA・Bパーツとコア・ファイターを空中換装させるという離れ業を、アムロは成功させている。



MAIN BRIDGE  
THIRD DECK

メインブリッジ

第3デッキ

専用のディスプレイスタンドが付属する、1/1700のホワイトベースのモデル。各種ギミックを箱説式パーツで再現しており、劇中のさまざまなシーンを再現することが可能だ。一年戦争を象徴する戦艦だけに、ファンは手に入れておきたい。

イメージモデル  
EX MODEL

エスシーブイ ホワイトベース  
SCV-70 WHITE BASE

■バンダイ ■発売中 ■3990円(税込)

◀船体外装のディテールも実に細かい。1/1700というスケールながらも、その迫力は劇中のものと変わらぬ点である。

◀パーツを差し替えることで各ハッチの展開シーンを演出可能だ。

◀カバールを外すと露出式の主砲が姿を現す。両側の機銃も展開用のパーツが用意されている。

▼側方のメガ粒子砲は、箱説パーツでギミックを再現。さらに前砲台と後砲台の2タイプが付属。



▲スケール感を演出する1/1700サイズの搭載機も付属。ガンキャノンが2機同梱されているので、原作のジャブロー以降のシーンを完璧に演出することが可能だ。また各ドックにはMS収容用のベッドも用意されているので、整備中のシーンなども再現できる。



イーグス モデル  
**EX MODEL**

エスシーブイ ホワイトベース  
**SCV-70 WHITE BASE**

■バンダイ ■発売中 ■3990円(税込)

専用のディスプレイスタンドが付属する、1/1700のホワイトベースのモデル。各種ギミックを着脱式パーツで再現しており、劇中のさまざまなシーンを再現することが可能だ。一年戦争を象徴する戦艦だけに、ファンは手に入れておきたい。

◀船体外装のディテールも実に細かい。1/1700というスケールながらも、その迫力は劇中のものと変わらず満点である。

◀パーツを差し替えることで各ハッチの展開シーンを演出可能だ。

◀カバーを外すと回転式の主砲が姿を現す。両側の機銃も展開用のパーツが用意されている。

▼側方のメガ粒子砲は、着脱パーツでギミックを再現。さらに前期型と後期型の2タイプが付属。

▲スケール感を演出する1/1700サイズの搭載機も付属。ガンキャノンが2機同梱されているので、原作のジャブロー以降のシーンを完璧に演出することが可能だ。また各ドックにはMS収納用のベッドも用意されているので、整備中のシーンなども再現できる。



# ち じょう せん とっ か 地上戦に特化した りょう さん がた 量産型ガンダム

アール エックス  
RX-78の余剰パーツを流用して量産された陸戦用ガンダム。  
量産機とはいえ、高出力ジェネレーターやルナ・チタニウム合金  
製の装甲など、極めて高い性能を誇る機体で、陸戦での戦闘能力  
だけをとってみれば、アール エックス  
RX-78-2をも上回る可能性を秘めている。

## SPEC DATA

所属：地球連邦

頭頂高：18.0m 本体重量：52.8t

ジェネレーター出力：1350kW

スラスター推力：5万2000kg

ち きゅうじょう げきせん く まも  
地球上での激戦区を守る  
りくせん ぶ たい かなめ  
陸戦部隊の要

MSの量産化が求められるなか、  
RX-78の規格落ちによる余剰パ  
ーツを使って開発された機体が、  
このRX-79[G]である。余剰パ  
ーツをかき集めた機体のため、個体  
ごとに性能が異なり、それを均一  
化するためにリミッターを設置。  
これによりどの機体も、やや性能  
が抑えられた状態で運用された。

PILOT パイロット  
シロー・アマダ



20機ほど開発され  
たRX-79[G]の  
なかで、もっとも有  
名なパイロットといえるのがシロー・アマ  
ダ少尉である。第08MS小隊の隊長として  
同機に搭乗、秘密基地攻略などで活躍した。

アール エックス  
★ RX-79[G]  
E.F. SPACE FORCE  
GUNDAM

りく せん がた  
—陸戦型ガンダム—



■ボディーモジュール

# BODY MODULE + HEAD UNIT

■ヘッドユニット



## バックパック

陸戦用に特化した機体のため、バックパックの推進機能は最小限に抑えられ、代わりに武装や各種物資の運搬用にコンテナが装着できる仕様に変更された。補給線の伸び切った前線では、十分な補給を受けられない可能性が高いことから考案されたものである。

## メイン・カメラ

頭頂部のカメラがメイン・カメラとして機能、人間の目の部分のデュアル・カメラが照準精度を高めるための補助カメラとして機能している。またRX-78-2と異なる点としては、左耳にあたる部分に陸戦用に特化したシュノーケル・カメラが内蔵されている。

## コクピットハッチ

コア・ブロック・システムはコストが高いシステムのため、量産機には採用されることはなかった。コクピットは胸部中央に設置されており、運用が重力下に限定されていることから、パイロットの搭乗には昇降リフトシステムが採り入れられることになった。

## ミリメートル 60mmバルカン砲

地上戦では戦車や歩兵と戦うことも多く、バルカン砲の使用頻度が高い。そのためRX-78-2のような頭部ではなく、装弾スペースが十分にとれる胸部にバルカン砲が搭載されることとなったが、メイン・カメラと離れたため、視覚的に照準が合わせづらくなった。

## 各種センサー

各種センサーやコンピュータは、コクピット周辺と後頭部のブロックに分散して内蔵。特に重要なセンサーが複数設置された頭部の保護は徹底され、内部に防砂対策が行われただけでなく、バルカン砲を移動したスペースを生かして装甲が厚めに施されている。





## たい モビルスーツ よう せい けい さく やく だん 対MS用成形炸薬弾

地上では大気によってビーム兵器の威力が減衰するため、実弾兵器がメインに使用されることとなった。MS対策としては、射程が長く貫通力が高い成形炸薬弾を使用。旧世紀の対戦車用のものを模した銃弾のため、その信頼度は高いものであった。

## ミリメートル ほう 180mmキャノン砲

長距離支援用の兵器で、僚機との連携作戦時に後方から射撃を行う際に用いられた。装填は通常の銃器と同様に、カートリッジの交換によって行われる。非常に大型の火器のため、非戦闘時はカートリッジ部を含め、パーツを5つに分解して携行することになる。

## ほう さ よう 防砂用カバー

精密機器で構成されたMSを陸上で運用する際に注意しなければならないのが、砂埃の混入である。大抵のMSは標準的に対策が取られているが、陸戦用、特に砂漠戦用の機体などに関しては、内部に専用カバーを設けるなど、徹底した防護策が施されている。

## よう シールド用ラッチ

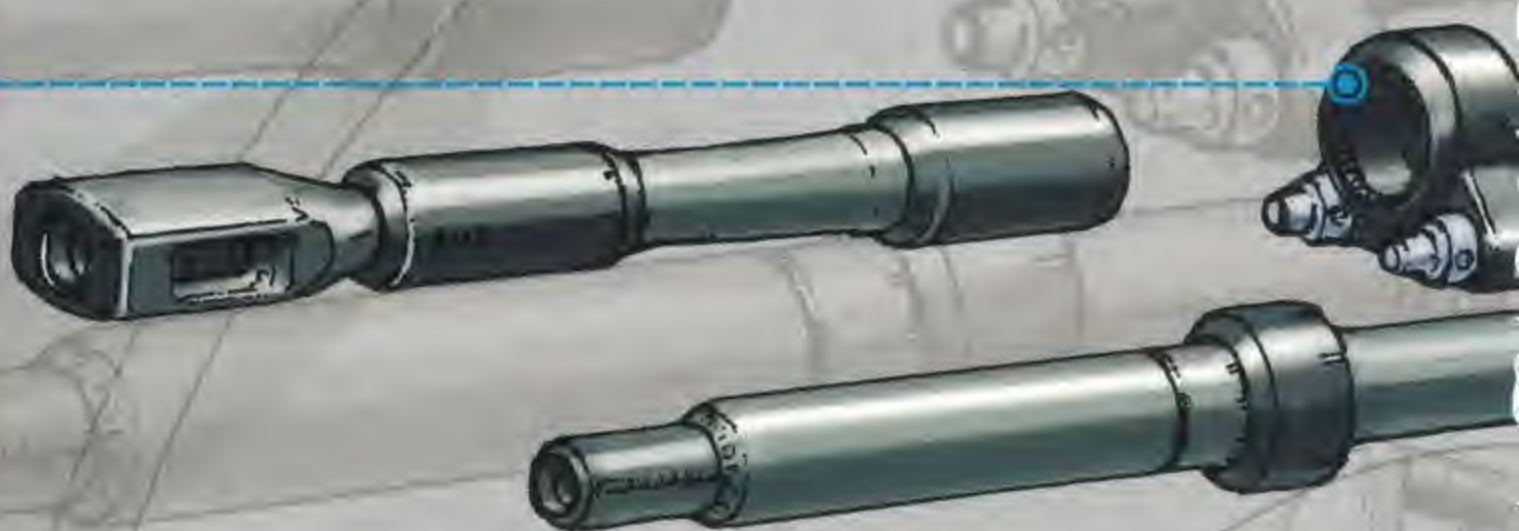
密林などで運用されることもあるため、シールドは取り回しのしやすい小型のものが採用された。マニピュレーターで保持するものではなく、左腕に用意された専用ラッチにセットする仕組みになっているため、武器を構えた状態でも防御することが可能だ。

## マニピュレーター

各部ユニットの構造は、可能な限り細分化されている。これにより損耗の激しい部分のみの交換が可能で、予備パーツがない状況でも現地調達で補修ができるのである。稼動が激しいマニピュレーターは特に損耗箇所が多く、メンテナンスが欠かせない部分だ。

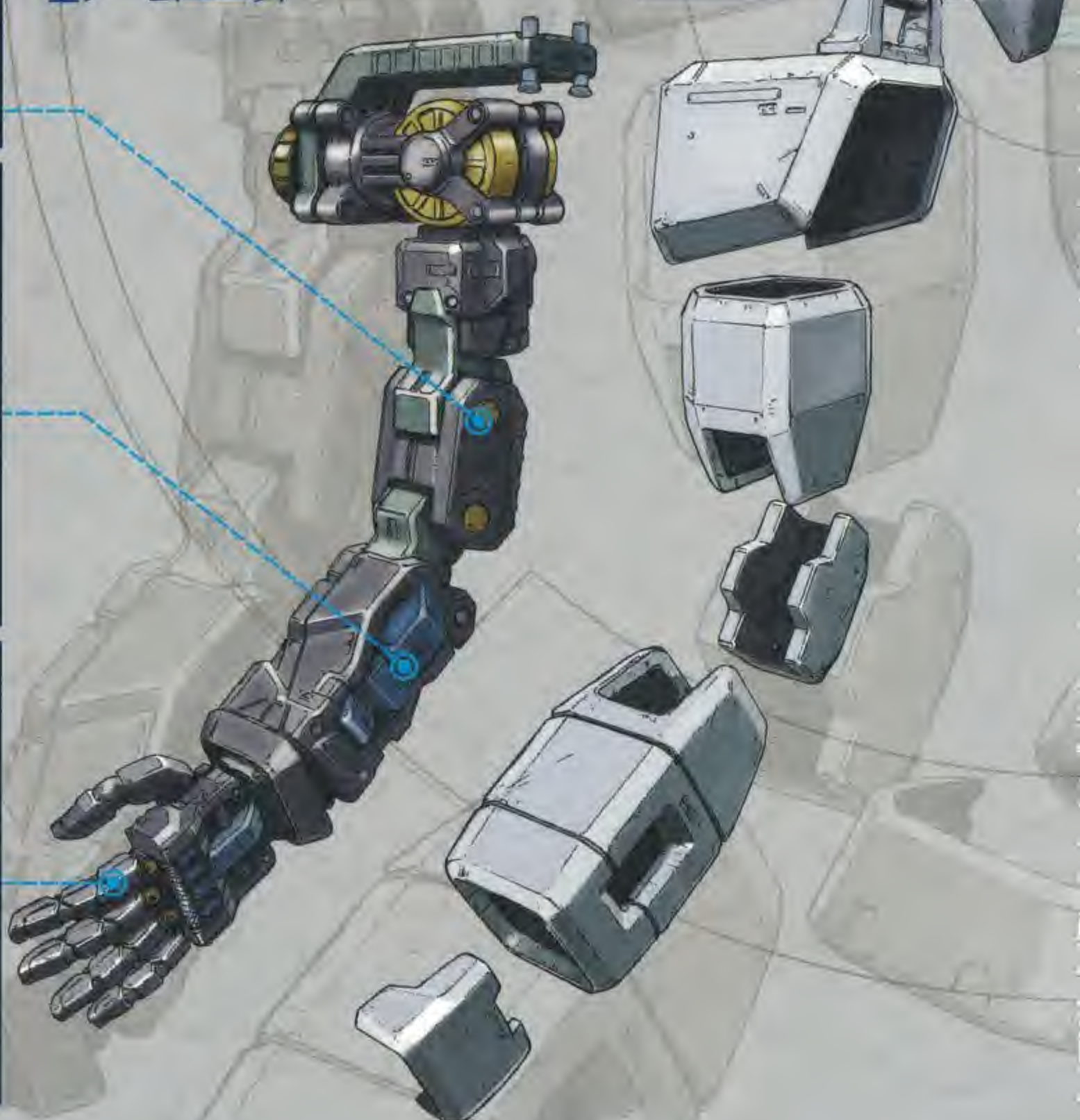
# WEAPON

■ウェポン



# ARM UNIT

■アームユニット





かくとうせんよう

## 格闘戦用スパイク

密林など視界不良なエリアでの対MS戦は、出会い頭に格闘戦になることも少なくなかった。そのため膝の装甲には、一応、格闘戦用のスパイクも用意されていた。これはバズーカ射出時など、立て膝をしたときに機体を安定させる役目も果たしている。

## ビーム・サーベル

ランドセルの換装のしやすさを考慮し、ビーム・サーベルのユニットは脚部へと移動。膝の外側に開閉式のホルスターを設け、必要なときにそこから取り出す仕様になっている。ビーム・サーベルへのエネルギー供給は、RX-78と同様に手のひらを通じて行われる。

## 脚部構造

陸戦用に特化した機体のため、脚部姿勢制御バーニアや足底のバーニアは取り外されている。また、不整地での運用が前提とされる以上、安定化のために機体の重心を下げる必要があった。そのため脚部だけを比べると、RX-78-2よりも重い構造になっている。

## ワンポイント コラム

## 機動戦士ガンダム 第08MS小队

地球上で活躍する地球連邦極東方面軍コジマ大隊所属第08MS小队を描いた作品。RX-79[G]をはじめ、RGM-79[G]ジム・コマンドやMS-06Kザクキャノン、アプサラスといった両軍のさまざまな試作機、実験機が登場する。主人公のシロー・アマダが、敵軍のテストパイロットであるアイナ・サハリンに恋をし、物語は思わぬ方向へ……。

地上戦ならではの緊張感あふれる戦いが展開し、物語に惹き込まれていく。



## LEG UNIT

■レッグユニット





## ランドセル

ランドセルの形状はRX-79[G]からあまり変わっていないが、全体的な改修により機体バランスが変化したため、これを補うべく推力強化がされている。リミッター制御されていた機体のため、推力強化の際は多少リミッターの制限範囲を調整したと思われる。

# E28

■イー・ジー・エイト



## ショルダーアーマー

RX-79[G]では固定式のものであったが、E28では可動アーマーが採用されている。これは腕を上げる動作と連動してアーマー部も持ち上がる構造になっており、可動範囲を広げる役目を果たしている。結果的に動きも柔軟になり、格闘戦の能力が若干向上した。

## 胸部装甲

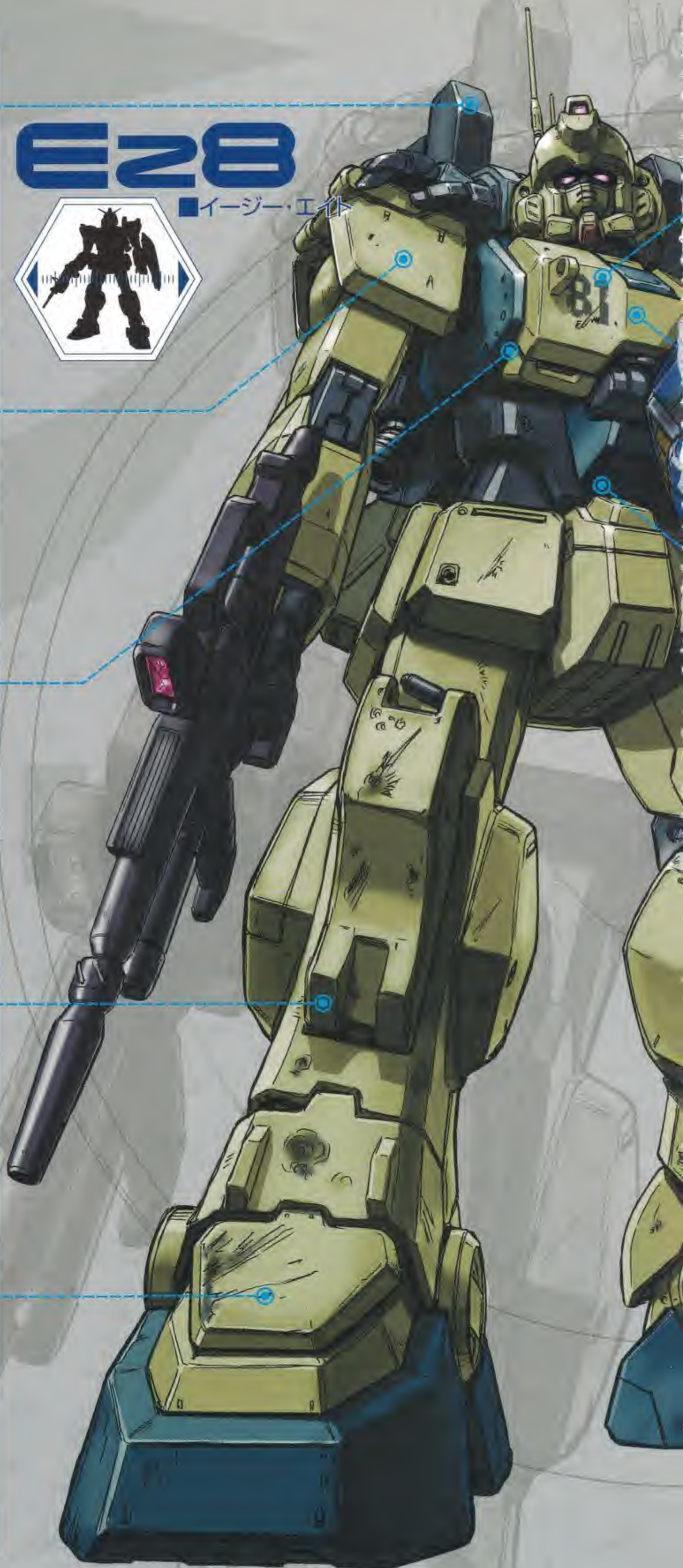
ルナ・チタニウム合金製装甲の予備が不足していたため、胸部の装甲板にはジオン公国のMS-06Fのシールド2枚を使用している。材質のグレード自体は低下しているが、装甲形状の改良により耐弾性の低下を免れているうえ、軽量化と整備性は向上している。

## ニースパイク

膝関節の動きに連動して持ち上がる仕組みのニースパイクを採用。格闘戦での使用よりも、膝をついた姿勢での射撃時に機体を安定させることに重点を置いている。この改修は、ビーム兵器に比べ実体弾の射出による反動がいかに大きかったかを物語っている。

## レッグ・アーマー

脚部は内部構造的には改修前と変わらないものの、装甲形状や取り付けが若干変更されている。地上戦では脚部への負担が著しく激しく、つねに補修などが必要とされた。そのため足の甲の部分にハッチが設けられ、メンテナンス性の向上が図られている。





## ナンバー「81」

胸に刻まれた機体ナンバーは、第08 MS小隊の1番機ということから「81」と記されることになった。もちろん機体ナンバーを表示する義務はなかったものの、通常のRX-79[G]と異なる外観の機体だけに、自軍を混乱させないために記されたと考えられる。

## 胸部ハッチ

コクピットは大きな変更もなく、そのまま胸部中央に設置。胸部にはコクピット・ハッチとは別に、整備用のハッチが取り付けられている。これはメンテナンス性の向上のためでもあるが、胸部内に設けられたバルカン砲の弾倉に補充しやすいという利点もある。

## 可動式センサー

バルカン砲に併設されたセンサーで、照準を合わせる際に使用され、同時に頭部センサーの死角をフォローする役目も担っている。これによりバルカン砲の攻撃精度が向上し、対MS戦においても単に威嚇用としてではなく実用的なものとして使用可能になった。

### ワンポイント コラム

アールエックス ジー イー・シー エイト  
RX-79[G]Ez-8

シロー・アマダの搭乗するRX-79[G]が、ジオン連邦のMA アブサラスⅡとの戦闘時に大破。現地調達品を中心に改修した機体がEz-8である。「Ez-8」とは、「EXTRA-ZERO 8」の略称で、第08MS小隊の特別機といった意味を持つ。改修の際に、破損部分の補修だけでなく、RX-79[G]の実戦運用で浮上した問題点の改良も行われることになった。

▶秘密基地攻略作戦の際、アブサラスⅡを撃破するが自機も大破する。





## ロッド・アンテナ

V字型の無段階方位アンテナを取り外し、代わりに頭部右側に直立型の多目的アンテナを装備。RXシリーズのみで採用されているため、V字型アンテナの調達が困難だったこともあるが、もともと密林などでの運用時に誤って破損しやすいという問題に対応した。

## 35mmバルカン砲

頭部にはバルカン砲が装備されることになったが、RX-78の60mmバルカン砲と比べると威力は弱く、撃墜目的で使用されることはなかった。頭部のスペースの都合上、装弾数もあまり多くはなかったため、手持ちの武器が準備できるまでの牽制用として使用された。

## 防弾板

新たに追加された頬の部分のガードは、首関節部への被弾を防ぐとともに頭部への異物混入を防ぐためのものである。さらにV字型アンテナの排除とともに、額部分の装甲も強化。頭部左右にはバルカン砲の排莖口が設けられており、随時薬莖を排出する仕組みに。

## ドラム・マガジン

12.7mmバルカン砲の弾倉であるドラム・マガジンは、コクピットを挟む形で1基ずつ胸部内に搭載されている。ちなみに使用時は2基を同時に作動させるのではなく、片側から使っていく弾切れになった時点で自動的にもう片方に切り替わる仕組みになっている。

## 12.7mmバルカン砲

RX-79[G]で胸部に装備されていた60mmバルカン砲は、構造上コクピットの耐弾性の悪化を招く可能性が指摘されていた。そのためEz8では、胸部武装は小型で軽量の12.7mmバルカン砲に変更された。対歩兵用の兵器で、対MS戦での使用頻度は低い。

# EZ8 BODY MODULE + HEAD UNIT

■ボディーモジュール  
■ヘッドユニット





# MASTER GRADE RX-79[G] GUNDAM

■バンダイ ■発売中 ■3150円(税込)

広範囲な稼動により、膝立ちでの射撃といった劇中のポーズを自在に楽しめるのがうれしい限り。さらに腕部のメカにビス止め機構を採用しているため、固さを思いどおりに調整可能。固くすることで好きな角度で腕を固定できるので、よりポージングの幅が広がることに。



▲四肢の外装はすべて着脱式。内部メカの完成度も実に高い。

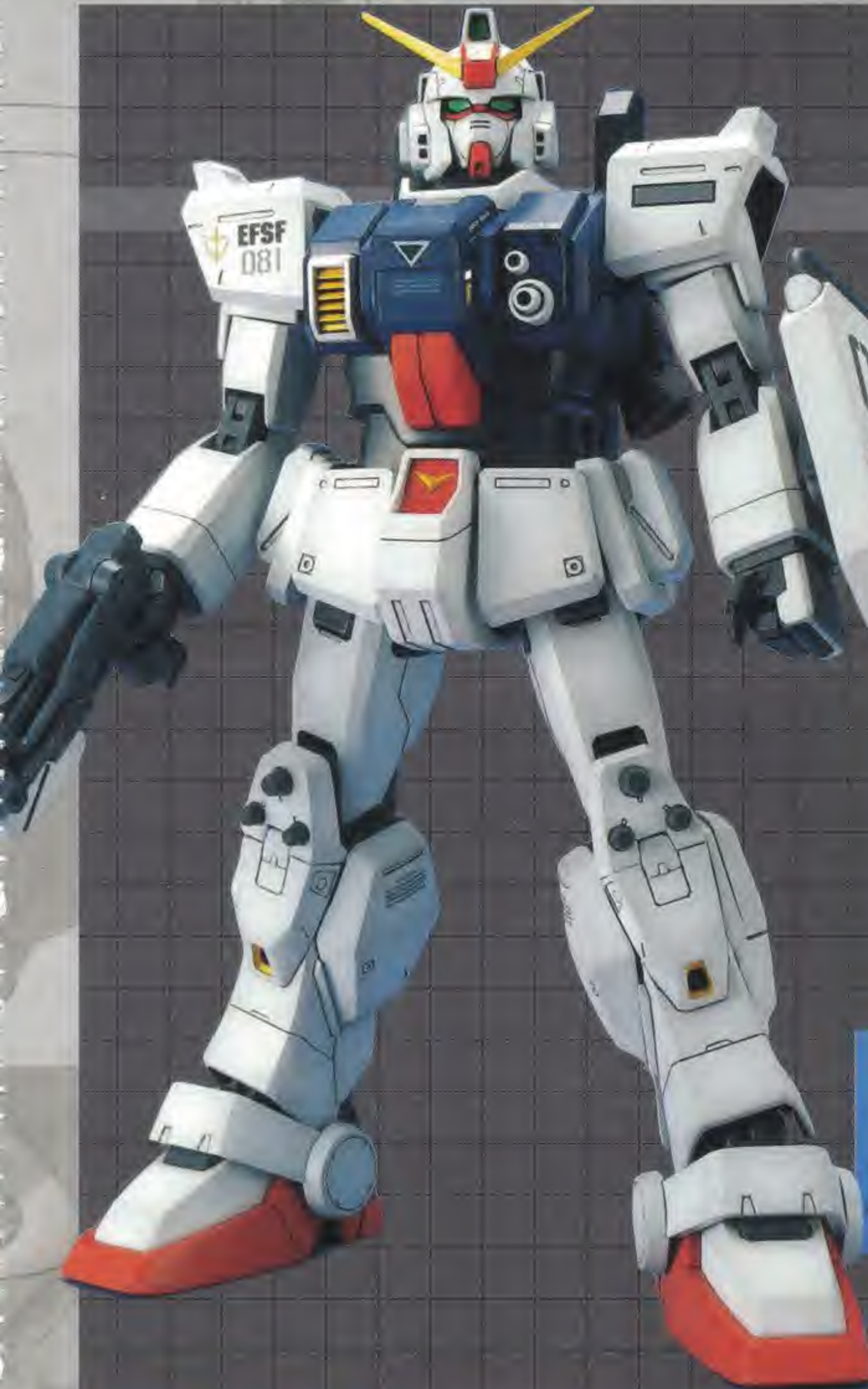
▲ビーム・サーベルの収納ギミックもリアルに再現されている。



## MASTER GRADE RX-79[G]Ez8 GUNDAMEz8

■バンダイ ■発売中 ■3150円(税込)

180mmキャノン砲はもちろん、コンテナやシールドなど携行装備をすべて同梱。RX-79[G]と両方そろえれば、両者の違いをじっくり楽しむことができそう。



▲ランドセルは兵装コンテナの着脱が可能になっている。また、180mmキャノン砲は5分割することでコンテナに収納できる。





# “アムロ・レイ専用”に

## 特化した 幻のガンダム

第一線で活躍するアムロの、ニュータイプ能力に対応するためのMSとして開発された機体。最終調整中に中破してしまっただけ、アムロの元へ届けられることはなかった。

### SPEC DATA

所属：地球連邦  
頭頂高：18.0m 本体重量：40.0t  
ジェネレーター出力：1420kW  
スラスター推力：17万4000kg

### 真の実力を発揮できずに消えた ニュータイプ専用機

RXシリーズのロールアウト後、戦闘データのフィードバックにより、次世代機の開発が検討され始めた。そのなかでニュータイプであるアムロの能力をフルに発揮できる機体として開発されたのが、通称“アレックス”こと、RX-78NT-1である。

### PILOT クリスティーナ・マッケンジー



地球連邦宇宙軍G-4部隊に所属するテストパイロット。秘密工場がジオン公国の襲撃を受けた際、アレックスに搭乗。その後、一時的にアレックスのパイロットとして敵部隊と交戦した。

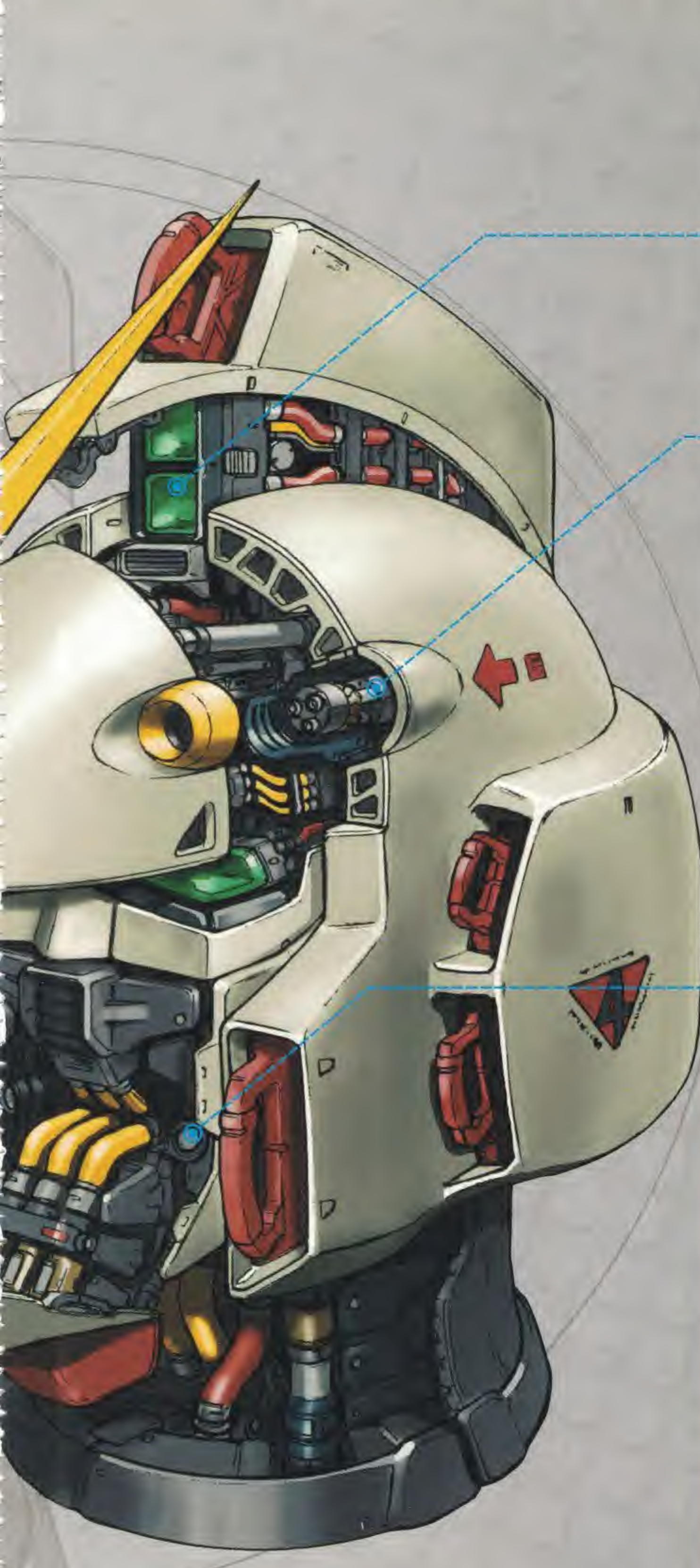
## HEAD UNIT

ヘッドユニット



# RX-78NT-1 ALEX





## メイン・カメラ

頭頂部に設けられたメイン・カメラはRX-78-2よりも高性能化されている。大きな改良点は、新コクピットシステムのモニターに対応すべく、空間走査用の端末が追加されている点だ。また、頭部内のデバイスやセンサー類は、機能を維持したまま小型化されている。

## 60mmバルカン砲

主に対MS戦において牽制用に使われる頭部バルカン砲は、口径こそRX-78-2と一緒であるものの、弾頭の形状や材質、炸薬のエマルジョンは大幅に変更されている。後に開発された機体は基本的にこの規格に適合しているが、既存の機体との互換性は低い。

## サブシステム

各パーツの小型化によって頭部内に余裕ができたこともあり、データ収集や稼動ソフトの検証に必要なコ・プロセッサフレームとしての機能や、モニタリング用のサブシステムなどを新たに搭載。情報収集ユニットとしての機能が大幅に強化されている。

### ワンポイント コラム

#### 機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争

地球連邦軍が開発していた新型ガンダムを奪取すべく、ジオン公国軍の特務部隊が秘密基地を強襲。それを阻止しようと応戦する地球連邦の部隊が描かれた作品。それまで表舞台に出ることがなかった、アレックスをはじめとする一年戦争末期に開発された新型MSが多数登場。一年戦争の知られざる舞台裏を描いた作品として、ファンの間で話題になった。

▶ 秘密基地で極秘裏に開発されていたアレックスを巡る物語が展開される。



—アレックス—



## エア・ダクト

関節部へ冷却用の空気を送り込むと同時に、防塵カバーの役目を果たす。腕部に火器が内蔵されたことにより内部の温度上昇率が上がったため、それを解消すべく施された処置である。フィールドモーターへの冷却効果もあるので、運動性向上の一因になっている。

## フィールドモーター

地球連邦のMSに採用されたフィールドモーターは、その機構上小型化がしやすく、腕部に余剰スペースを作ることが容易であった。実際、RX-78-2では腕部にサブスラスターを装備可能であったし、RGM系のMSには、構造がスリム化された機体もあったのだ。

## ミリメートル 90mmガトリング砲

それまでのRXシリーズの戦闘データから固定武装の強化が求められたため、アレックスでは腕部の稼動ユニットの容積を減らし、余剰スペースにガトリング砲が搭載されることになった。弾倉は射出ユニットの真下に設置。薬莖はダイレクトに外に排出される仕様だ。

### ワンポイント コラム

#### RX-78 NT-1FA アレックスフルアーマー

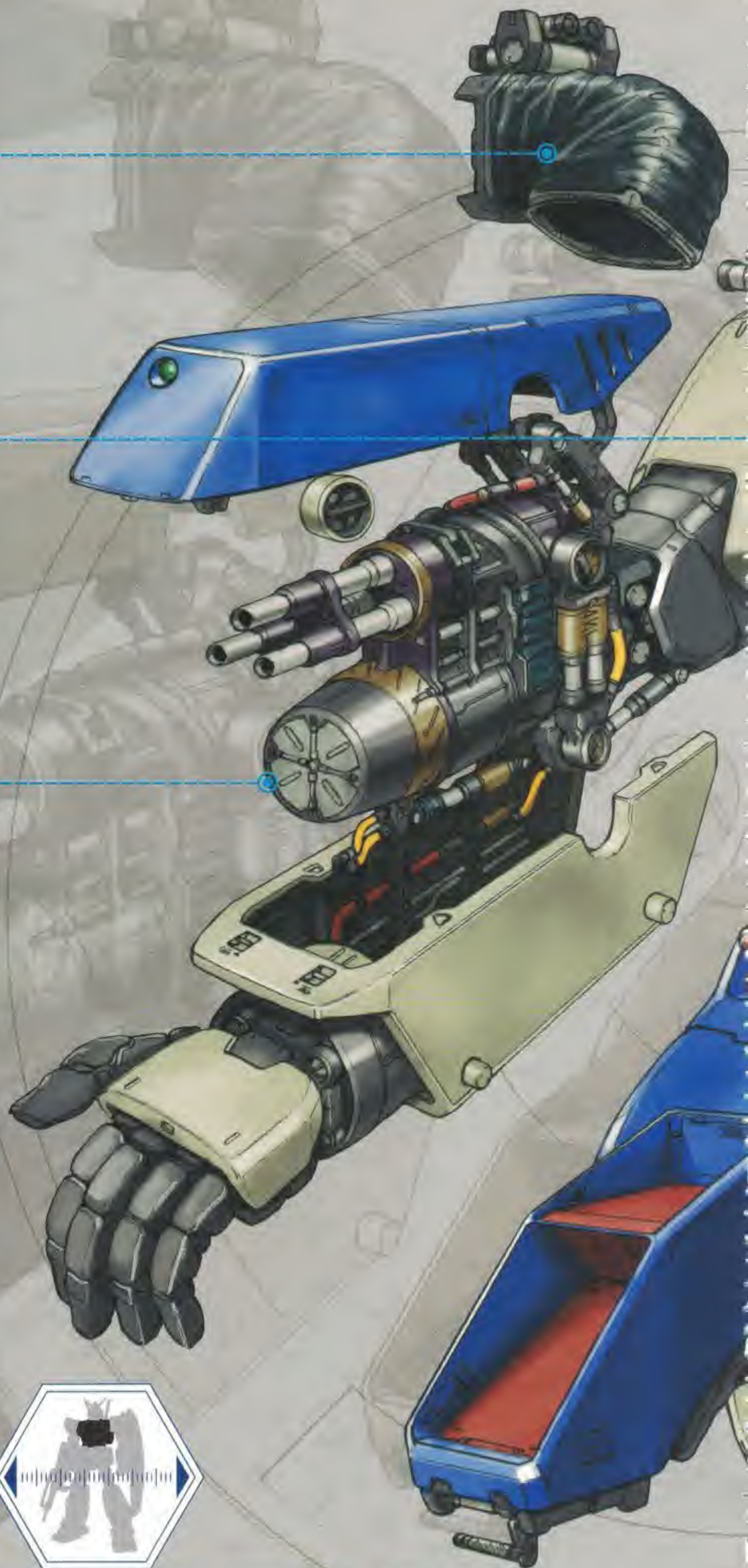
フルアーマーオペレーションという兵装開発計画によって完成した、チョバム・アーマーを追加装備した状態は、アレックスフルアーマーと呼ばれた。この装甲は攻撃を防ぐものではなく、装甲自らが破損することによって衝撃を吸収するというものである。ちなみに装着時は、腕部も装甲に覆われるため、ガトリング砲を使用できない。

▶劇中では、ジオン公団の追撃部隊を迎撃する際に装着して出撃した。



# BODY MODULE

■ボディーモジュール







# ARM UNIT

■アームユニット



## 複合インテーク・ダクト

従来の機体と異なり、アレックスでは吸排気口を二重構造にすることで、メインジェネレーターの稼動効率と安定性の向上を実現している。この機構は最初の設計段階では存在していなかったが、RX-78-2の戦闘データの分析が進み、開発途中で採用されることになった。

## 姿勢制御バーニア

機動性の強化を重視して開発された機種のため、全身には既存の機体の倍近い姿勢制御バーニアが装備された。基本的には戦闘時の使用がほとんどで、非戦闘時には、重要な箇所以外は異物混入を防ぐキャップがされた状態で使用されることもあった。

## 全天周囲型コクピット

コクピットブロックは、それまでに使用されていたものとは全く異なるコンセプトによってデザインされることになった。パイロットを囲むように配置されたモニターは、MSと一体化した視点を体感させ、ニュータイプ能力の発露に有効であると考えられた。

## メインジェネレーター

RX-78-2と同様に、NT-1にも熱核反応炉は複数設置されている。そのうちの2基がメインジェネレーターとして稼動。従来のコア・ブロックの仕様に倣ってコクピット周辺に配された。各スラスターの出力向上のため、どのジェネレーターも出力調整が施されている。

## リニアシート

より操作性を向上させて、パイロットの負担を軽減するためにリニアシートを採用。脱出装置としては、イジェクション・ポッドが搭載された。この仕様は非常に高い評価を得ることになり、一年戦争終結後に開発されたMSには標準装備として採用されている。



## マグネット・コーティング

各駆動系に、フィールドモーターのレスポンスを向上させるマグネット・コーティングが施されている。アレックスでは設計当初から採用が想定されていたため、実に効果的に組み込むことができ、後付けで採用されたRX-78-2と比べて3倍以上もの反応速度を実現した。

# LEG UNIT

■レッグユニット



## 装甲板

各部位の装甲構造は、従来の一体成型ではなく複数の装甲版の積層方式を採用。これにより損傷した層のみを交換すれば良くなり、被弾時の補修が一層容易になった。また、一体成型のときよりも関節の可動範囲が広がり、機動性能の向上にも貢献している。

## サブスラスター

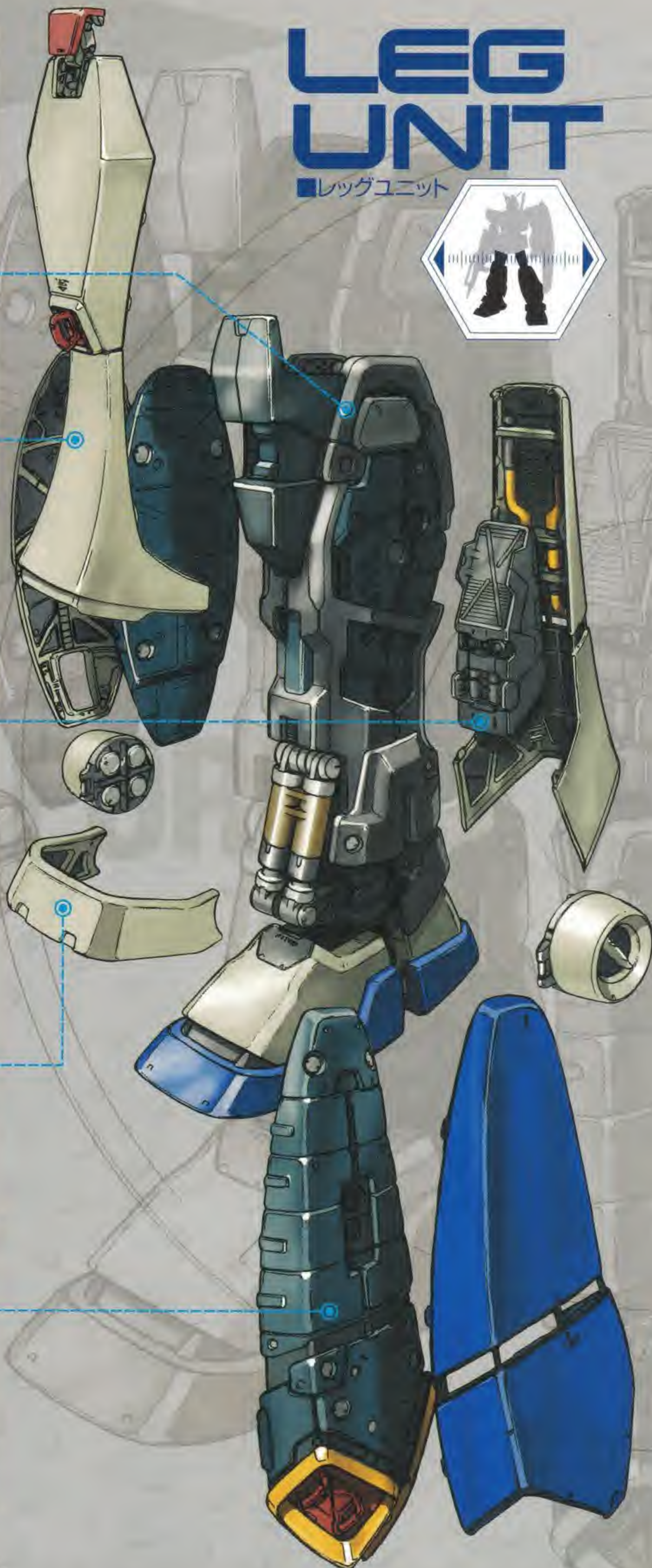
アレックスの脚部は、ジオン公国のMSによく見られたような、脚部全体を巨大なスラスター・ユニットにするというコンセプトで設計されている。そのため脛ら脛部分のサブスラスターは、従来の姿勢制御レベルではなく、大推力を得るためのものとして搭載された。

## アングルサポートユニット

足首にあたる部分には、歩行時に使用する各種センサーや、脚部の各スラスターの機動を補助するデバイスなどが収納されている。損傷すると脚部の機能低下を招く恐れがあるため、RX-78-2に採用されている専用のアーマーがアレックスにも装着されている。

## プロペラントタンク

脚部側面には、プロペラントタンクとサブスラスターを一体化したユニットを搭載。それまで、この部分への搭載は安全面から危惧されていたが、RX-78-2の実働データの脛部分を解析。予想よりも金属疲労が少ないことが判明したため、搭載されることになった。





# MASTER GRADE RX-78NT-1 GUNDAM NT-1

■バンダイ ■発売中 ■3150円(税込)

進化したガンダムの立体構造を、組み立てながら実感できるハイクオリティモデル。肩関節に軟質カバーを採用するなど、特殊素材でリアルな質感を演出している。また、特徴的な全天周囲型コクピットも再現。リニアシートも搭載されているので要チェックだ。

▶徹底した運動性の強化のために増設された各部バリエーション。劇中ではイマイチ確認しづらい部分も、立体ならよくわかる。

▶背部のメインスラスターも大型化されている。そのためラントセル自体の厚みも、従来の機体より増すことになった。

◀腕部カバーのスライド展開ギミックなど、特徴的な各部の機能をも忠実に再現。

▲付属パーツとしてチョバム・アーマーも用意されている。フルアーマー状態ならではの重量感あふれるシルエットを堪能しよう。





E.F. SPACE FORCE

# 地球連邦MS開発経緯

スタートはジオン公国に遅れながらも、わずかな期間で最強のMSを作り上げた地球連邦。ここでは、地球連邦におけるMS開発の歴史を振り返ろう。

## 1 RX計画とV作戦の始動

一年戦争開戦前、次期主力兵器の研究、開発を行うRX計画が地球連邦で始動。しかしこの段階では、MSという兵器の開発はほとんど行われていなかった。状況が一変したのが、ジオン公国によるMSの実戦導入である。戦争開幕と同時に戦闘におけるMSの有効性を身をもって知らされた地球連邦は、形勢逆転の策としてV作戦を発動する。この作戦によってMSの本格的な開発と、MS運用を前提

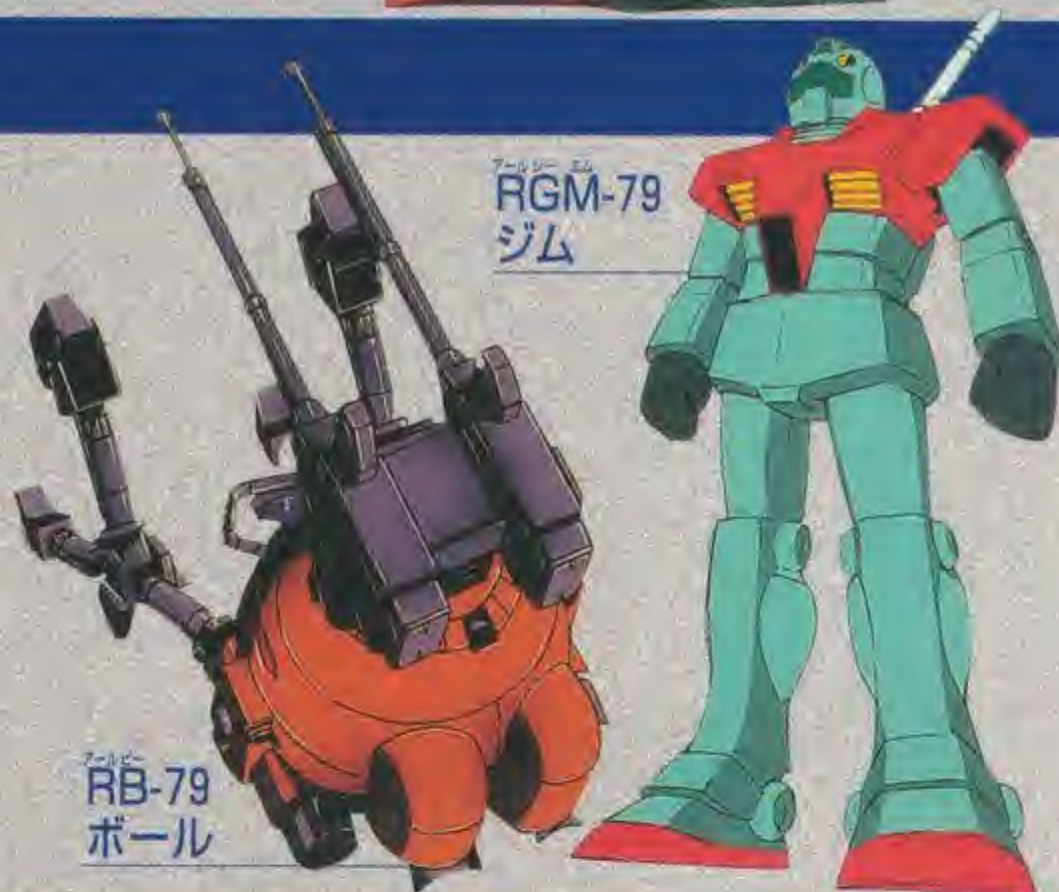
にした新造艦の開発が開始されたわけだ。その結果完成したのが、RXシリーズのMSとホワイトベースである。そのなかでも特に際立つ存在がRX-78-2で、機体の性能が極めてすぐれていただけでなく、多くの実戦データをフィードバックしたことで評価が高い。後に完成したMSはこのデータを基に開発されており、このデータが機体の性能の底上げに貢献しているのだ。



## 2 量産型MSの開発

RXシリーズの完成でMS開発に成功した地球連邦は、量産機の開発に着手する。早い段階で完成したのが、RX-78の余剰パーツで組み立てられたRX-79[G]だ。この機体は20数機ほど開発されたが、もともと余剰パーツで作られたため、それ以上の量産には至らずに終わる。その後、RX-78-2の戦績を受

けてRGM-79、そしてその支援機としてRB-79が量産されることになった。どちらも低コストながら十分な性能を持つ機体であったため、戦争終盤にはさらに増産が行われ、実戦投入されている。ちなみにこの後期に開発されたものは一部改修が施されており、より完成度の高い機体に仕上がっている。



## 3 バリエーション機の誕生

早い段階でRX-79[G]が開発されたことから考えても、RXシリーズを中心にしたバリエーション機は当初から数多く考案されていたと考えられる。事実、陸戦用としてRX-77-3 Guncannon重装型やRMV-1 Guntank IIもすでに開発されていたという資料も残されている。しかし、高コストのRXシリーズをベースに数多くのバリエーション機を開発するほど地球連邦に余裕はなく、バリエ

ーション機の開発は基本的にRGM-79をベースにしたものになっていった。その後、RGM-79G Gimu・コマンドやRGM-79D Gimu寒冷地仕様など、実に多種多様なバリエーション機が開発され、実験的に各地に配備されることになった。その裏でRX-78のバリエーション機の開発も行われ、RX-78NT-1などが開発されたが、目的を絞った開発だったため、その数は極めて少ない。







## PRINCIPALITY OF ZEON

モビルスーツという究極の戦闘兵器を開発、それを実戦投入することで戦闘での有効性を世に知らしめたジオン公国。いち早くMS開発に着手してただけあり開発技術は高く、早いペースで新型MSを実戦に導入していった。

# ジオン公国編

ジオン(う)くへん



# ジオン公国の 代名詞的存在

## MS-06F ZAKU II

—ザクツ—

バリエーション機も含めると、一年戦争において両軍を通じてもっとも多く生産された量産機。その完成度は非常に高く、実用面でも十分な結果を出していたことから、後継機の開発を遅らせたといわれるほど。この存在なくして一年戦争は語れない。

### SPEC DATA

所属：ジオン公国  
頭頂高：17.5m 本体重量：56.2t  
ジェネレーター出力：976kW  
スラスター推力：4万3300kg

### 地球侵攻を想定した 局地戦用MSの誕生

“旧ザク”と呼ばれる初の量産型MS、MS-05の開発に成功したジオン公国は、地球侵攻作戦のもとMS-05の高性能化プロジェクトを開始。そして誕生したのがMS-06Ⅱだ。初期開発の機体はA型、さらにC型が作られ、本格的に量産された機体がF型となる。



### PILOT ジオン公国パイロット

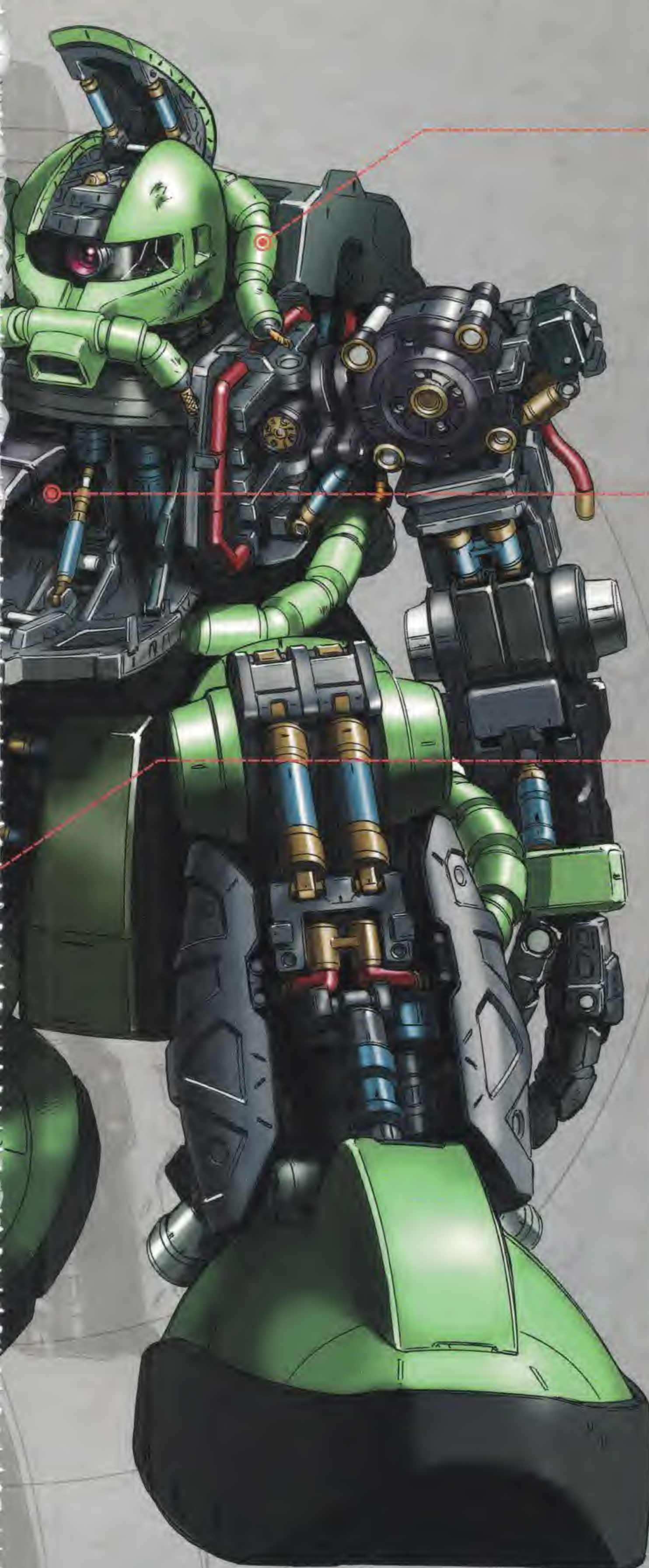


ジオン公国を代表するMSだけあり、名立たるパイロットは大抵、同機の搭乗経験を持っている。このMS-06Fで十分な戦果をあげることで、新型へと乗り継ぐパイロットが多い。

# BODY MODULE

■ボディーモジュール





## 動力パイプ

動力パイプを機体外部に露出させて内部にゆとりをもたせ、改良が簡単に行えるようになっている。また、サイド7でRX-78-2に動力パイプをちぎられた際、メイン・カメラからのデータが寸断されたことから、電力ケーブル類も同パイプ内に通っているようだ。

## コクピット

製造された時期によっても異なるが、基本的にはコクピットの搭乗口が左胸部にあり、搭乗後はシートがスライドして右胸部に移動する仕組みになっている。また、胸部装甲ハッチを開いてシートを射出する、イジェクション・シート方式の脱出機能も搭載している。

## 超硬スチール合金

戦闘車輛のバルカン砲程度なら弾き返すことができる合金。核武装していたC型は装甲に放射線防護が施されていたが、南極条約において核兵器の使用が禁止されてから生産されたF型は、それらをすべて排除し、装甲の徹底した軽量化が行われている。

### ワンポイント コラム

## MS-06S シャア専用ザク

ジオン公国のエースパイロットであるシャア・アズナブル少佐が搭乗した機体で、全体を赤系統のカラーで塗装している。指揮官用の機体で、通信能力を強化するためにマルチブレードアンテナが装備されている。また、運動性向上のため推力を30%アップしているが、プロペラントタンクの増設は行われていないため稼働時間がやや短い。

▶ シャア専用の機体として有名なが、その他の指揮官用にも複数存在した。





## 推進剤タンク

熱核ロケットエンジン用の推進剤が収納されているタンク。タンク自体があまり大きくないため、宇宙圏の単体での長距離航行は不可能である。そもそも、宇宙圏では単体での任務遂行というものは考えられておらず、母艦となる戦艦との連携作戦が基本である。

## メインスラスタ

ランドセルには2基のロケットエンジンを搭載。主に宇宙圏での移動の際に用いられるが、重力圏内では姿勢制御やジャンプに使用されるケースもある。航行用のものなので対MS戦においては素早い回避ができず、直撃を受けて撃墜される場面が多く見られた。

## ヘッドアーマー

頭部装甲は、被弾時のダメージをできるだけ軽減させるように、フリッツヘルメットのような丸みのある形状で設計されている。またモノアイ部分は無防備に見えるが、特殊な防弾ガラスで覆われているため、戦闘機のバルカン砲程度なら破壊されることはない。

## ナビゲーションシステム

ミノフスキー粒子散布下でも、自機の位置を正確に割り出すことができるシステム。艦艇からのカタパルトの射出によって出撃するため、射出後の位置確認などに重宝する。さらに現在位置を自動認識することで、ある程度自動で着艦も行えるようになっている。

## メイン・カメラ

メイン・カメラにはモノアイを採用。ジオン公国のほとんどのMSに採用されている光学端末で、単なるカメラアイとしてだけではなく、複合的なセンサーとしても機能する。レーザーセンサーの機能の応用で、レーザー通信を行うことが可能な端末も存在する。



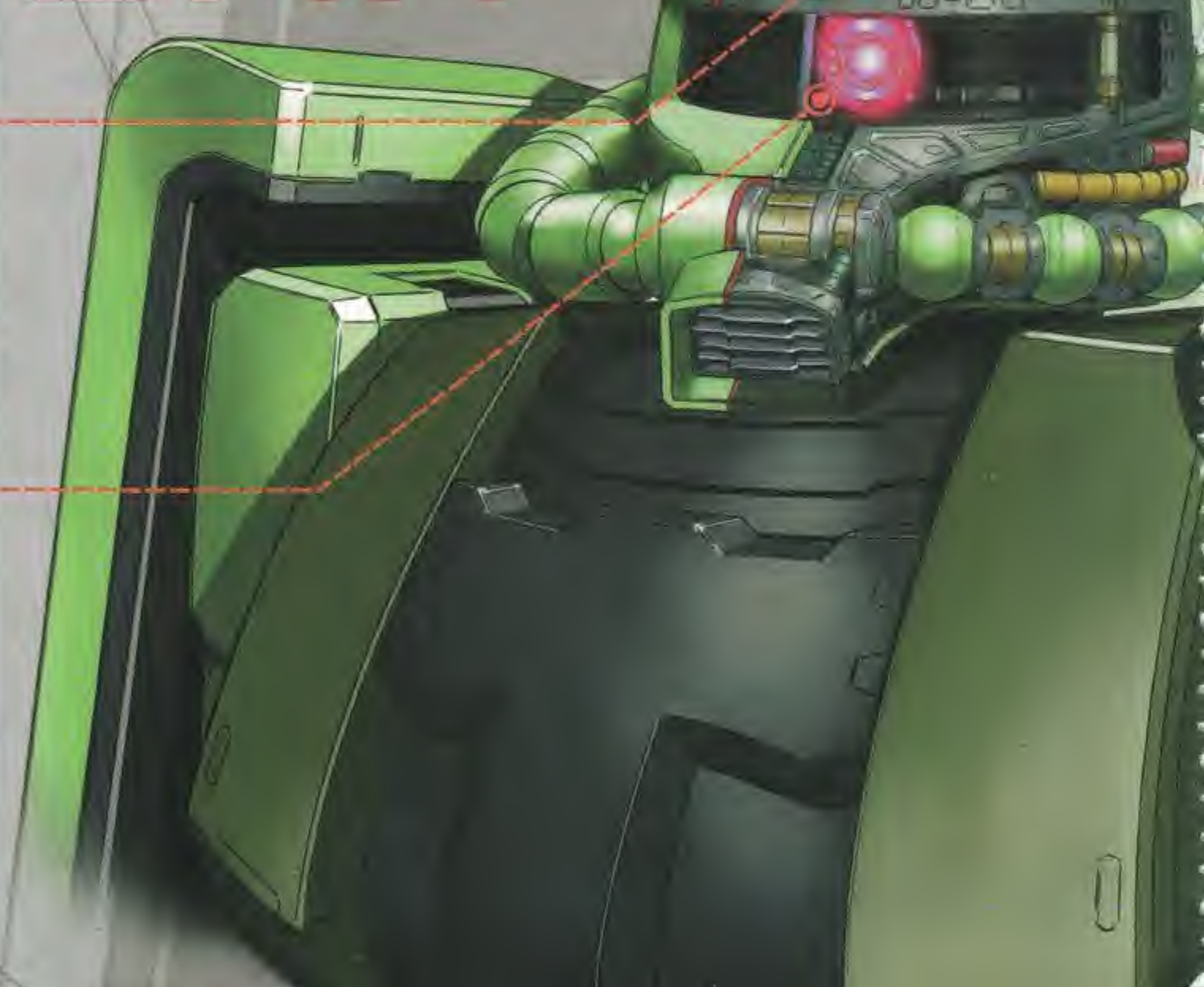
BACKPACK

バックパック



ヘッドユニット

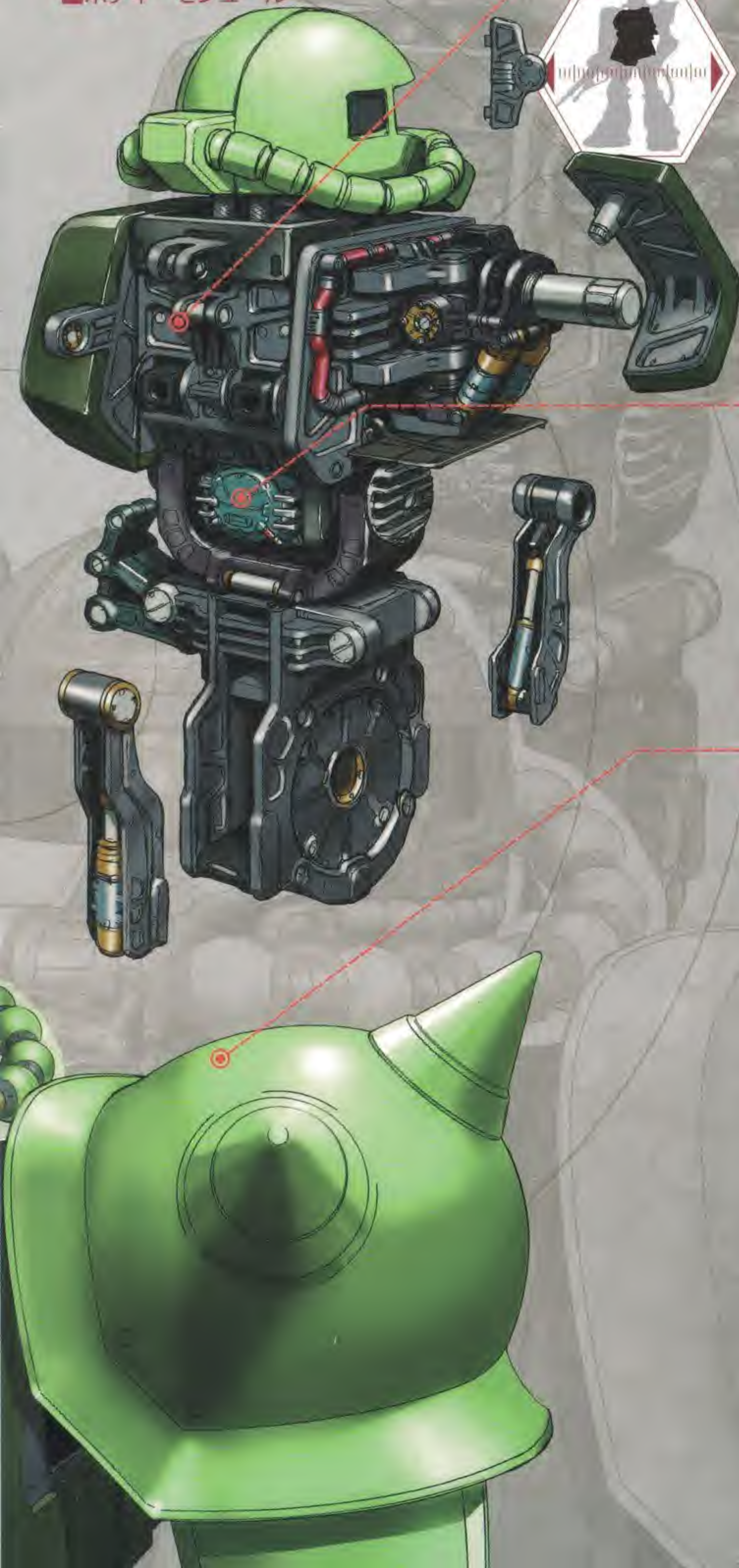
HEAD UNIT





# BODY MODULE

■ボディーモジュール



## オプション換装システム

ランドセルは簡単に着脱ができる構造になっている。より幅広い戦局に対応できるように設計されたもので、機雷散布ポッドなど、さまざまなオプション装備の換装が想定されている。このような配慮の面からも、優秀機として評価が高かったのである。

## ジェネレーター

ジェネレーターは、MYFG-M-ES系の核融合タイプを搭載。故障率が極めて低いうえ、基本的には周辺機器を交換するだけであらゆる環境に対応することが可能である。設置部は高出力ジェネレーターへの換装を想定し、スペースに余裕を持たせている。

## スパイクアーマー

MS開発時には、対MS戦は想定されていなかった。しかし、MS-05が量産された時点で対抗兵器の開発の可能性などが挙げられ、MS同士による模擬戦が行われるなど対策が考えられた。その結果、格闘戦用としてスパイクアーマーが採用されたのである。

## MS名ゼリフ

「性能の違いが、戦力の決定的差ではないということを教えてやる」  
—シャア・アズナブルー

RX-78-2との交戦時に、MS-06Sを駆るシャアが言い放ったセリフ。言葉どおり性能的には劣る機体でRX-78-2と互角、もしくはそれ以上の戦いを見せた。逆を言えば、このセリフを言わせるほどRX-78-2の性能が高かった証だ。

▶MSは、有能なパイロットが搭乗して初めて真の実力を発揮できる。





## 流体内パルスユニット

ジェネレーターからエネルギーを直接取り出し、機体各部に極超音速で伝えることで稼働するアクチュエーター。ジオン公国のほとんどのMSに採用されている。電力に変換して伝達するよりもエネルギーロスが少なく、わずかなエネルギーで高トルクが期待できる。

## マウント・ラッチ

オプション装備用のマウント・ラッチ。通常は右肩にシールド、左肩にスパイクアーマーを装備する。シールドは被弾時、スパイクアーマーは戦闘時に破損しやすいため、素早く交換できるような構造になっている。なかには通常とは異なる装備の機体も存在した。

## マニピュレーター

マニピュレーターは、MS開発を始めた当初にほぼ完成形まで近づいていた。そのため主要量産機がMS-05からMS-06Fに移行する際も大きな変更はない。これはマニピュレーターで保持する武装がメインであったため、早々に研究が進んでいたからだろう。

## サブスラスター

宇宙圏において推進補助と姿勢制御の補助に用いられるスラスター。MS-05では非搭載であったが、脚部の動力パイプを外部に露出したことにより設置スペースを確保。空間機動能力の向上を図るべく、サブスラスター・ユニットが内蔵されることになった。

## 足底スラスター

背部のメインスラスターと連動しており、重力圏での歩行やジャンプの補助として機能する。宇宙圏では姿勢制御の補助としても活用できるが、基本的にはAMBACによる制御を行うため、使用頻度は低い。そのため、プロペラントタンクも最小限のものを使用。

# ARM UNIT

■アームユニット



# LEG UNIT

■レッグユニット







パーフェクト グレード  
**PERFECT GRADE**  
エム エス エフ ザ ク ツー  
**MS-06F ZAKU II**

■バンダイ ■発売中 ■1万2600円(税込)

究極のプラモデルとして高い評価を得ている、パーフェクトグレードシリーズのMS-06F。装甲各部の開閉はもちろん、装甲を外したむきだしの状態でのディスプレイも可能。外装だけではなく、内部も徹底的に作りこんであるうえ、パーツごとの機能も可能な限り再現されている。



◀胸部ハッチは設定どおりに開閉可能。動力パイプは密巻きスプリングを芯に多重構造で構成されている。



◀ランドセルのカバーを外すと、主動力炉である小型熱核反応炉などの内部メカニズムを見られる。

▼肘関節は装甲の一部がスライド式になっており、可動範囲の拡大が可能。



▲全装甲の取り外しが可能。内部を露出した状態で関節を動かすと、シンクロして各部シリンダーが動く様子まで確認できる。



パーフェクト グレード エム エス エス ザ ク ツー  
**PERFECT GRADE MS-06S ZAKU II**

■バンダイ ■発売中 ■1万2600円(税込)

MS-06Fとの違いを立体で完全再現したMS-06Sの究極モデル。ザク・マシンガンやヒート・ホークといった武装は、実際にマニピュレーターで持って装備する。



# ち じょう せん とっ か 地上戦に特化した きょう か しん がた モビルスーツ 強化新型MS

地球侵攻作戦において、MS-06Jに代わる戦力として開発された機体。重力圏内でのMS-06Jの運用で問題になった装甲面や運動性を強化し、固定式の武装を装備するなど、戦闘能力を陸戦に特化。地上戦を支える重要な戦力として活躍した。

## SPEC DATA

所属：ジオン公国  
頭頂高：18.2m 本体重量：58.5t  
ジェネレーター出力：1034kW  
スラスター推力：4万700kg

MS-06J以上の白兵戦能力  
を持つ新型MSの開発

MS-06Jは汎用性の高い機体だが、その反面、何かに特化した強さを持たなかった。重力圏内での運用でその問題は一層明確になり、それを受け地球侵攻作戦を成功させるための頼れる戦力として、徹底的に陸戦に特化したMS-07Bが開発されることになった。

## PILOT ランバ・ラル

つねに搭乗機を青く塗装していたことから「青い巨星」の異名を持つ、ジオン公国エースパイロットのひとり。RX-78-2が初めて交戦した、MS-07Bのパイロットとして有名だ。



PRINCIPALITY OF ZEON **MS-07B**  
**GOUF**  
ーグフー





# HEAD UNIT

■ヘッドユニット

+

# ARM UNIT

■アームユニット



## ブレードアンテナ

それまでは指揮官用の機体にのみブレードアンテナが装備されていたが、重爆撃機ド・ダイYSとの連携攻撃を前提に開発された機体のため標準装備されることになった。ちなみにド・ダイYSは、単なる支援攻撃機ではなく、MSの運搬も行ってた。

## スパイクアーマー

MS-06Fのスパイクアーマーとは異なり、牛の角のように「く」の字に折れ曲がった形状が特徴。この機体でタックル攻撃を仕掛ける際は、相手の懐に潜り込んで突き上げるような状態が想定されている。これは運動性能に長けた、MS-07Bならではの戦術だ。

## 5連装75mm機関砲

試作1号機と2号機は通常のマニピュレーターを採用していたが、量産機のベースとなった試作3号機からは固定兵装として左手に機関砲が内蔵された。腕部に機関砲に必要な機構がすべて収納されているため、ほとんどマニピュレーターとしては機能しない。

## MS名ゼリフ

「ザクとは違うのだよ。  
ザクとは！」

ーランバ・ラルー

初の交戦時に、苦戦するRX-78-2の前に、ランバ・ラルが誇らしげに洩らしたセリフ。MS-05の操縦経験を持つからこそ言えるセリフであり、実際に自分自身でMS-07Bを操縦して改めてその性能の高さを確信した様子が窺える。

▶戦況は圧倒的に有利であつたが、ランバ・ラルは途中から後退していく。





## 機体カラー

MS-07Bの機体カラーに青が採用されたのは、最初期に支給を受けたランバ・ラルが青く塗装したためだといわれている。また同様のケースで、MS-09の量産機の機体が黒系のカラーになったのは、「黒い三連星」が乗る機体の影響を受けたようだ。

## ロッドシューター

MS-07B-3の腕部には、ヒート・ロッドを撃ち出すロッドシューターが内蔵されている。MS-07Bのヒート・ロッドは、腕部と連動して繰り出す仕組みのため、体勢によっては使用できない可能性が指摘されていた。それを解消すべく開発されたのが、この射出式だ。

## ヒート・ロッド[アンカー型]

MS-07B-3は前線での活動が前提とされていたため、メンテナンス面の都合などから異なる仕様のヒート・ロッドが採用された。ロッド自体をワイヤー状のものに變更し全体を小径化。さらに先端へのアンカーヘッドの装着により、操作性が向上している。

### ワンポイント コラム

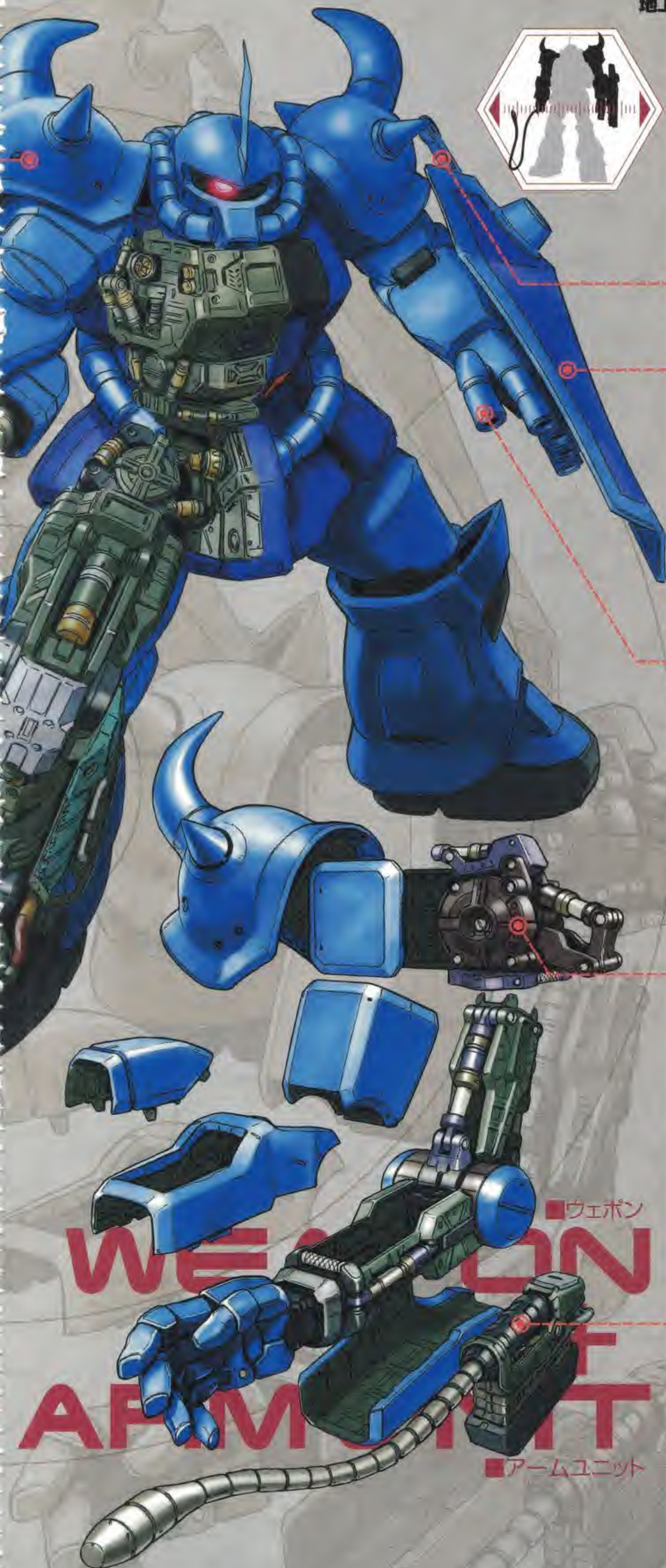
## MS-07B-3 グフ・カスタム

『機動戦士ガンダム第08MS小隊』に登場した、MS-07Bの改良機。前線での運用に合わせて再設計を行い、射撃能力を向上させた機体である。ジオン公国東南アジア方面軍アブサラス基地に所属するノリス・パッカー大佐が搭乗。戦闘機と激しい空中戦を展開したり、3機のRX-79[G]を中心とした部隊と単独で戦ったりと圧倒的な強さを見せた。

▶ヒート・ロッドの仕様変更をはじめ、攻撃性能が徹底的に強化されている。







## けん ヒート剣

剣の刃の部分加熱し、敵装甲を切断する兵器。加熱には熱核反応炉の電力を利用しており、MSの手ひらを伝って供給が行われる仕組みだ。刃の部分は電荷に対する反応が速い物質で作られているため、加熱を待つ必要なく瞬時に使用することが可能である。

## グフシールド

白兵戦時に柔軟に対応できるように、シールドは着脱可能なオプションとなっている。マニピュレーターが機能しないため使用時は腕に装着。コクピットからの操作で自由に取り外しが可能だ。また、シールド裏にはヒート剣用のマウントラッチも備わっている。

## マニピュレーター

左腕のマニピュレーターは、機関砲の照準の微調整程度であれば稼働するが、MS-06Fのように武器を持てるほどの機能を有していない。右腕も内部にヒート・ロッドの機構が収納されているため、左腕よりは機能するものの細かな動きはできない構造になっている。

## アクチュエーター

流体内部パルスシステムの技術が進化し、トルク対容積比の改善が施されている。さらに全体的な軽量化に加え、陸戦に特化した調整が行われているため、アクチュエーター反応速度やトルクはMS-06Fよりも向上。高い運動性を実現する原動力となっている。

## ヒート・ロッド

腕部ユニットは軽量化によって内部に余裕が生まれたため、固定武装が装備可能になった。右腕部に搭載されているヒート・ロッドは、電気を流すことができる白兵戦用武装。電流によって敵機の電子回路を損傷させたり、パイロットを気絶させたりするのが狙い。

■ウェポン

■アームユニット



## 胸部装甲

敵機との格闘戦も予想される機体だけに、装甲は重点的に強化されている。特にコクピット周辺の胸部や腹部装甲は徹底しており、一説にはこの周辺が破損しても、駆動系や操縦系統に致命的なダメージを受けることがなかったという実例も報告されているらしい。

## コクピット

コクピットは機体腹部に設けられ、二重構造のハッチで守られている。操作系は、基本的にMS-06系のものが流用されている。これは乗り換えによるパイロットの混乱を防ぐための配慮であり、MS-06系のMSが操作面でも高い評価を受けていたからでもある。

## ジェネレーター

ジェネレーターの性能は、出力や燃費効率の面で若干向上してはいるものの、MS-06Fと大差はない。MS-07Bの高い運動性は単にジェネレーターの性能で実現したわけではなく、基本設計の見直しによる全面的な改良によって初めて実現したものである。

## 動力伝達パイプ

MS-06Fの運用において市街地や密林での戦闘時に、露出した動力パイプがウィークポイントになることが多かった。特に歩行ユニットである脚部が狙われることが多かったため、内部構造の改善を行い、脚部の動力パイプを装甲内に設置することになった。

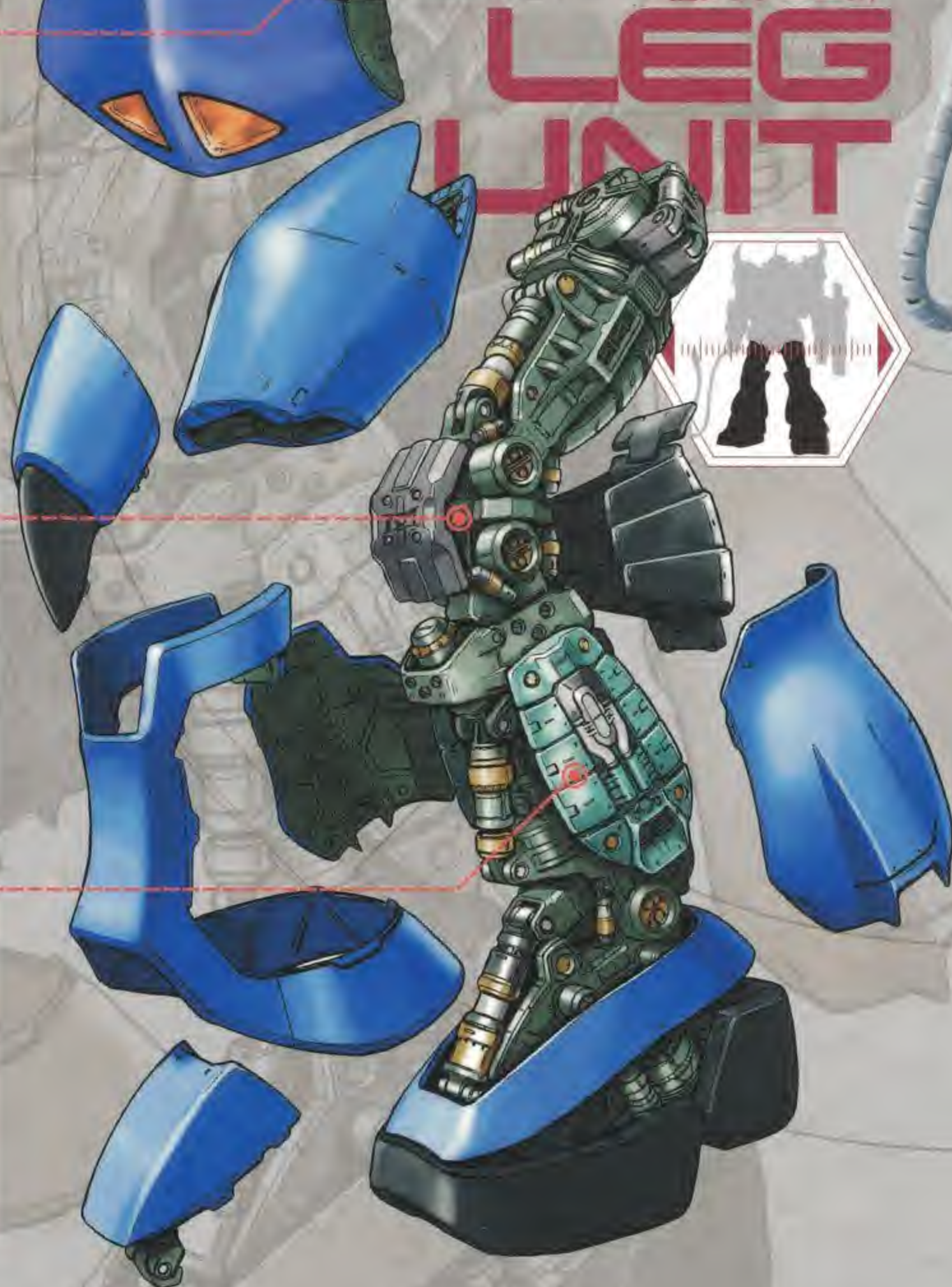
## サブスラスター

機動時の初期加速の向上やジャンプ性能の強化のために、脚部には高出力のサブスラスターを搭載。湿地帯や岩場などの不整地における走破性も格段に向上し、より地上戦に適応した機体に仕上がっている。また足底のスラスターも改良が施されている。

## ■ボディーモジュール



## ■レッグユニット





# MASTER GRADE MS-07B GOUF

■バンダイ ■発売中 ■2940円(税込)

上腕や足首などのパーツが一体成型になっているため、組み立ての負担が軽減。プラモデルに慣れていない人でも、手軽に作ることができる。ヒート・ロッドは特殊構造により、自由に折り曲げることが可能。各関節の可動範囲も広いので、劇中の名場面の再現も思いのまま。



◀頭部装甲を取り外すと内部メカが姿を現す。内部構造もしっかり再現されているので、MSファンは必見。



◀コクピットの開閉ギミックも設定どおり。コクピット内部のメカも丁寧に作りこまれているのでチェックを。



▶手のパーツを交換することで、ヒート剣を装備することも可能。使用しないときはシールド裏のマウントラッチに収納を。また、クラウレ・ハモンのフィギュアも付属している。



▲大きな特徴である腕部の構造もこれを見れば一目瞭然。装甲内に収納されている、脚部の動力パイプも見逃せないポイントだ。





モビルスーツせん

よう そう

いっ ぺん

# MS戦の様相を一変させた



PRINCIPALITY OF ZEON

エム エス **MS-09**

**DOM**

—ドム—

**HEAD UNIT**

■ヘッドユニット

**ARM UNIT**

■アームユニット

ホバー走行による圧倒的な機動力の高さを誇るジオン公国のMS。地球連邦のホワイトベース隊を沈めるべく実戦投入され、あと一歩のところまで追い込んだことから重力圏内における戦闘能力の高さが窺える。

## SPEC DATA

所属：ジオン公国

頭頂高：18.6m 本体重量：62.6t

ジェネレーター出力：1269kW

スラスター推力：5万8200kg

実戦投入とともに数多くの戦果を挙げた名機

ジオン公国は地球侵攻作戦において局地戦用MSの開発に着手。その結果、脚部に熱核ジェットエンジンによるホバーユニットを搭載したYMS-09プロトタイプ・ドムが誕生。その性能を認められたYMS-09は、改良を経てMS-09として実戦投入されたのだ。

**PILOT**  
黒い三連星

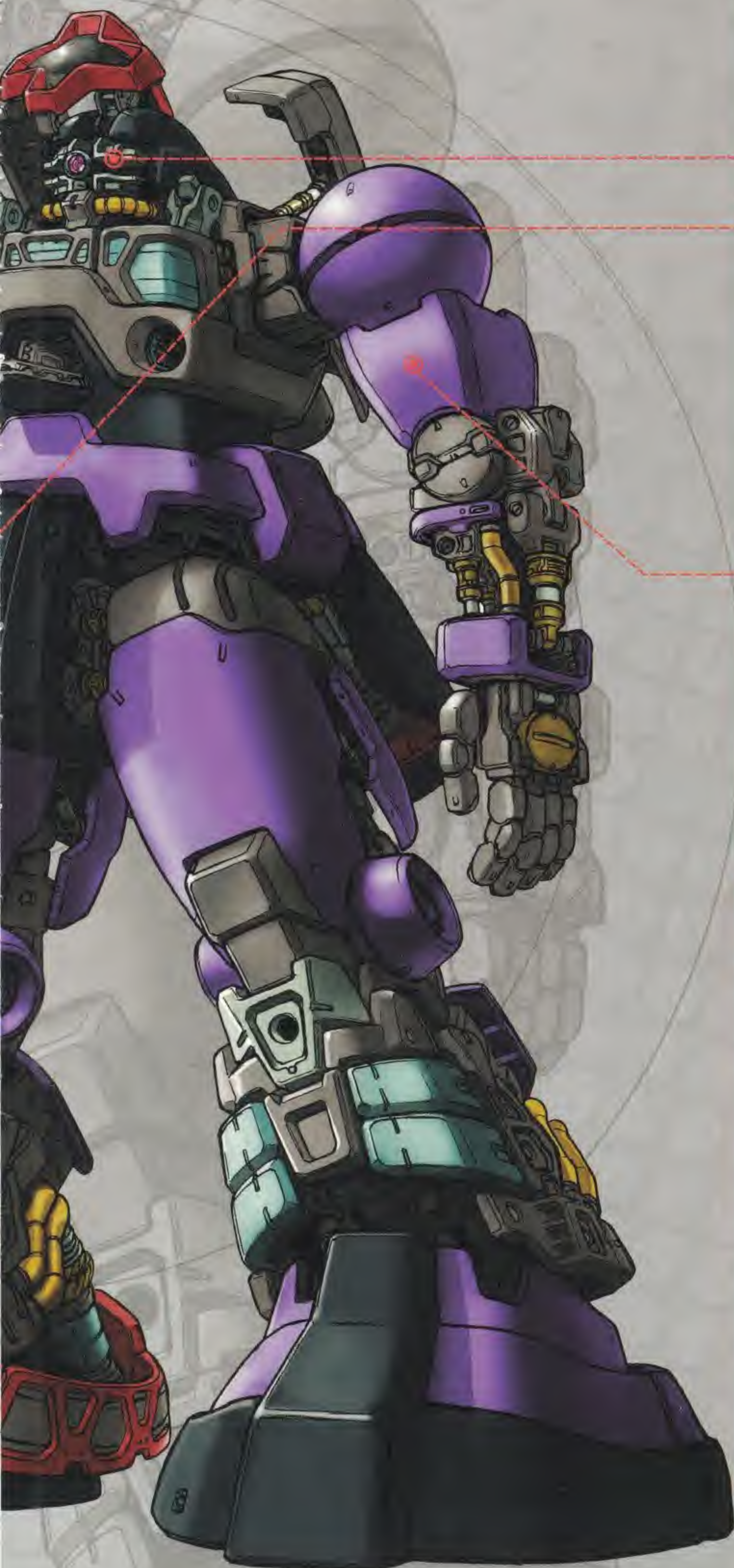


ガイア、マッシュ、オルテガの3人のパイロットからなり、MS-09を初めて実戦で使用した特殊部隊。ホワイトベース隊との戦闘時に、連携攻撃をガンダムに破られ全滅してしまう。





# こうき どう モビルスーツ 高機動MS



## モノアイレール

地对空戦闘などにおいても上方視界を確保することができるように、十字型のものが採用されている。側面の捕捉範囲はMS-06などよりも狭まったが、それは補助センサーの高性能化で、メイン・カメラでとらえる必要がなくなったからである。

## 動力伝達パイプ

戦闘時にウィークポイントになりやすい動力パイプは、すべて装甲内へ収納されている。これは機体のデザインが空気抵抗を考慮したものであることとも関係がある。外部に動力パイプが露出していると抵抗が生じ、機動力の低下を招く恐れがあったからである。

## 防塵処理

完全な陸戦仕様として開発されたため、機体各所には徹底した防塵処理が施されている。腕部ユニットが既存の機体と比べて極端に大型化して見えるのはこの処理のためである。特に走行時に砂煙を巻き上げる機体だけに、他機よりも厳重な注意が必要とされた。

## ワンポイント コラム

### 黒い三連星の機体

「黒い三連星」の異名は、一年戦争初期の戦闘で彼らが搭乗していたMS-06Sが黒を基調としたカラーであったことから付けられることになった。その後MS-06R-1A高機動型ザクⅡに乗り、最終的にMS-09のパイロットになるわけだが、いずれも同系カラーに塗装されている。彼らの戦果を称えてか、MS-09はそのカラーが量産機にも採用された。

▶ 部隊の名称は、突撃機  
動軍第7師団第1MS  
大隊司令部付き特務小隊。





## ジャイアント・バズ

一年戦争時に使用されたMS携帯用兵器としては、最大級の360mm G B 03Kバズーカ。メガ粒子砲には及ばないものの360mm砲弾の威力は凄まじく、巡洋艦クラスを一撃で大破させることが可能である。大戦末期にはMS-09以外のMSでも多用された。

## 推進用スラスター

既存のMSの場合、この部位のスラスターは補助的に機能するものがほとんどであった。しかしMS-09の場合は、その他のスラスターと合わせてホバー走行に欠かせないものとなっている。損壊は走行不能の事態を招くため、脚部のスラスターも装甲内に収納された。

## 熱核ジェットエンジン

足元のホバーユニットに高温高圧の空気を送り込むのに使用。あくまで機体を浮かすために活用するのが基本で、移動時は各スラスターの推力を利用している。また推進剤として液体水素を併用しているため、厳密に言えば熱核ハイブリッド・エンジンである。

## 推進剤タンク

ホバー走行の使用時間を延ばすために、MSの脚部搭載用タンクとしては大きいサイズのものが採用されている。そのぶん、脚部の巨大化は免れなかったが、これにより約5時間もの連続ホバー走行が可能となり、長期戦にも十分対応できる機体となったのだ。

## ホバーシステム

機体が宙に浮くのはジェットの噴射力のためではない。密閉された足底に熱核ジェットで空気を溜め、その空気の圧力で機体を地面から微妙に浮上させている。そして、その状態で各部の推進用スラスターを稼働させることで、任意の方向へ走行させる仕組みだ。

# WEAPON

■ウェポン



■レッグユニット

# LEG UNIT





## ヒート・サーベル

装甲を溶かすほどの熱を持つ接近戦用の武装で、敵を斬るよりも貫くことを目的としている。発熱デバイスは高効率でエネルギーを熱に変えることができるが、消耗が激しいため基本的には使い捨てである。携行時は背中のマウントラッチに装着するのが基本だ。

## 強化装甲

脚部にはホバー走行に必要なユニットがすべて収納されているため、装甲には厳重な注意が要求された。曲線で構成された脚部装甲は、走行時の空気抵抗を軽減させるためだけではなく、MS-06Fの頭部がそうであったように被弾率を低下させる役目も果たす。

## 足部センサー

足先には不整地における高低差や障害物を感知するためのセンサーが設けられ、随時前方の状態を監視している。本来、ホバー走行は不整地には適さないものであるが、このセンサーを搭載したことによって、あらゆる場面でホバー走行が可能になったのだ。

### ワンポイント コラム

## ジェット・ストリーム・アタック

黒い三連星が得意とする連携攻撃の呼称で、MS-09搭乗時にも対RX-78-2戦で使用している。これは、3機が縦一列に並んで敵機に接近し、先頭の機体から順に一撃離脱を行っていくという戦術で、もともとは対艦船戦闘用に考えられたもの。最初に単機特攻に見せるのがポイントのため、目視に頼るミノフスキー粒子散布下での戦闘で有効。

▶ それぞれの攻撃にアムロが驚異的な反応を見せ、連携攻撃は失敗に終わる。





## ブロック構造

MS-09のボディーユニットはジェネレーターブロックと胸部、頭部を別ブロックとし、機体稼動やメンテナンス面の向上が図られている。またコックピットブロックは、MS-06F以降のほとんどのMSと同じダイレクトインと呼ばれる搭乗方式が採用されている。

## スカートアーマー

下腹部を取り囲むように装備されたスカートアーマーは、それまでMSのウィークポイントとされてきた部位の被弾率を圧倒的に低減。ジオン公国内で非常に高く評価されたため、後に開発された機体にも同じようなタイプのアーマーが装備されることになった。

## 拡散ビームジェネレーター

脇腹に搭載された拡散ビームジェネレーターは、当初ビーム兵器用のエネルギーサプライターミナルとして開発された。しかし、ビーム兵器自体の開発が遅れていたため、MS-09の実戦投入時は低出力の拡散ビーム砲が搭載され、幻惑用の兵器として使用された。

## ワンポイント コラム

### MS-09R リック・ドム

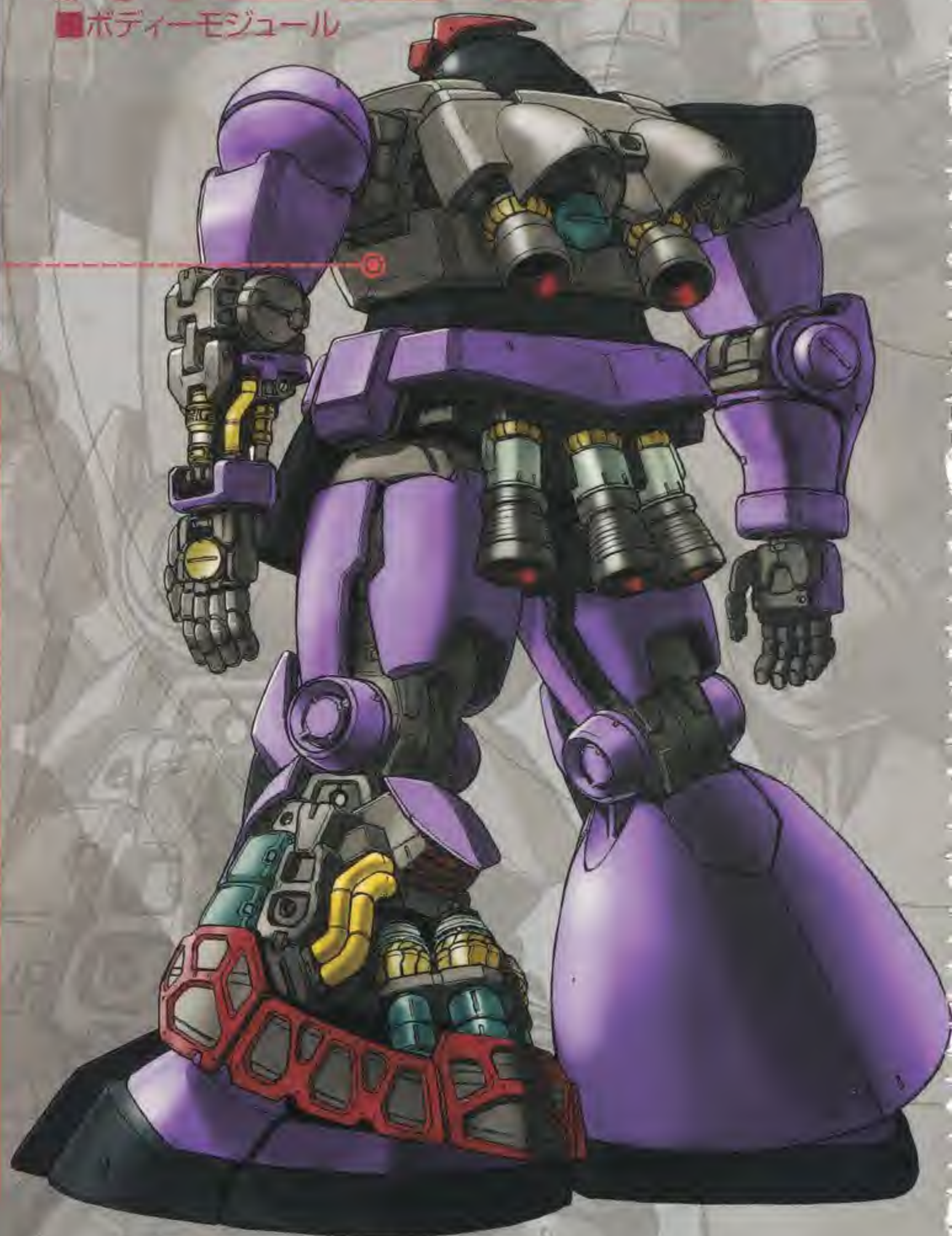
一年戦争後期に入って前線が宇宙圏へ移ると、それまでの戦果が評価されMS-09も宇宙圏へ配備されることになった。その際、高い機動力を保持するためにエンジンを熱核ロケット・エンジンに換装。名称をMS-09Rリック・ドムに変更した。ほかにも細かな点で改修が行われ、宇宙圏でも地上戦と同等の戦闘能力が発揮できるようになった。

▶各スラスターは、宇宙圏でもそのまま推進用として機能することに。



# BODY MODULE

■ボディーモジュール





# MASTER GRADE MS-09 DOM

■バンダイ ■発売中 4200円(税込)

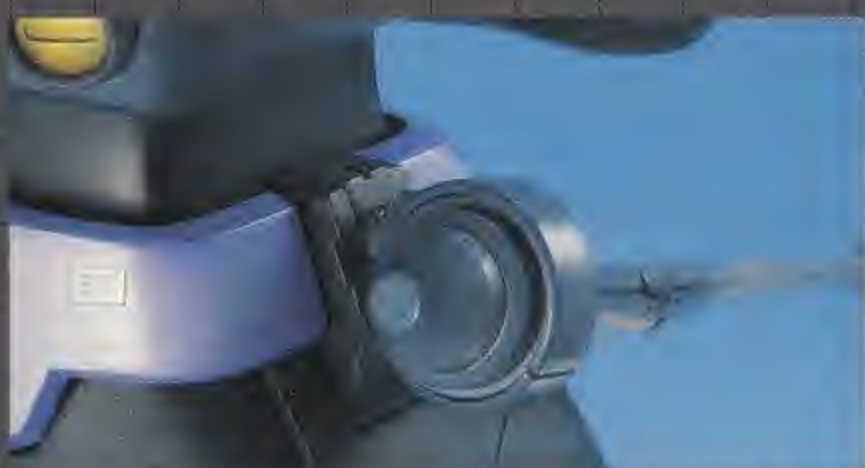
外装はもちろん、内部メカニクまで丁寧に作りこまれており、独特な重量感溢れるハイクオリティモデル。機体各部をリアルに再現するナンバー表記や注意書きといったマーキングシールがセットになっており、より高い再現性を誇る。



◀コクピットハッチの開閉が可能なので、ブロックの取り外しもできる。パイロットフィギュアも付属。



◀MS-09の最大の特徴である、ホバーユニットも完璧に立体化。レッグカバーを外すとメカニズムを一望できる。



▶ジャイアント・バズやヒート・サーベルなど、使用武装がすべて揃っているのもうれしいところ。一年戦争後期に多用されたMS用マシンガンや使い捨てロケットランチャーまで用意されている。



▲背中に設けられたヒート・サーベルのマウントラッチも設定どおりに機能。黒い三連星のひとり、オルテガのフィギュアも同梱だ。





# こう こん はつ ジオン公国初の

# りょう さん がた すい りく りょう よう モビルスーツ 量産型水陸両用MS



PRINCIPALITY OF ZEON

## エム エス エム MSM-03

# GOGG

—ゴグー—

ジオン公国が初めて量産化に成功した水陸両用MSであるとともに、ビーム兵器を標準装備した最初期の機体。MSが持つさまざまな可能性を、実用機として両軍に示した。

### SPEC DATA

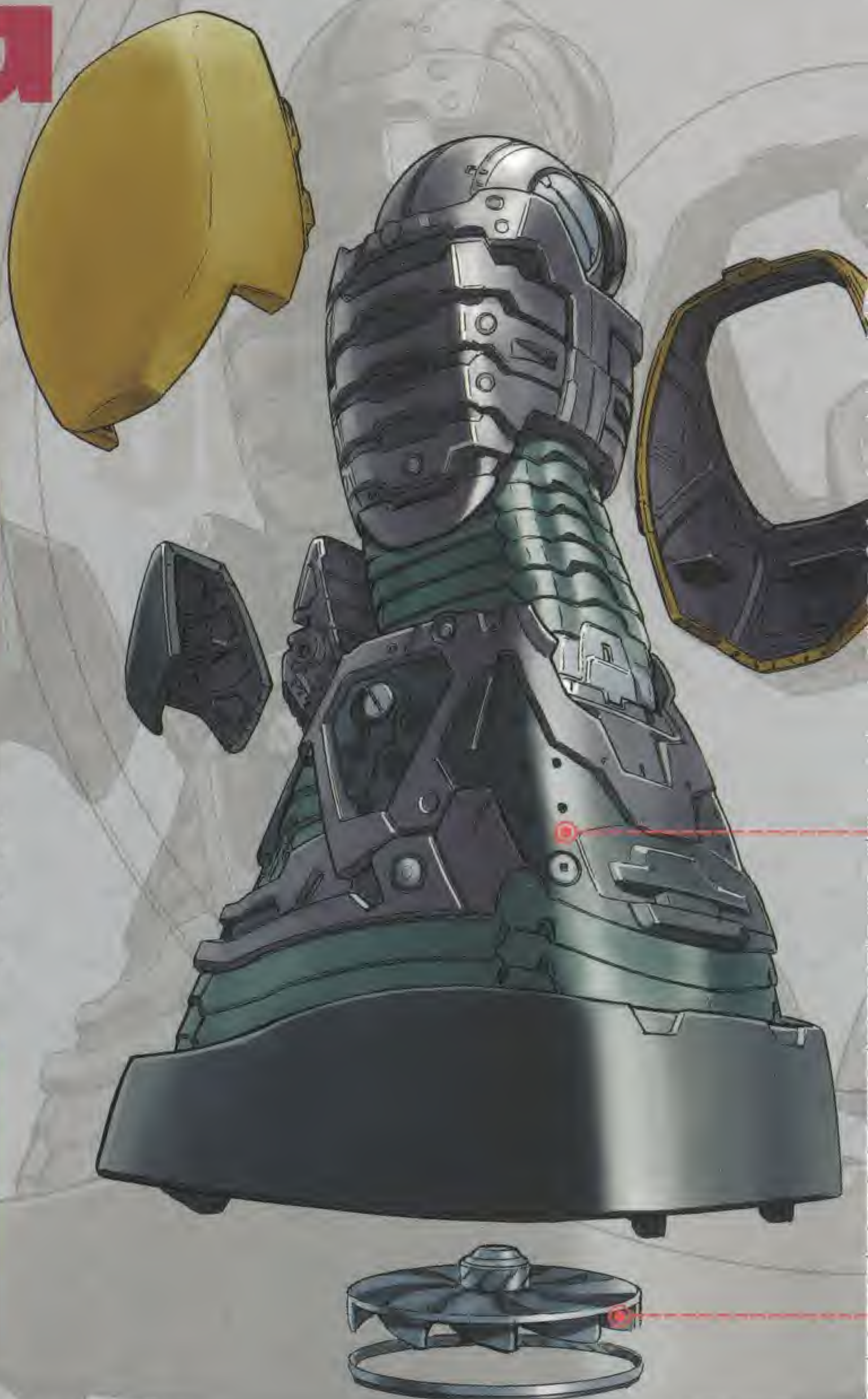
所属：ジオン公国  
 頭頂高：18.3m 本体重量：82.4t  
 ジェネレーター出力：1740kW  
 スラスター推力：12万1000kg

### こう こん せい モビルスーツ ジオン公国製MSにおける せんとうりょくそこ あ き ばん 戦闘力底上げの基盤

地球侵攻作戦のもと、ジオン公国では複数の水陸両用MSの開発が始まっていた。そのなかで早々に実用レベルまで到達し、量産化されることになったのがMSM-03である。この機体が実現したビーム兵器の搭載は、後のMS開発に大きな影響を与えた。

### PILOT パイロット こう こん いっ はん へい ジオン公国一般兵

MSM-03の運用は、地球に派遣された一般兵によって行われた。MSM-07など、より高い性能を持つ機体が後に控えていたため、本機はエースパイロットに支給されることはなかった。







## ■ヘッドユニット HEAD UNIT



## LEG UNIT



■レッグユニット

## マルチプルランチャー

ヘッドユニットは、目的に合わせて射出物を変更できるマルチプルランチャーを中心とした水密構造となっている。ランチャーは水中での使用も可能となっていて、信号弾や照明弾、さらにフリージャーードと呼ばれる特殊な榴弾を射出することができた。

## フリージャーード

敵の探知波や機雷などの索敵、掃討設備などを無効化することができる特殊装備。マルチプルランチャーより射出されたあと、機体の進行方向前方で破裂。内部の特殊な液体が海水などに反応し、ゲル状のシールドを形成して機体を包み込むように展開する。

## どうぶごうぞう 頭部構造

頭部構造は実にシンプルで、モノアイと航行に必要なソナー類、マルチプルランチャーの機構以外は何も装備されていない。ただし、後の機体用に何種類か実験的な意味合いの装置が搭載されたものもあったようで、何パターンかの仕様違いが存在していた。

## ねつかく 熱核 hidro ジェットエンジン

脚部は水中での稼動を前提に設計されており、熱核 hidro ジェットエンジンが搭載されている。陸上での歩行に関しては決して能力が高いとは言えず、それが後に開発されたMSM-07などに、主力量産兵器の座を譲ることになった大きな要因である。

## ていぶ 底部スクリュー

ジェットエンジンの射出口は、足底部にスクリューが取り付けられた形で備わっている。MSM-03の脚力が生み出す水中での移動能力は高く、海に出さえすれば、その行動半径は既存のMSスーツをはるかに上回る。広大な範囲を単機で移動できた、初のMSの一面も持つ。



## しゅう のう 収納システム

航行性能を向上させるために、MS M-03の腕部は、ショルダーアーマー内部に収納できるようになっている。これを実現させたのは、既存のMSと異なる肩関節の機構である。肩の関節部分には基部となる箇所がふたつあり、それぞれが機体内部へ折れ曲がる仕組みだ。

## フレキシブル・ベロウズ・リム

MS-06Fなどのマニピュレーターとは違い、腕部は自由度の高い複数の関節で構成されている。これは、各節のベロウズ部分を引き込むことで腕部全長を短縮。航行時に生じる抵抗を極限まで減少させることができたため、水陸両用MSに欠かせない機構となった。

## アクチュエーター

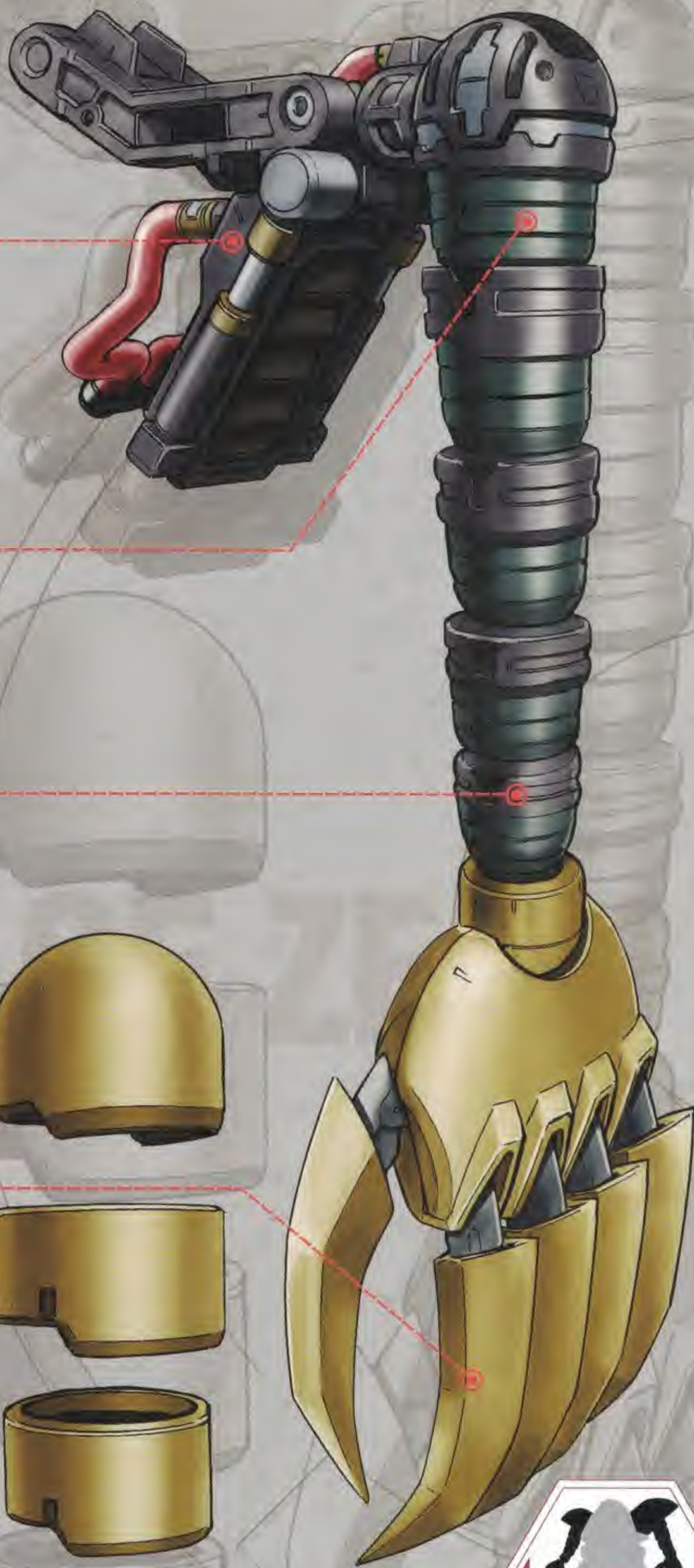
各節に内蔵されたアクチュエーターは、ショックアブソーバーとしても機能する。これにより、敵の打撃攻撃や投擲兵器を防御したり、受け止めることさえ可能であった。実際に対RX-78-2との交戦時に、ハイパーハンマーによる攻撃をつかんで受け止めてみせた。

## アイアンネイル

クロー状のアイアンネイルは、斬撃武装の代用として使用されるだけでなく、防御兵装としても使用できる強固さを持っていた。また、ルナ・チタニウム合金で防御されているRX-78-2の頭部をつかんで、装甲に穴を開けたことから、その鋭さが窺える。

## そう こう 装甲

装甲材は、チタン・セラミック複合材を採用している。基本的に装甲は厚めに設計されているが、腕部に関しては機構の関係上、あまり厚みを持たせることはできなかった。ちなみに、コスト面などから装甲自体への防水処理は基本的に施されていない。



■アームユニット

# ARM UNIT



マスターグレード  
**MASTER GRADE**  
エム エス エム ゴッグ  
**MSM-03 GOGG**

■バンダイ ■発売中 ■3675円(税込)

腕部にはボールジョイントによる稼動と引き伸ばし構造を採用。フレキシブル・ペロウズ・リム機構を持つ機体ならではの、広い可動領域を確保している。水中での抵抗を最小限に抑えるために設計された、丸みのある独特なデザインを完璧に立体で再現。記念すべきジオン公国初の量産型水陸両用MSを、自分の手で完成させよう。



▲冷却機構に水冷式を採用することにより、ジェネレーターの高出力化が実現。メガ粒子砲が搭載可能になった。

◀航行形態に欠かせない、腕の短縮&収納ギミックも完璧。両腕部分をショルダーアーマーに収納することが可能だ。



▲5本のアイアンネイルは独立可動式。腕部の自在な動きと合わせて、多彩なポーズを楽しもう。



▲MSM-03の機体各所は、一定間隔で機体を区切って防水壁とするパルクヘッド構造になっている。





# ジオン公国の技術力を 立証した水陸両用MS

## MSM-07S Z'GOK

—ズゴック—

水中戦のみならず、陸上戦においても高い戦闘能力を誇る機体。その完成度はジオン公国製MSのなかでもトップクラスで、実戦導入後すぐに、先行して量産されていた他の機種に替わって主戦力として活躍した。

### SPEC DATA

所属：ジオン公国  
 頭頂高：18.4m 本体重量：65.1t  
 ジェネレーター出力：2480kW  
 スラスター推力：8万3000kg

水陸両用の強さを見せつけた  
 高性能量産機

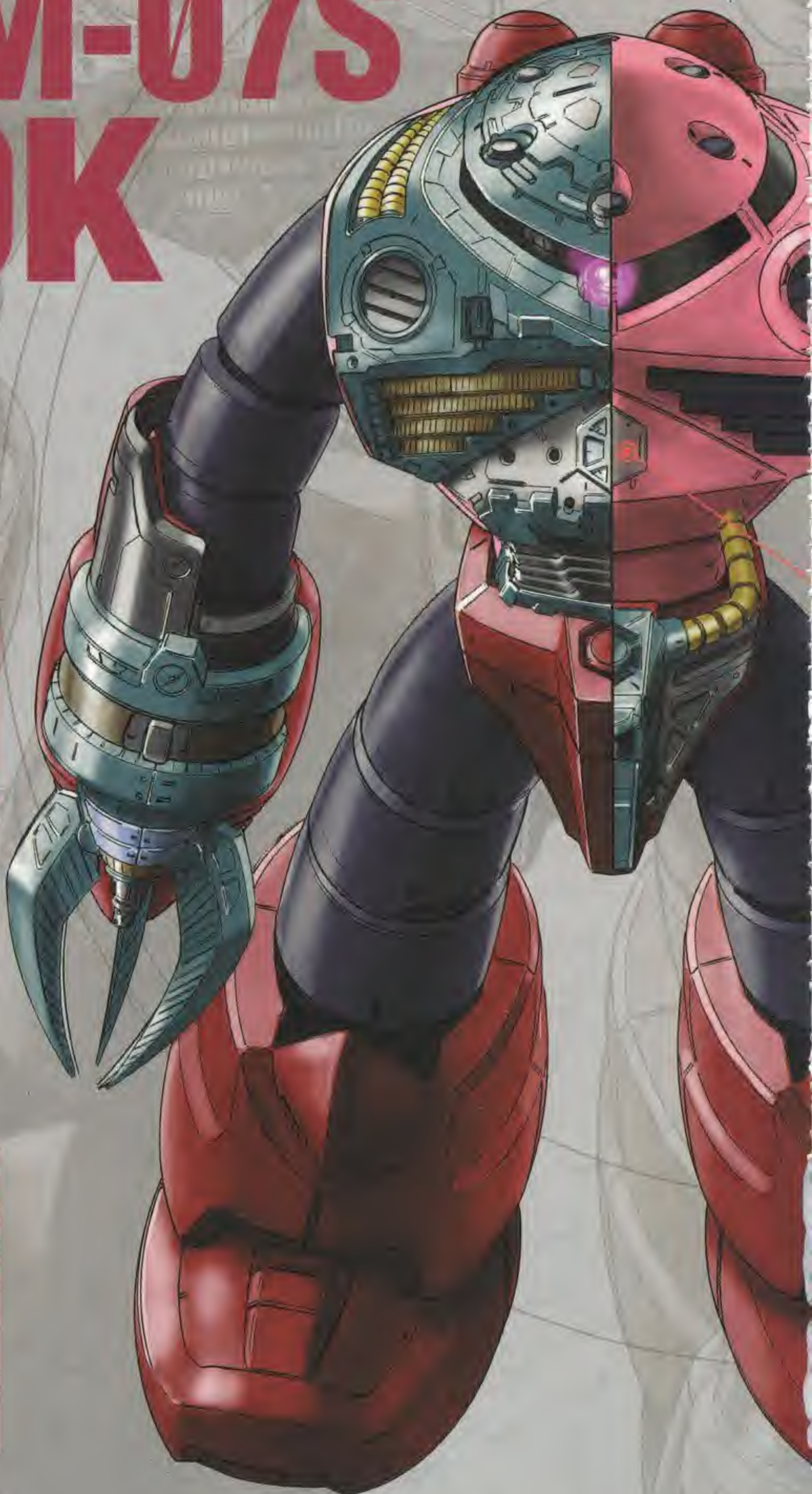
MSM-03と同時期に開発が始まった機体だが、設計の見直しや先に運用されたMSM-03のデータのフィードバックもあり、結果的に量産化が遅れてしまった。もう少し早く完成していれば、地上での戦況が変わったかもしれない。

### PILOT

シャア・アズナブル

MSM-07のパイロットで有名なのはシャア・アズナブル

だ。MSM-07Sという型式の指揮官用の機体を操り、ジャブロー攻略戦においてRG M-79を一瞬で撃破してみせた。







ぜん しゅう

## 全周ターレット

頭部と胴体が一体となった構造のため、モノアイは可動範囲がより広いものを採用。これによりパイロットは、機体後部の状況まで目視することができた。また、潜行中に水上の様子を監視する際にも役に立ち、戦艦などからの攻撃に瞬時の対応が可能だ。

## バルクヘッド

機体の各部分は、独立したブロックで構成されたバルクヘッド構造を採用。この構造によってメンテナンス性が向上するだけでなく、破損時に機体全域が浸水するのを防ぐことができる。また量産機ゆえに、組み立てやすさを考慮した構造は評価が高かった。

## コクピット

強固なシーリングシステムによって保護されているコクピット。内部は、潜行時などに機体が傾いても平衡を保つ機能が備わっている。操作性がMS M-03と異なるため、主力量産機がMS M-07に移行した際に、操作面で頭を悩ますパイロットも少なくなかった。

### ワンポイント コラム

## MSM-07とMSM-07S

通常の量産機がMSM-07で、指揮官用に機動力が強化された機体がMSM-07Sにあたる。シャアの機体が赤かったのは、「赤い彗星」の異名が示すように彼が搭乗する機体のパーソナルカラーが赤系統であったため、MSM-07Sがすべて同カラーというわけではない。また、一年戦争後期には、通常の量産機もすべてMSM-07Sに移行した。

▶ S型は機動力の強化に伴い、ノーマル機よりも陸戦能力が向上している。



■ ボディーモジュール

# BODY MODULE



## かく しゅ 各種センサー

航行に欠かせない各種センサーが、この先端部分に内蔵されている。頭部のセンサー類と併用され、より精密なデータ採取に重宝する。なお、これらの技術は新たに開発されたものではなく、基本的には旧世紀の潜水艦などのものがそのまま流用されている。

## アイアンネイル

単なる斬撃武装としてだけでなく、機体全体の動きと連動させることによって強力な打突兵器とも化す。ジャブロー攻略戦においてシャアの駆る機体がこの攻撃を行い、RGM-79の装甲を貫通させたシーンは有名。また、マニピュレーターとしての機能も持つ。

## りゅう し ほう メガ粒子砲

ジオン公国の水陸両用MSに共通するのが、このメガ粒子砲の搭載である。可動範囲が広い腕部にアイアンネイルが搭載されているため、攻撃範囲が非常に広い。射程距離は20km以上にもおよび、低空で飛行する航空機を海上から迎撃することも少なくなかった。

## こう 高トルクアクチュエーター

腕先のアクチュエーターには、高トルクのものが採用されている。これはアイアンネイルを打突兵器として使用する際に、爪先をしっかりと固定することで攻撃力をアップさせるための処理である。これにより、ある程度の硬度のものならば握り斬ることも可能だ。

## ふく ごう ざい チタン・セラミック複合材

装甲にはそれまでのMSに使用していた超硬スチール合金ではなく、チタン・セラミック複合材が使用されている。MSM-03も同素材の装甲を使用しているが、どちらも水中での運用において軽量の素材で、なおかつコストが低いものが求められたからと思われる。

# BACK PACK

バックパック



# ARM UNIT

アームユニット





## ブレード

航行時にはスクリューとしてだけでなく、整流板の働きも担う。初期生産型において破損報告が多かったため、S型では上質な部材が採用されることになった。隠密作戦への参加も想定されていたことから、スクリューまわりには消音処理が施されている。

## ハイブリッドエンジン

ランドセルには、熱核ジェット・エンジンと熱核水流ジェット・エンジンのハイブリッドエンジンを搭載している。簡単にいえば陸地では空気を、水中では水を高速噴射するというエンジンで、これらを使い分けることで水陸両方での高い機動力を実現した。

## 240mmミサイル砲

頭部に6門装備しており、1門あたりの装弾数は5と決して多い方ではない。水中でも発射可能であるが、耐圧深度の関係もあり、基本的には水上で使用。腕部のメガ粒子砲と同じように、その威力と射程の長さを生かして対空武装として活躍した。

## 発射管

水中での砲撃を可能にするため、発射管には与圧機能が備わっている。ちなみに頭部と胴体が一体構造になっているのは、航行時の抵抗を軽減するためもあるが、最たる理由は頭部にミサイル砲のユニットを搭載するのに十分なスペースが必要だったからである。

## サプライケーブル

S型の機動力向上のために、追加されたケーブル。当初の設計になかったため、外装とフレームの間に設置することとなった。初期生産された量産機と後期に生産されたS型量産機とは外装面はまったく同じなので、サプライケーブルの有無で見分けよう。

■ウェポン

# WEAPON



## とうぶ けいじょう 頭部形状

水陸両用MSに共通する形状で、航行時に抵抗を減らすために丸みを帯びた設計になっている。さらにMSM-07の場合、頭部に当たる部分が胴体に深く入り込んでおり、周辺の装甲強度向上が図られている。これにより、格闘戦での損傷率が大幅に低下した。

## インテーク

すぐ真下にも大きめのインテークが設けられていることから、冷却に必要とされる空気や水の量が膨大であったことが窺える。その反面、冷却媒体を外から得るため、搭載する冷却水の量が減少。結果的にMSM-03よりも約17tの軽量化が実現している。

## こうしゅつりょく 高出力ジェネレーター

それまでの水陸両用MSとは異なり、水冷式と空冷式ラジエーターを併用する独自のジェネレーターを搭載。冷却効果が非常に高く、2門のメガ粒子砲を使用するのに十分な出力を得ることができた。MSM-07の攻撃力の高さは、高出力ジェネレーターならではの。

## こうぞう フレキシブル・ベロウズ・リム構造

腕部と脚部には、MSM-03にも使われていたフレキシブル・ベロウズ・リム構造がそのまま採用されている。伸縮性と自由度が高く、陸地での歩行や水中での航行を行う水陸両用機にとって最適であり、ジオン公国の技術力の高さが垣間見える構造といえる。

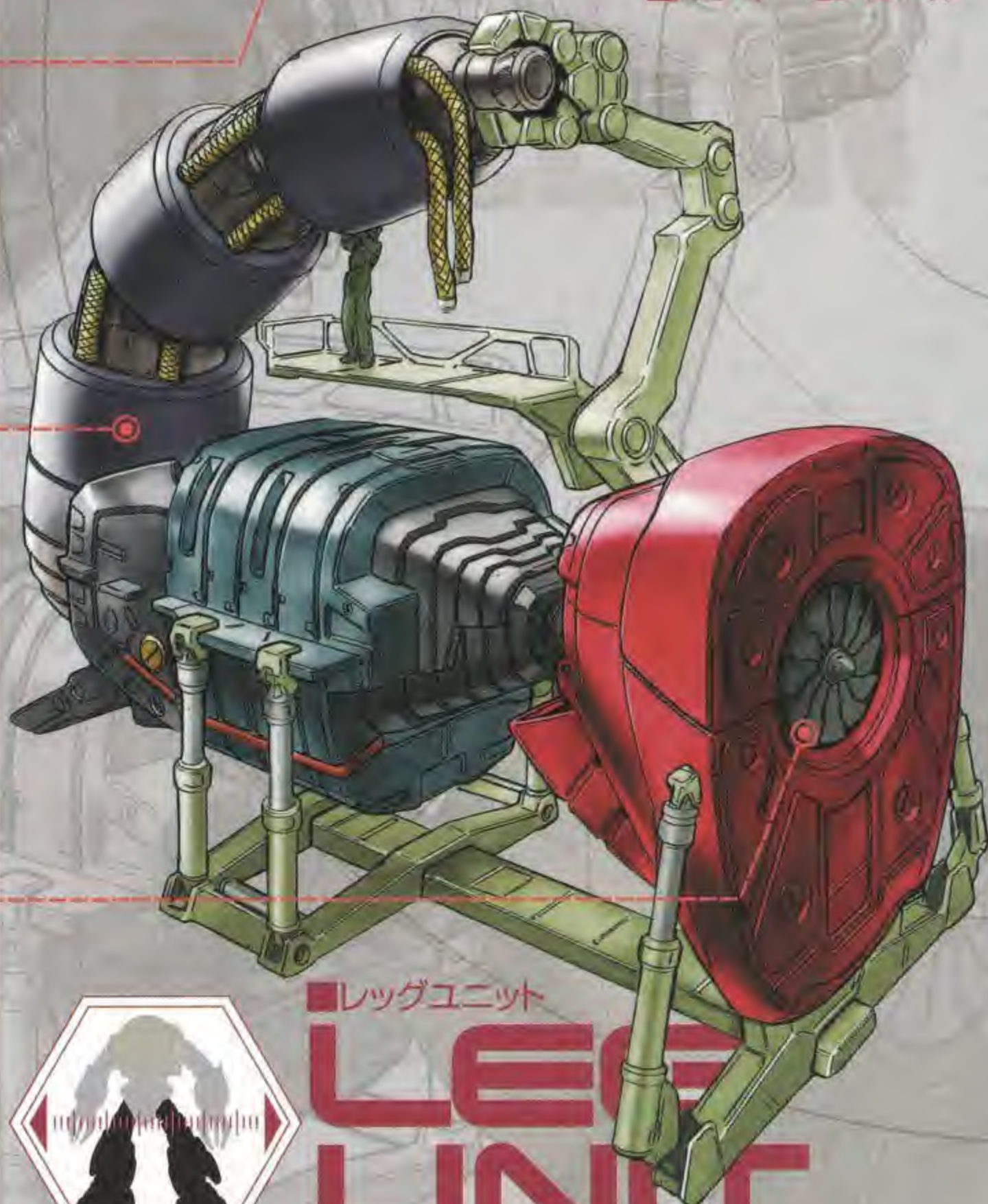
## ていぶ 底部スクリュー

足底部にはランドセルと同規模のハイブリッドエンジンを搭載。航行用として活躍するのはもちろんだが、陸上ではジャンプ時に使用されることが多い。さすがに重力圏内で飛行できるほどの威力はないが、ジャンプ力は従来のMSより格段に向上している。



# BODY MODULE

■ボディーモジュール



■レッグユニット

# LEG UNIT





マスターグレード  
**MASTER GRADE**  
エムエスエム スズゴック  
**MSM-07 Z'GOK**

■バンダイ ■発売中 ■3150円(税込)

両腕と両足にはジャバラパーツを採用し、フレキシブル・ペロウズ・リム構造を再現。独特な動きを立体モデルで楽しむことができる。また、防水処理をイメージさせる軟質素材を使用している点も注目すべきポイントだ。アイアンネイルの開閉ギミックも搭載されているので、名場面の再現も自在だ。



▲可動式のカメラアイや開閉式のコクピットハッチなど、設定に沿った多種多様なギミックが用意されている。



▶3本爪はもちろん、劇場用ポスターに描かれた幻の4本爪のパーツも付属している。



マスターグレード エムエスエム スズゴック  
**MASTER GRADE MSM-07S Z'GOK**

■バンダイ ■発売中 ■3150円(税込)

シャア専用ズゴックと呼ばれるS型のマスターグレードモデル。腕部と脚部のジャバラパーツは新型ポリパーツの使用により、伸縮動作が可能になっている。



◀ディテールの細かさは言うことなし。自立しない足底の構造も、見事なまでに忠実に再現されている。



▲ランドセルやボディー部の装甲は着脱可能。ふだんあまり見られない、機体背部の内部構造もしっかりチェックしておこう。



# 低コスト化を実現した 廉価版水陸両用機



PRINCIPALITY OF ZEON

## MSM-04 ACGUY

—アッガイ—

それまで開発してきた水陸両用MSの技術を整理し、十分な性能を持ちながらも、より低コストで量産可能な機体が誕生。機体の随所に隠密性の強化が図られているため、水際の偵察任務などで活躍することになった。

### SPEC DATA

所属：ジオン公国  
頭頂高：19.2m 本体重量：91.6t  
ジェネレーター出力：1870kW  
スラスター推力：10万9600kg

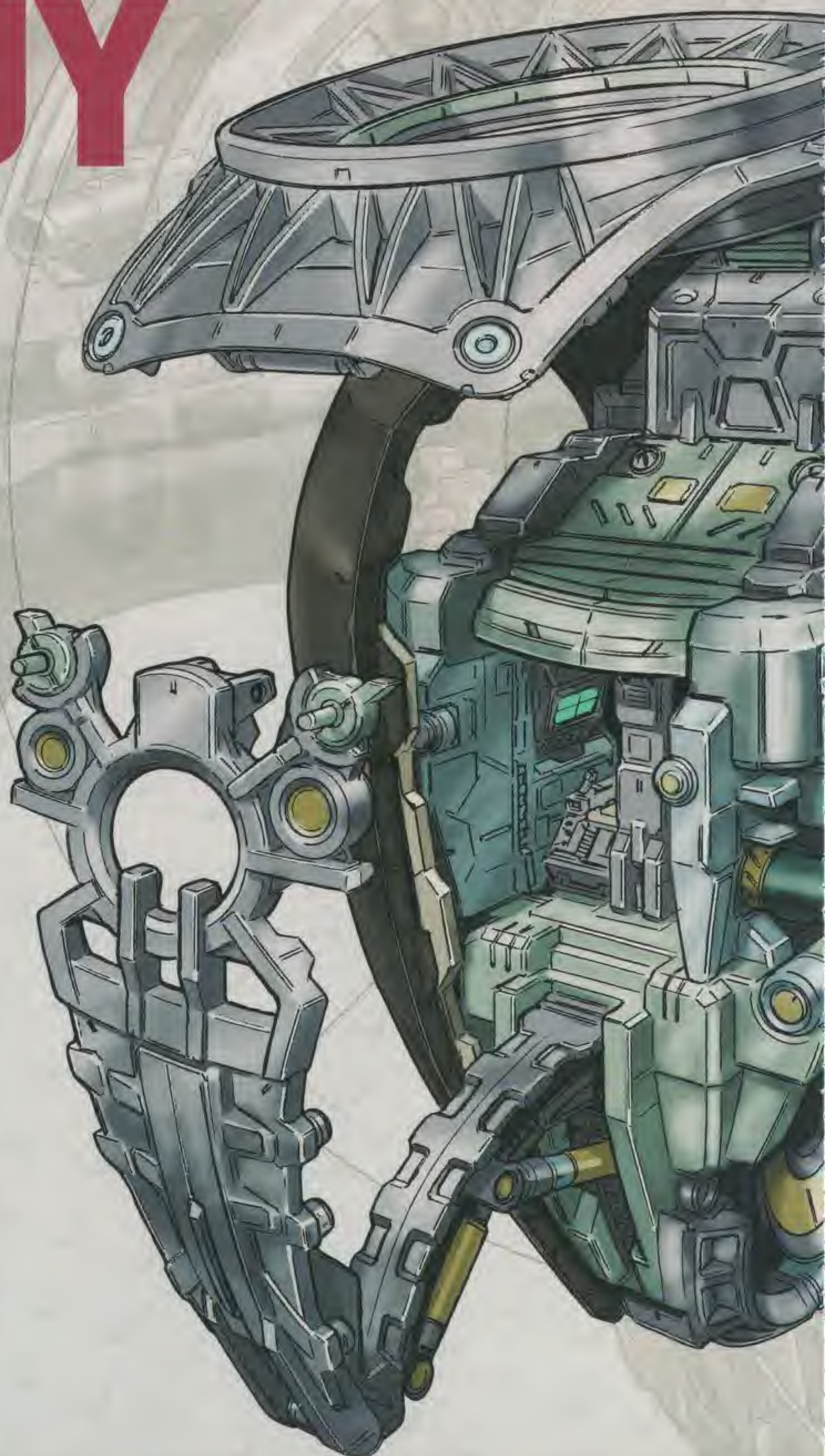
MSM-03よりも調達容易な  
水陸両用MS

MSM-03とMSM-07の開発において、生産コストが高いという問題が浮上。これを受けて、低コストで生産できる水陸両用MSの開発が行われ、MSM-04が誕生することになった。低コストによる大量生産は、ジャブロー侵攻に備えた部隊強化の一環でもある。

PILOT  
ジオン公国特殊工作員

偵察任務をはじめとする隠密作戦での運用が主であった

め、パイロットには特殊工作員が選出されることが多かった。なかでも有名な人物が、赤い鼻をした通称「アカハナ」だ。





## 電波吸着剤

隠密性の向上のために、装甲には電波吸着剤の塗装などが施されている。さらに機体カラーも、湿地などにおける視認性が低いダークブラウン系を基調としている。ジオン公国製のMSのなかで、運用目的に合わせて機体色が設定されるのは珍しいケースである。

## 各種センサー

ボディーモジュールに水陸両用機に必要な機能をほとんど収納できなかったため、各種センサーなど水中行動に必要な装備の大半が頭部に集中している。また、レーダーやソナーなど、戦術的に必要となるセンサー類は、EWAC機に匹敵する高スペックを誇る。

## 105mmバルカン砲

頭部にはモノアイのターレットを挟む形で、バルカン砲としては口径が大きい105mm機関砲が搭載されている。RX-77-2がそうであったように、メインカメラ付近に設置されているため、モニター上の視野と火線の方向が一致しやすく攻撃を迅速に行うことが可能だ。

## 基本フレーム

基本フレームをはじめ、ボディーに使用されている部材は基本的にMS-06Jのものが流用されている。他の水陸両用機よりも生産コストを抑えることができたのは、この流用のおかげだといえよう。また、航行用に必要な部材はMS M-03のものが流用されている。

## ジェネレーター

大出力ジェネレーターの開発はコスト的に不可能だったので、ジェネレーターはMS-06Jのものが2基搭載されている。また水中航行時は1基のみの稼働としたことで、排熱量が大幅に軽減。熱センサーで発見されにくいというメリットが生じる結果となった。

■ヘッドユニット

# HEAD UNIT



■ボディーモジュール

# BODY MODULE



## フレキシブル・ベロウズ・リム

MSM-03と同様に、自由度の高い複数の関節で構成されたフレキシブル・ベロウズ・リム機構を採用。ただしMSM-04の場合は、航行時の抵抗軽減のためというよりも、陸上での戦闘に対応するためである。これにより、前腕部での攻撃性能が向上しているのだ。

## アイアンネイル

右腕のみに搭載された格闘戦用の兵器で、マニピュレーターとしても機能する。アイアンネイル自体はMSM-03のものを流用しているが、本数が6本に増えているうえ、腕部構造の改良で最大で15m以上ものリーチを獲得。格闘戦能力は大幅に向上している。

## 機関砲

アイアンネイルの中央には機関砲を搭載。対MS戦で主要武装として使えるほどの威力はないので、牽制用として使用されるケースが多い。また、拠点潜入などにおいては施設の破壊のほか、対人兵器として活用することも。弾倉は前腕部に装備されている。

## 6連装ミサイルランチャー

左腕部には、6連装ミサイルランチャーを内蔵。腕部の可動範囲の広さもあり、攻撃範囲は非常に広い。ちなみにMSM-04の前腕部はユニット化されており、戦術に合わせて換装が可能になっている。仕様によっては、両腕にミサイルランチャー搭載も可能である。

## アクチュエーター

アクチュエーターも信頼性と耐久性で実績のある、MS-06Jのものが流用されている。水陸両用MSの場合、脚部には水中での抵抗軽減を目的とした機構が採用されているが、MSM-04の場合は本来の目的ではなく、陸上での運動性強化の機構として応用している。





# MASTER GRADE MSM-04 ACGUY

■バンダイ ■発売中 ■4200円(税込)

腕部の伸縮や肘関節の動き、アイアンネイルの伸縮収納など、ジオン公国の技術を結集した数々のギミックを楽しむことができる。ちなみにMSM-04の機体形状も隠密性に配慮した設計になっており、航行時にソナーなどに表示されるシルエットは、一見、鯨などの海洋生物と見分けがつかないのだ。



▲専用のディスプレイスタンドは、潜水艦の外装をイメージしたもの。エフェクトパーツなどを配置して、航行シーンを演出しよう。



▶足底に装着可能なエフェクトパーツで、航行時のジェット水流を表現している。クリア成型で本物の水流のような完成度。



▲劇中の1シーンを再現できるフィギュアが付属。また、腕部や脚部の装甲は取り外し可能で、内部メカニズムを楽しめる。



▲設定を裏付けた多重構造の内部機構を再現。MS-06 Jのフレームを流用しているが、コクピット部はシートスライド機構を廃止。



# ジオン公国が誇る 次世代主力MS



PRINCIPALITY OF ZEON

## MS-14A GELGOOG

—ゲルググ—

ジオン公国におけるMSの新たな標準機として開発された量産型MS。S・ビーム・ライフルを標準装備し、その基本性能はRX-78-2をも凌ぐといわれている。開発時期が遅かったことが、非常に悔やまれる機体だ。

### SPEC DATA

所属：ジオン公国

頭頂高：19.2m 本体重量：42.1t

ジェネレーター出力：1440kW

スラスター推力：6万1500kg

本格的に対MS戦を想定した初めての機体

一年戦争中期、ビーム兵器の携帯が可能になった次世代主力MSとして開発が始動。先行量産型の改修を経たあと、MS-14の型式番号とともに本格的な量産が開始された。しかし、実戦投入されたときはすでに一年戦争末期であり、戦局を覆すことは不可能であった。

### PILOT

シャア・アズナブル

量産機であるため、多くのジオン公国パイロットが搭乗したが、なかでも印象的な存在がシャアである。機体は先行量産型のものであったが、RX-78-2と激戦を繰り広げた。



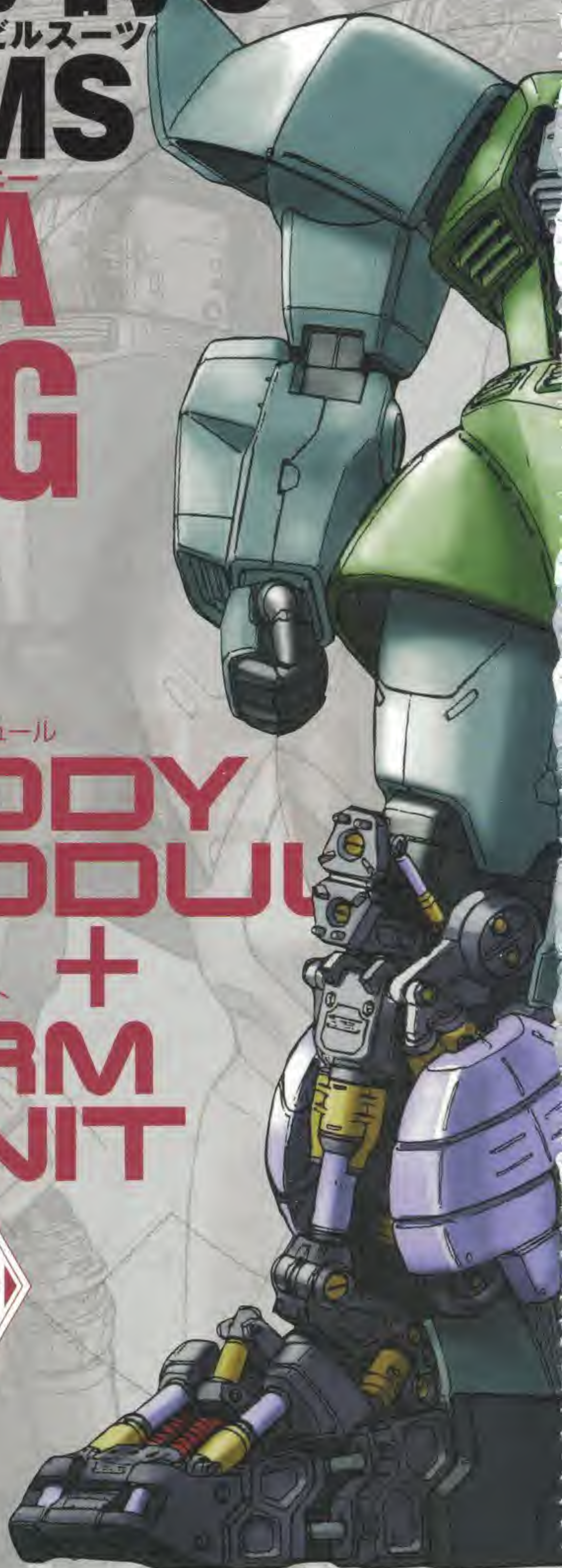
### ■ボディーモジュール

## BODY MODUL

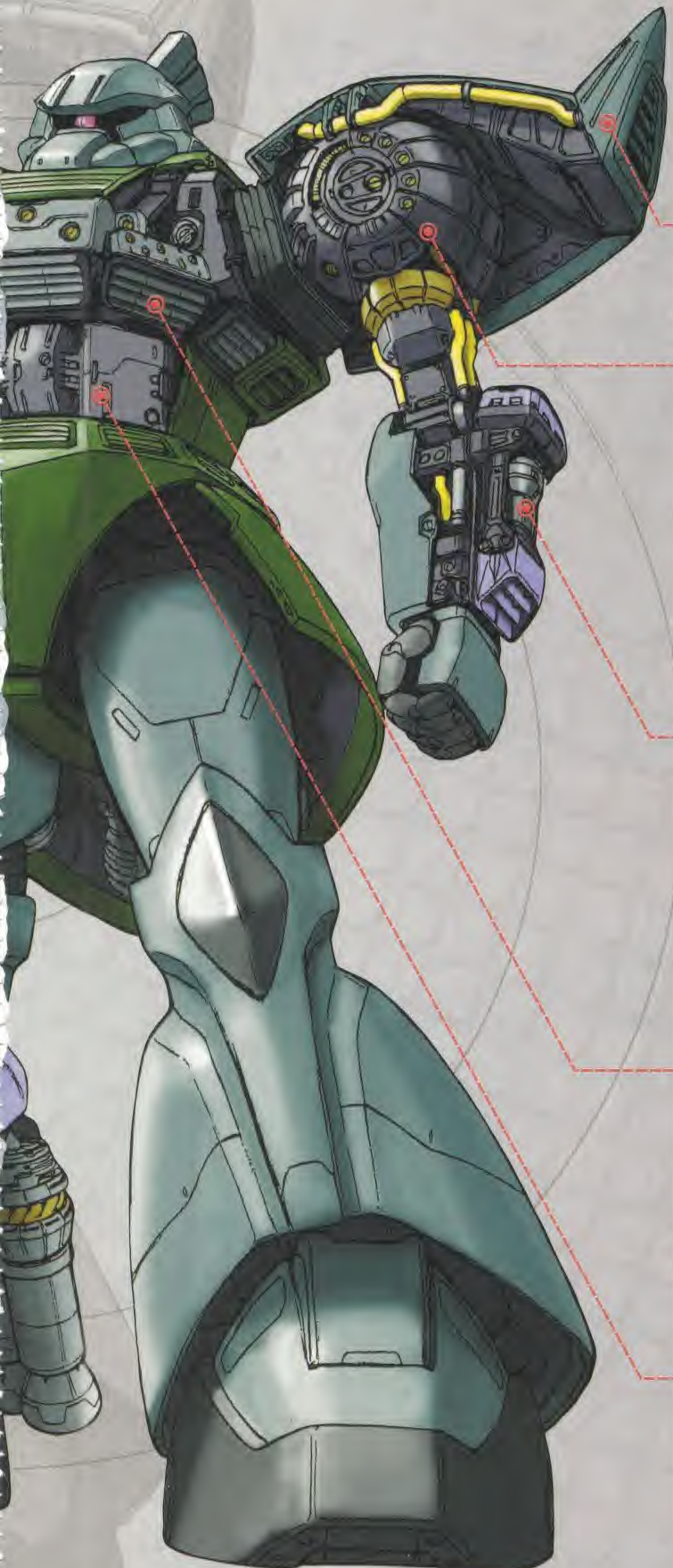
+

### ■アームユニット

## ARM UNIT







## サブスラスターユニット

肩部のアーマーは、MS-06Fなどの機体とは異なるコンセプトで設けられている。既存の機体は主に対格闘戦用として用意されることが多かったが、MS-14Aの場合は関節の保護と同時に、サブスラスターユニット搭載による機動性の向上のための装備である。

## 駆動装置

各関節部分に採用されている駆動装置は、技術の進化によってMS-06Fと同程度の能力ながらも小型化と高速化が図られている。さらに、機体そのものの反応速度が改善されていることもあり、運動性はMS-06Fと比べものにならない飛躍的な向上を見せた。

## 熱核ジェットエンジン

腕部に搭載されている熱核ジェットエンジンは、基本的に地上戦を想定した補助推進装置で、コロニーなどの大気が存在する無重量領域でも有効とされていた。宇宙空間では不要なものであるため、補助的な追加武装や防御装備に換装する機体も少なくなかった。

## インテーク

機体内部冷却用の大気を吸排気する装置。高出力ジェネレーターに備わっている冷却装置が、まかないきれない分を補っている。MS-06Fなどと比べるとジェネレーターの出力が上がっているため、内部の温度上昇は激しく、冷却機能を徹底する必要があった。

## コクピットブロック

ボディーモジュールは、大きく3つのブロックに分割されている。これは、機体の運動性を高めるためにも有効であったが、実際はパイロットの生還率を高めるための仕様であった。この点は、地球連邦のRX-78-2の構造を参考にした可能性を否定できない。



## エネルギー供給装置

ビーム・ライフルやビーム・サーベルといったビーム兵器へのエネルギーの供給は、手のひらを通じて行われている。駆動装置や各種デバイスが小型化されているにもかかわらず、MS-06Fと腕のボリュームが大差ないのは、この装置が内蔵されているためだ。



## ビーム・ナギナタ

専用に開発されたビーム・サーベルユニット。単にサーベルとして使うだけではなく、両端からのビーム生成が可能で、薙刀状のビームを形成することもできる。ただし両端に生成した状態での取り回しは非常に難しく、片側のみでの使用が主流だった。

### ワンポイント コラム

## YMS-14 (MS-14S)

シャアに引き渡された先行量産機YMS-14は、MS-06Sからの流れでMS-14Sと呼ばれることもある。機体は赤く塗装されていたものの、性能自体は特別特化していたわけではない。むしろ試験運用とデータ収集的な意味もあったため、テキサス・コロニーにおける戦闘中に不調をきたし、撤退を余儀なくされた。



▲25機が造られ、各エースパイロットに渡された。

## 主力兵器をめぐる争い

MS-14Aと同時に、次世代主力兵器候補として開発されていた機体があった。それが白兵戦に特化したYMS-15である。この2機の運命を分けたのは、ビーム兵器の有無で、MS-14Aが量産化されたのは、これを標準装備できたことが大きな要因だ。YMS-15はスペック的に装備が不可能で、幻の量産機と化した。



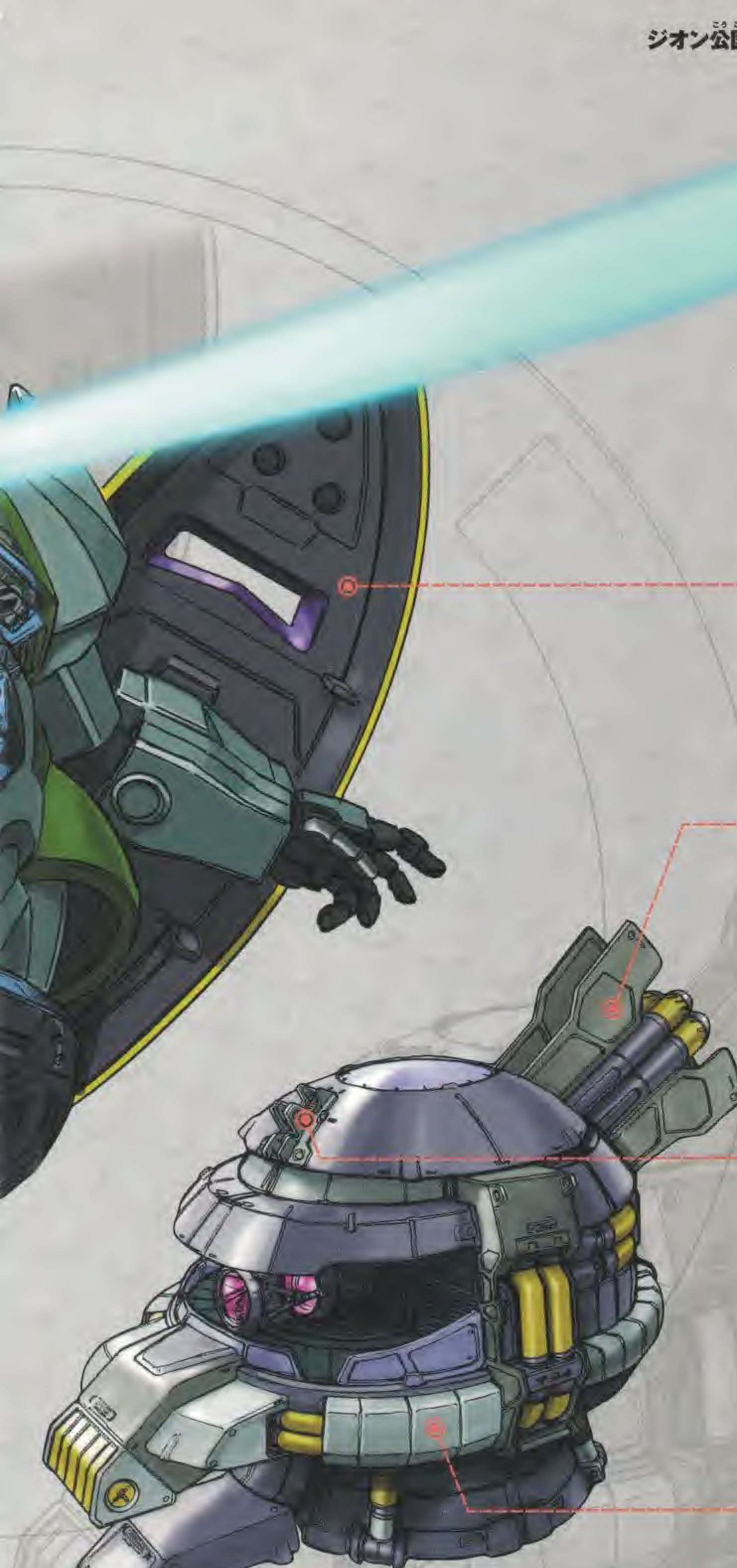
▲特化した機体が仇となり、競作に敗れることに。

# WEAPON

■ウェポン







## シールド

マニピュレーターでの保持のほか、腕部に固定しての運用も可能なシールド。耐ビーム・コーティングが施されており、実体弾のみならずビーム兵器にもある程度耐えられる。携行時は邪魔にならないように、背中のオプションポートに接続することが多い。

## 高性能センサー

これまで指揮官機クラスの機体に優先装備されていた高性能センサーやコンピュータフレームが標準装備されたため、どの機体も優れた通信機能を持っている。後頭部には複数のセンサーが内蔵されたハイブリッドセンサーを装着。アンテナとしても機能している。

## マウントラッチ

指揮官用のブレードアンテナを装着するマウントラッチ。ただし、標準機でも通信機能が強化されているため、ブレードアンテナによる通信性能の向上は微々たるものである。むしろ性能強化というよりは、単に指揮官である証として装着するケースが多い。

## 動力伝達パイプ

MS-14の頭部は、MS-06Fの構造を小型化、高密度化したものである。各デバイスなどの小型化により頭部にスペースができたため、動力パイプは内蔵されることになった。また量産化されるにあたり、パイプまわりの冷却構造やセンサー配置が変更されている。

■ヘッドユニット

# HEAD UNIT





## オプションハッチ

開発当初からオプション装備が想定されていたため、機体背部にはオプションポートが設けられている。基本的にはオプションなしでも十分な性能であったが、一撃離脱作戦に対応するためのブースター・パックなど、特殊任務用のオプションが開発された。

## ジェネレーター

ビーム兵器の搭載が前提となっていたため、ジェネレーターは高出力かつ高効率のものを搭載。これは水陸両用MSをベースにしたもので、すでにメガ粒子砲などを搭載したMSで実績と信頼のあるジェネレーターであるだけに、改良にはさほど苦労はなかった。

## ハイブリッドスラスター

スカートアーマー内のスラスターには、宇宙圏では熱核ロケット・エンジンとして機能し、大気圏内ではジェット・エンジンとして機能するハイブリッドタイプのものを採用。これにより推進剤の節約が可能で、より長時間にわたって行動できるようになった。

## 増設バーニア

第1期生産型量産機の実働データのフィードバックを受け、第2期生産型からはスカートアーマーのリア部に、バーニアが増設されることになった。この仕様変更がパイロットに高い評価を受けたこともあり、後に開発される多数の機体に同仕様が継承された。

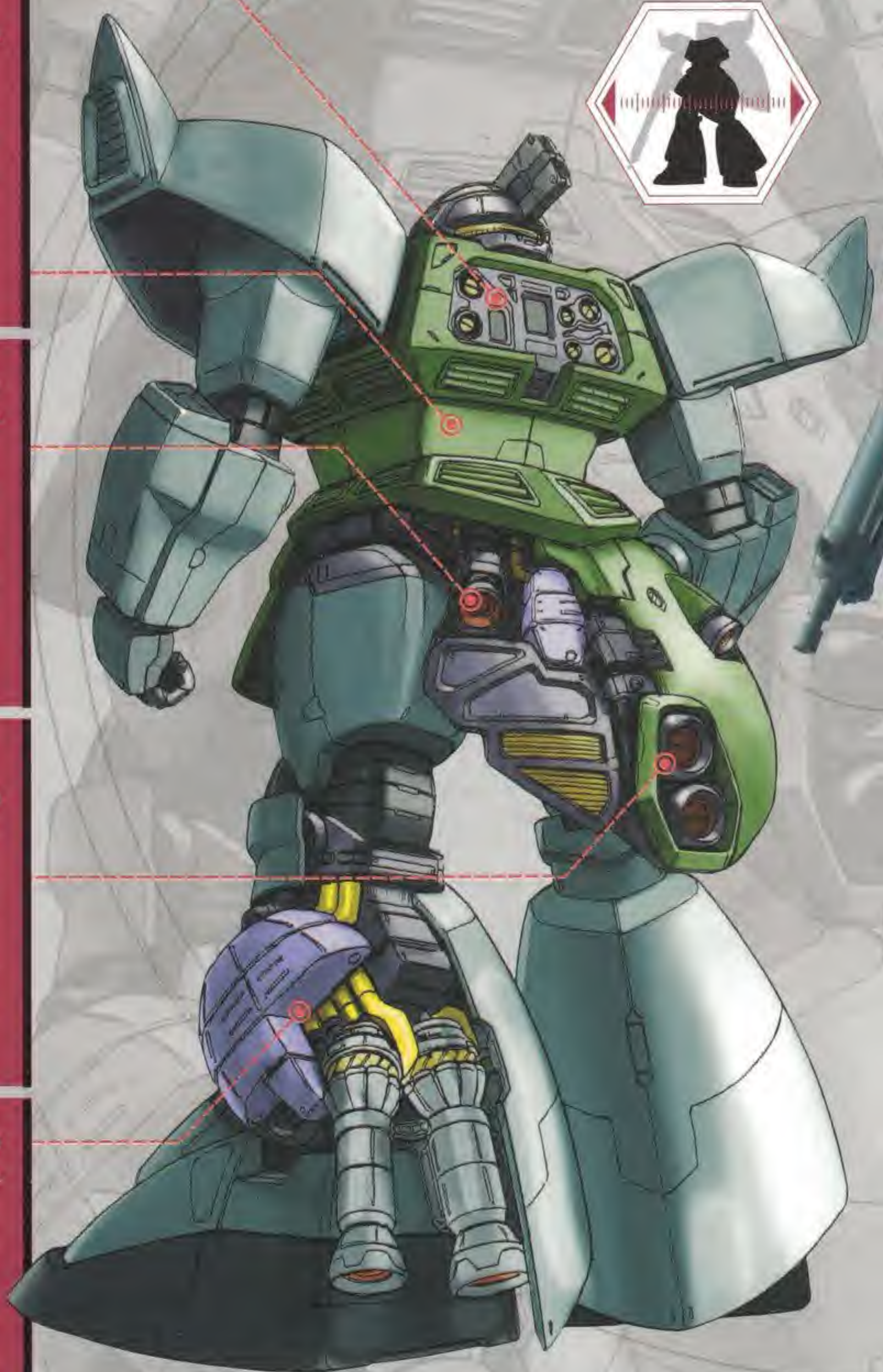
## バーニアスラスターユニット

MS-14Aは、脚部全体が巨大なバーニアスラスターユニットというコンセプトのもとで設計が行われている。そのため歩行関係の機構は最小限に抑えられ、宇宙圏での機動力が求められた。結果、内部のほとんどがスラスター用の機構で構成されている。

# BODY MODULE + LEG UNIT

■ボディーモジュール

■レッグユニット





マスターグレード  
**MS-14A GELGOOG**

■バンダイ ■発売中 ■3150円(税込)

劇中のさまざまなシーンに対応できる、豊富な武器パーツが魅力。ビーム・ナギナタはクリアパーツでビームの輝きを再現している。脇関節には柔軟性あるゴムパーツが採用されており、表情豊かなポージングが可能。ジョオン公国が生んだ最高峰の量産機を、立体モデルで堪能せよ。

◀脚部スラスターのバーニアノズルや関節部のシリンダーなどまで完璧に再現され、ファン納得の完成度。

◀オプション装備のブースター・バックも付属。これで推進力強化型であるMS-14Bとして仕上げることも。

◀スカートアーマー内の構造も完全に立体化。手首パーツの交換で武器を構えたポーズも思いのまま。

マスターグレード **MS-14S GELGOOG**

■バンダイ ■発売中 ■3150円(税込)

シャアが搭乗した先行量産機がマスターグレードで甦る！ パーソナルカラーである赤を基調としたデザインを再現。指揮官機らしいブレードアンテナが目を引き。

▲ジョオン公国のMS開発技術が結集した機体だけに見どころ満載。装甲を外して、内部メカニクの細かいところまでチェックを。



# 高い白兵戦能力を持つ 対ガンダム用MS

## SPEC DATA

所属：ジオン公国  
頭頂高：19.9m 本体重量：52.7t  
ジェネレーター出力：1360kW  
スラスター推力：5万6200kg

## 白兵戦に特化して開発された RX-78-2キラー

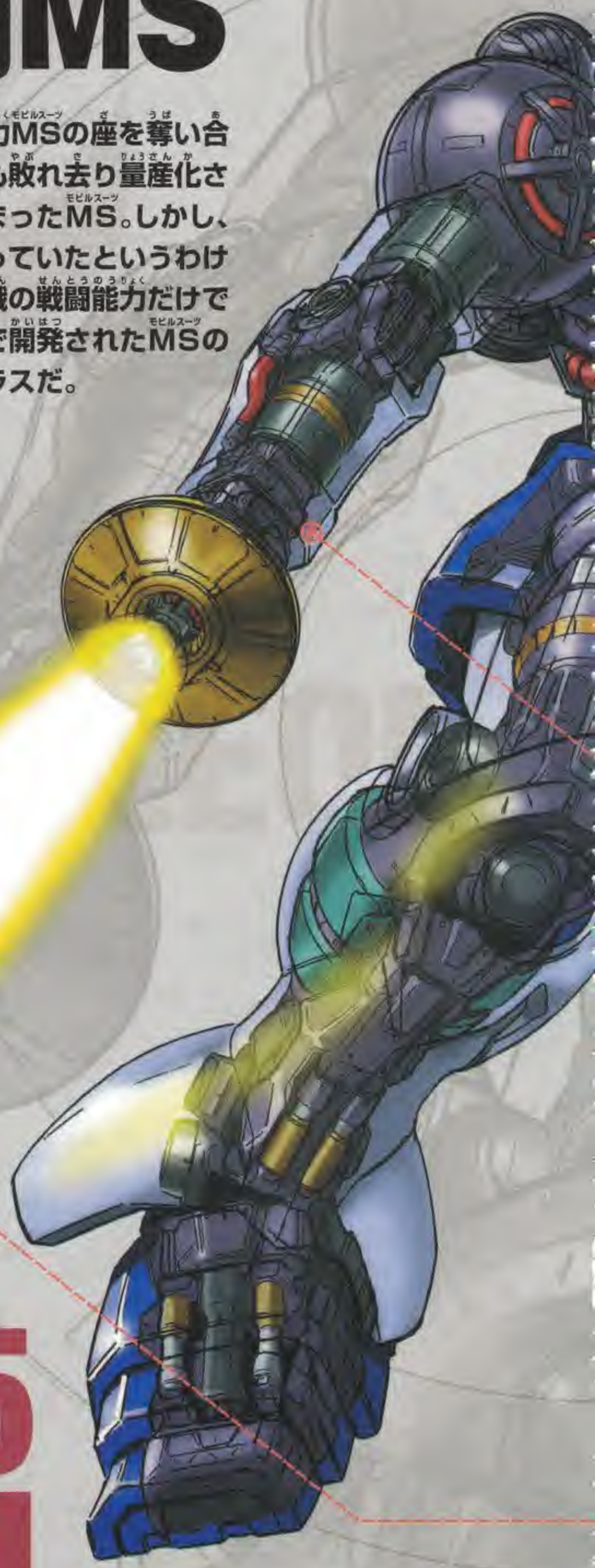
一年戦争後期に公国軍が推進した「第2期主力MS開発計画」に基づいて開発されたMS。RX-78-2との戦闘を想定した、高度の白兵戦能力を備えていたが、総合性能で上回るMS-14が制式採用されたことにより、その後の開発は中止となってしまった。

## PILOT マ・クベ



試作機として開発された3機のうちの1機に、マ・クベ大佐が搭乗。対MS戦は初心者であったが、ニュータイプとしての能力の片鱗を見せ、RX-78-2に善戦した。

MS-14と主力MSの座を奪い合ったが、惜しくも敗れ去り量産化されずに消えてしまったMS。しかし、決して性能が劣っていたというわけではなく、白兵戦の戦闘能力だけで見れば一年戦争で開発されたMSのなかでも最強クラスだ。

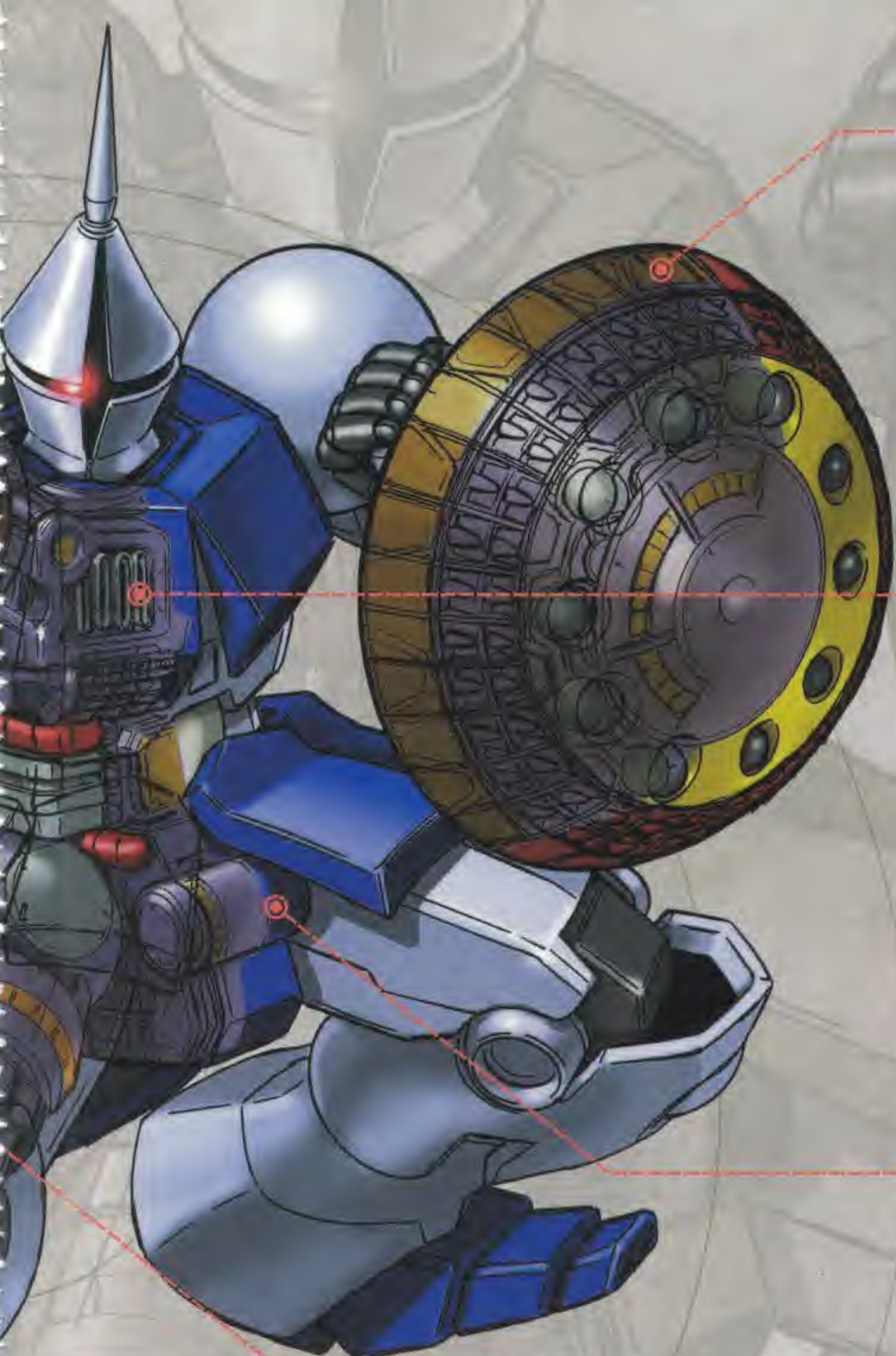


ワイ エム エス  
**YMS-15**  
**GYAN**



—ギャン—





## ミサイル・シールド

攻守一体の武装として開発された装備。基本的には一騎打ちでの使用を前提にしているため、広範な防御性能は排除された。攻撃用としては、ハイドポンプと呼ばれる機雷が25基、ニードルミサイルが60基も搭載されている。

## ボディーレイアウト

ボディーユニットにMS-06のようなブロック構造を採用し、さらに地球連邦製MSのボディーレイアウトを参考にした調整が施されている。ちなみに背部のランドセルは、姿勢制御やチャージ時のブースターとして機能するが、空間戦闘能力は高くはなかった。

## ウエストユニット

ウエストユニットには流体パルスアクセレーターと呼ばれる機能を搭載。各部で余ったエネルギーを蓄積し、必要に応じてアクチュエーターなどに送り出すため、レスポンスとトルクが大幅に向上。その結果、優れた白兵戦能力を発揮できるようになったのだ。

## リストジョイント

腕部ユニットは、専用ビーム・サーベルによる刺突の動作を重視した調整が施されている。そのため、腕部の伸縮レスポンスは屈指の性能を誇っていた。また格闘戦を想定しているため、リストジョイント部の可動範囲の拡大と、レスポンスの強化も行われている。

## ビーム・サーベル

ビーム・ライフルを使用できるほどの出力は持たなかったが、YMS-15にも高出力ジェネレーターが搭載されていた。主要兵器であるビーム・サーベルを使用するのに十分な余力を持っており、地球連邦製の標準的なものよりも高出力のビーム刃を形成できた。

# BODY MODULE

■ボディーモジュール

+

# ARM UNIT

■アームユニット

+

# WEAPON

■ウェポン





## モノアイ・スリット

防御力向上のため、モノアイ・スリットは既存のMSよりも幅が狭く作られている。しかし、映像処理フレームの改善で、視界はむしろ他の機種よりも広い。また、格闘戦時などに相手を見失わないように、後方視界もメインカメラでフォロー可能になっている。

## モノアイ

モノアイの性能は今までと大きな差はないが、その軌道はナロー化されていてレール移動の速度が向上。捕捉スピードが上がったため、攻撃に対して素早い反応がとれるようになった。高い運動性能を誇るRX-78-2と戦うことを考えると、喜ばしい改良である。

## インテーク

YMS-15の頭部はコンパクトにまとめられ、格闘戦に対応すべく形状が整えられ部材が配置されている。極力余計なものを外部に露出しないように設計されているため、動力パイプも含め頭部の冷却用インテークも小型化され、装甲内に収められることになった。

### ワンポイント コラム

#### 白磁の壺

YMS-15に搭乗していたマ・クベ大佐は、任務の傍ら骨董品集めに夢中になっていた。数あるコレクションのなかでも、彼がもっとも大切にしていたのが「白磁の壺」である。これを上官にあたるキシリア・ザビへ献上するよう部下に託したが、その後部下は戦死。自分もRX-78-2との戦闘に敗れたため、その願いは叶わずに終わった。

▶RX-78-2との戦闘で、マ・クベは機体を斬り裂かれて命を落とした。



■ヘッドユニット

# HEAD UNIT



MASTER GRADE  
YMS-15 GYAN

■バンダイ ■発売中 ■3780円(税込)

YMS-15のプラモデルのなかでは最高峰のクオリティを誇るのが、このマスターグレードモデルである。股関節の軸が左右独立して前後に動くため、従来のプラモデルでは不可能だったポーズを楽しめるようになった。つま先部分が可動式なことも、このモデルならではの注目ポイントだ。



▲専用マウントラッチの採用により、シールドで多彩な構えが可能に。迫力の戦闘シーンを再現しよう。



▲ニードルミサイルの発射シーンを手軽に演出できるように、専用のエフェクトパーツが付属している。



▲白兵戦に特化した機体は、ソリッドなシルエットを備えている。オプションとして、白磁の壺を持つマ・クベのフィギュアも付属。



▶ビーム・サーベルには発光ギミックを搭載。別売りのボタン電池を使用することで、内部の発光ダイオードが点灯する仕組みだ。





# ジオンの名を冠した 公国最後のMS

開発計画上では80%の完成度の状態で、一年戦争の決戦の地であるア・バオア・クーに姿を現した機体。相打ちながらRX-78-2を撃破したことから、戦闘能力的には100%完成していた機体であると言っても過言ではない。

**SPEC DATA**

所属：ジオン公国

頭頂高：17.3m    本体重量：151.2t

ジェネレーター出力：9400kW

スラスタ推力：18万7000kg

## ジオンの技術が結集した ニュータイプ専用MS

ニュータイプの可能性に着目したジオン公国は、一年戦争末期、その能力を生かした武装であるサイコミュ兵器の実用化に成功。これを搭載した主力MSの開発に着手した。その結果、MS-06Fをベースにした試作機を経て誕生したのがMSN-02である。

**PILOT**  
シャア・アズナブル

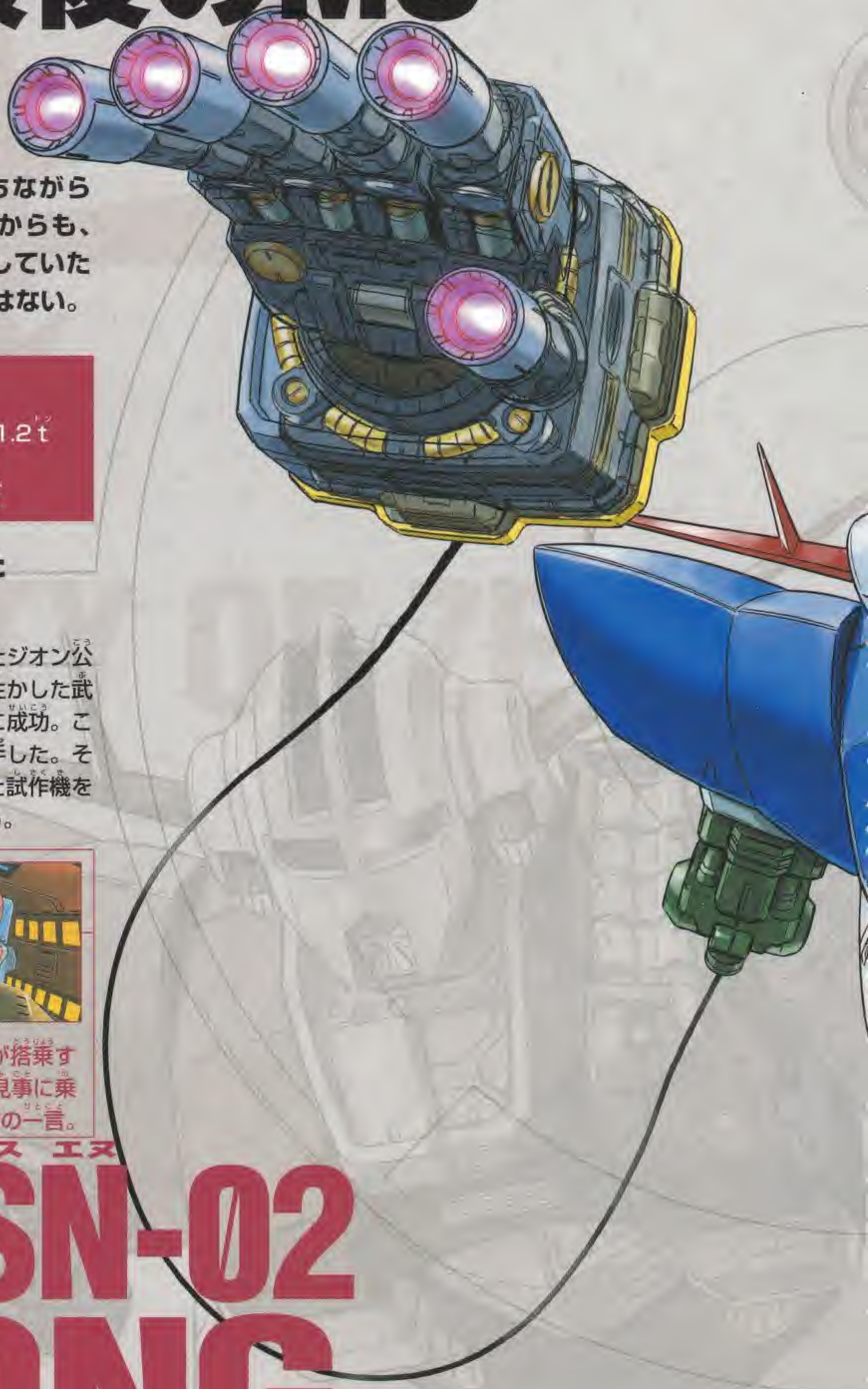
当初パイロットは決まっていなかったが、先の戦闘でMS-14Sを中破させられたシャアが搭乗することになった。初搭乗ながらも見事に乗りこなすことができたのは、さすがの一言。



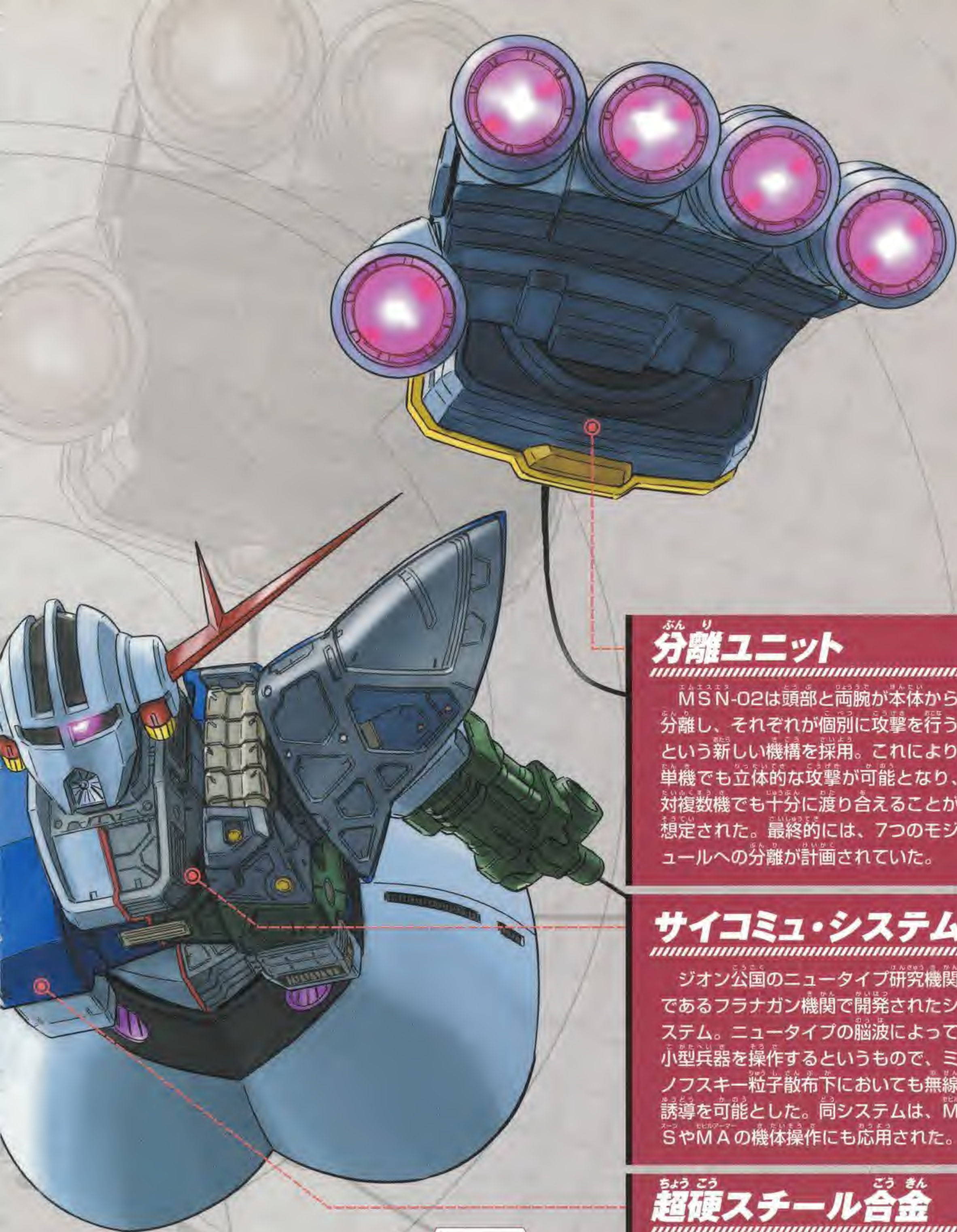
PRINCIPALITY OF ZEON

# MSN-02 ZEONG

—ジオング—







## ぶんり 分離ユニット

MSN-02は頭部と両腕が本体から分離し、それぞれが個別に攻撃を行うという新しい機構を採用。これにより単機でも立体的な攻撃が可能となり、対複数機でも十分に渡り合えることが想定された。最終的には、7つのモジュールへの分離が計画されていた。

## サイコミュ・システム

ジオン公国のニュータイプ研究機関であるフラナガン機関で開発されたシステム。ニュータイプの脳波によって小型兵器を操作するというもので、ミノフスキー粒子散布下においても無線誘導を可能とした。同システムは、MSやMAの機体操作にも応用された。

## ちょうこう 超硬スチール合金

装甲材はMS-06Fと同じ超硬スチール合金を採用しているが、装甲厚が異なるため耐弾性は圧倒的に高い。ただし、これは実体弾の攻撃に対してであり、ビーム兵器に関しては十分とは言えなかった。事実、RX-78-2のビーム・ライフルで装甲を貫かれている。

■ボディーモジュール

# BODY MODULE





## コクピットブロック

MSN-02の頭部は、機体と独立稼動するコクピットブロックとしてだけではなく、移動用バーニアなどを備えた小型の宇宙戦闘艇としても機能するものであった。これは脱出装置として使用する際にも役立つもので、パイロットの生還率の向上への配慮が窺える。

## エネルギー充電システム

通常時はボディーユニットからエネルギーが供給されるが、分離したときに備え、複数の高容量コンデンサーとエネルギーCAPシステムを共用し、動力や武装のバックアップとしている。それらを消費する前にボディーと結合すれば、再度チャージすることが可能だ。

## 頭部メガ粒子砲

頭部を分離した状態でも使用できるが、エネルギー供給が受けられないために使用回数が限られている。もともと頭部の戦闘艇としての単独実用稼働時間が10分にも満たないことから、基本的にメガ粒子砲は本体と結合した状態で使用するのが望ましい。

## MS名ゼリフ

「こう近づけば、四方からの攻撃は無理だな、シャア」

—アムロ・レイ—

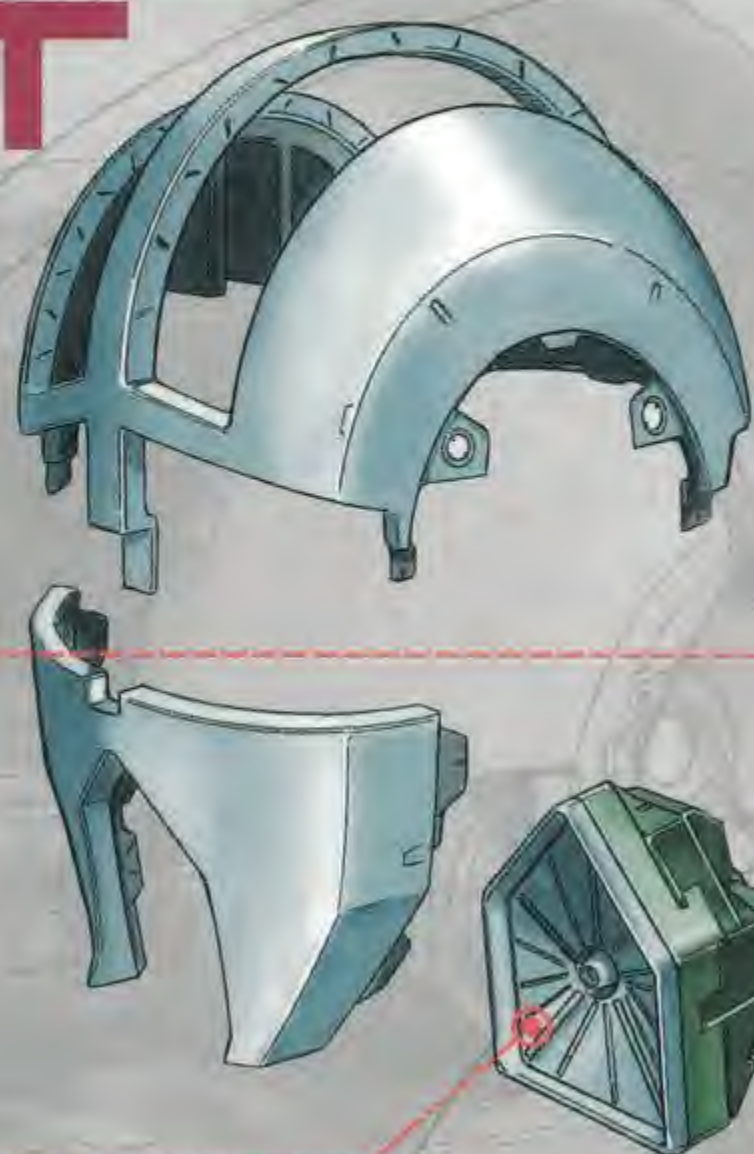
交戦時、アムロの駆るRX-78-2がサイコミュ兵器の打開策として、MSN-02の懷に飛び込んだときのセリフ。多角レンジ攻撃が得意な兵器も、本体と敵機との距離が近すぎると本体が被弾する恐れがあるため簡単には使用できないのだ。

▶事実、シャアは手を出さず、逆になんか手を負うことになる。



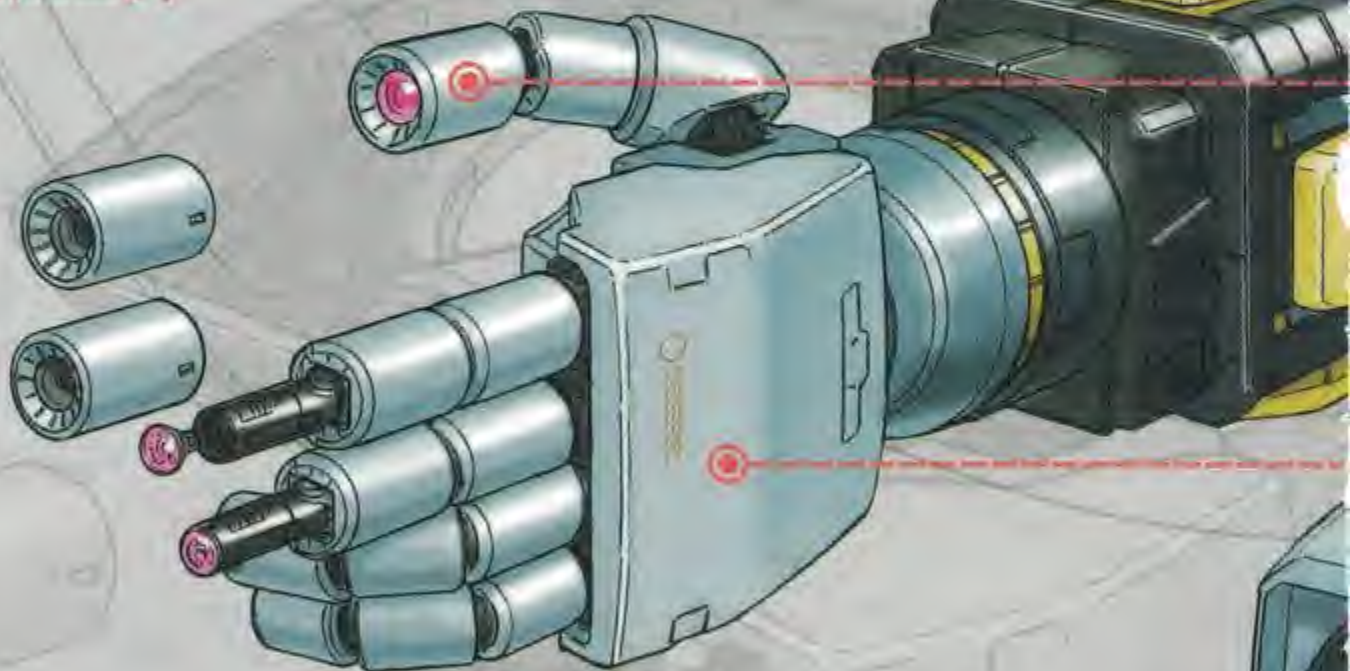
# HEAD UNIT

■ヘッドユニット



# ARM UNIT

■アームユニット





## ホーンアンテナ

頭部はサイコミュ・デバイスのコントロールユニットでもあるため、ホーンアンテナには脳波を各サイコミュ兵器に伝達する機能が搭載されている。ちなみに非戦闘時であっても、サイコミュ・ウェーブのピックアップや送受信端末は大変なエネルギーを消費している。

## モノアイ

モノアイなどの基礎デバイスは、既存の機体と同様にグラモニカ社製のユニットを使用している。これは、MSN-02が開発された一年戦争末期の段階では、もはや改良を施す必要がないほど完成度の高いものに仕上がっていたことを意味すると言っていだろう。

## 有線誘導式メガ粒子砲

両腕は上腕部から分離することで、オールレンジ攻撃を展開する誘導式兵器として機能する。本来、サイコミュ・システムの目指すところは無線誘導であったが、ニュータイプではないパイロットが搭乗することも想定されていたため有線式が採用された。

## メガ粒子砲

5指それぞれにメガ粒子砲を搭載。指の基部には、腰部や頭部と同様のデバイスが装備されており、さらに指の各関節には強指向性の集束・偏向装置が設けられている。これにより、それぞれ独立したベクトルの射出が可能で、5つのターゲットを個別に攻撃できる。

## マニピュレーター

アームユニットはメガ粒子砲の発射装置としてだけでなく、戦況によっては標準的なマニピュレーターとしての使用も想定されていた。ただし、既存の機体とは規格が大幅に違うため、特別なエネルギー供給を必要としない武装以外は使用することができない。



## ボディーコクピット

有線式を採用しているとはいえ、ニュータイプ以外のパイロットがひとりで全ビット兵器を操るのは不可能に近い。そのためふたりでも操縦できるように、胸部に予備コクピットが設けられることになった。設備も頭部とほぼ同様のものが用意されている。

## メガ粒子砲

ジェネレーターにダイレクトに接続されているため、他の砲よりも高出力の射出や速射、さらに連射が可能になっている。ちなみにMSN-02が装備するメガ粒子砲は合計13門もあり、すべて「キアM-33E型」と呼ばれるユニットをベースにしている。

## エネルギーコンバーター

腰部のメガ粒子砲の性能向上のために設けられた、大容量のエネルギーコンバーター。腰部の武装が特に強化された理由は、アムロが実戦で示したようにビット兵器を展開中に敵機に接近されることが弱点となる機体のため、近づかせないようにする策である。

## MS名ゼリフ

「偉い人にはそれがわからんのですよ」  
—ジオン公国軍・技師—

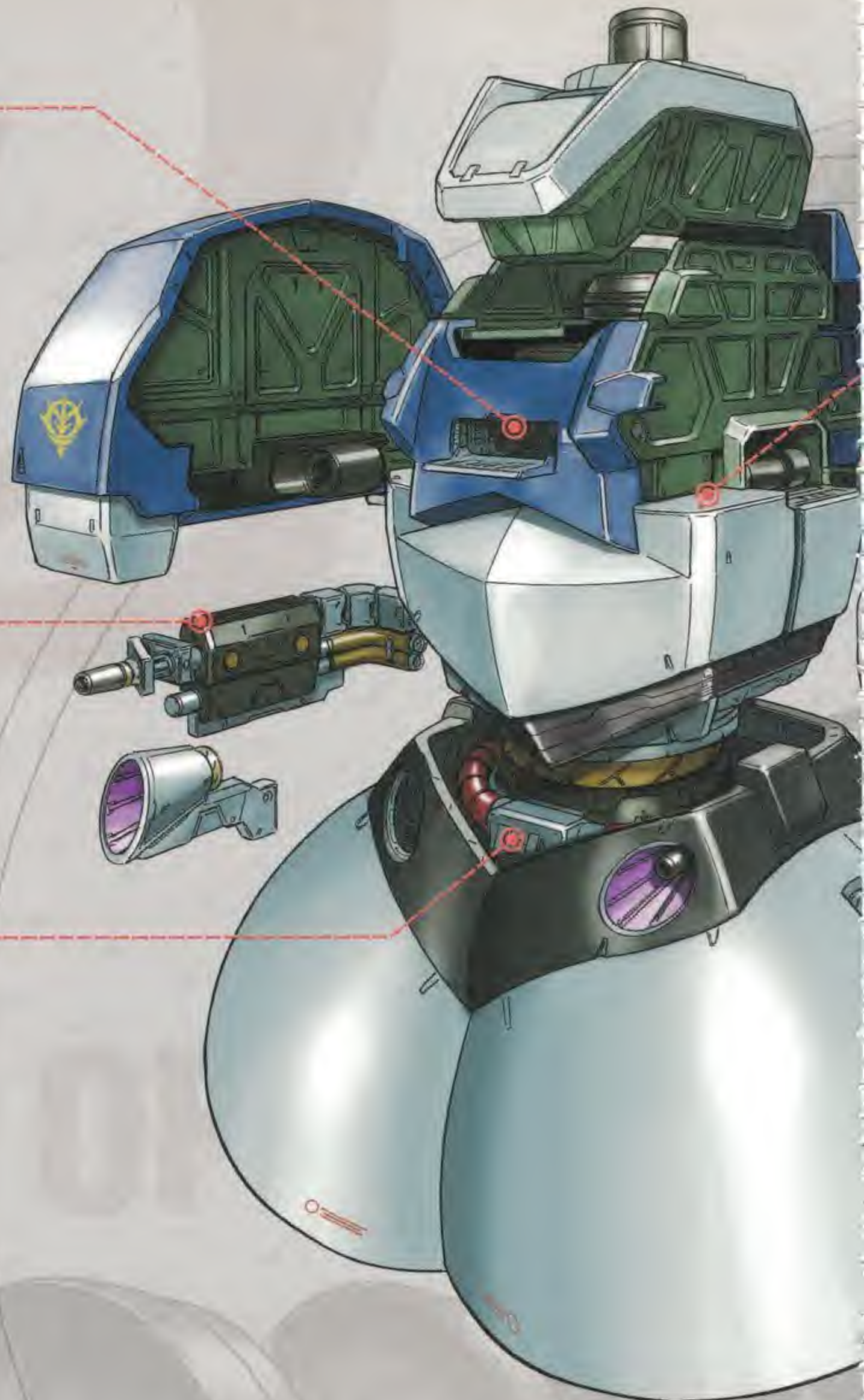
「あんなのは飾りです。偉い人にはそれがわからんのですよ」。MSN-02を初めて目にし、脚がないことを指摘したシャアに技師はこう答えている。このゼリフはシャアにではなく、現場の状況を知らない上層部への皮肉である。

▶ 計画どおりの形ではないが、技師はこの段階で100%の完成と見ていた。



# BODY MODULE

■ボディーモジュール





## 大型熱核反応炉

計13基のメガ粒子砲を稼動させる必要があったため、熱核反応炉は従来のMSの3.8倍ものキャパシティを有する大型のものが採用された。MSN-02のボディーユニットが、既存のMS並みの大きさになったのは、この熱核反応炉の搭載が大きな要因である。

## プロペラントタンク

機体が大型化したことによって、運用時には大量の推進剤が必要とされた。そのため、両腕の付け根にあたる部分に大容量のプロペラントタンクを搭載。これらはブロック構造になっているため、緊急時はタンクごと交換することで補充時間を短縮することができた。

## サブスラスター

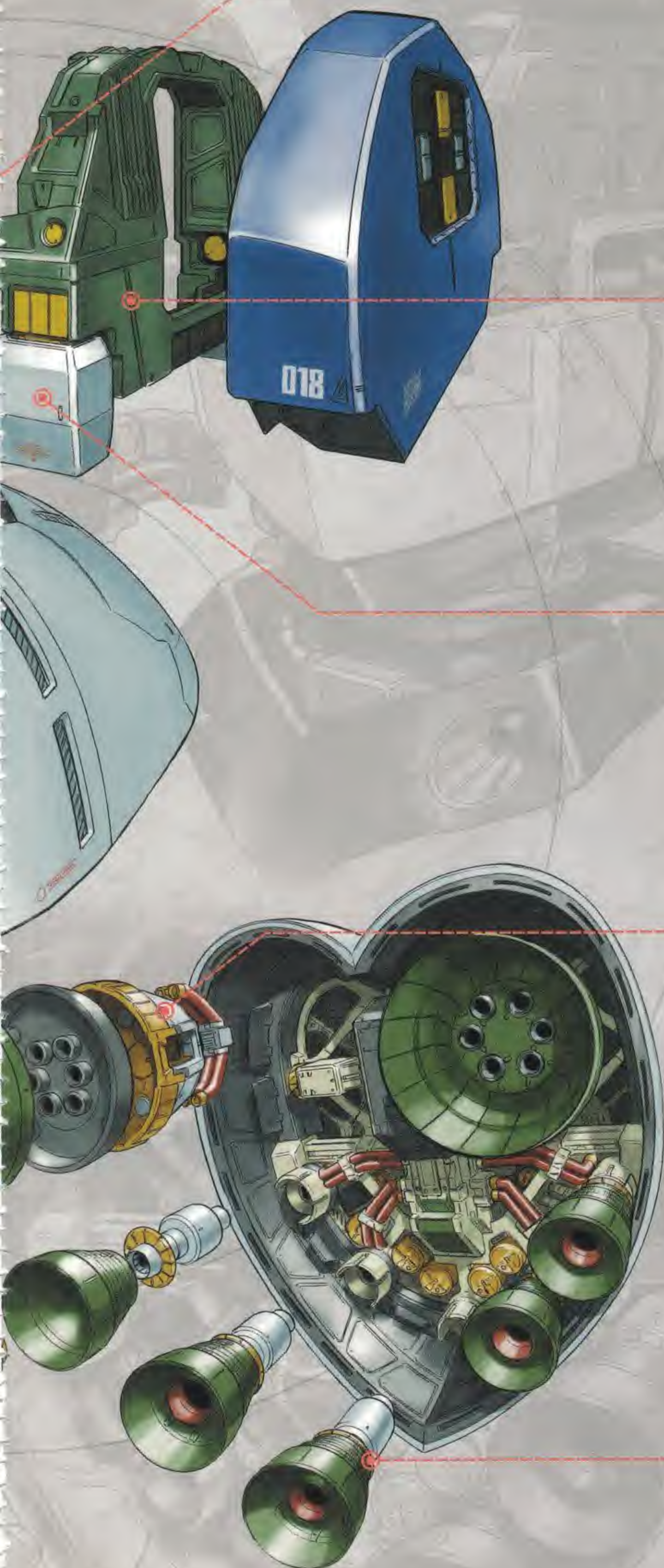
プロペラントタンクにほぼ直結した仕様のサブスラスターユニット。主に姿勢制御の補助として使用されることが多いが、交戦時には加速性能向上のために推進スラスターと併用して使われることも。あくまでサブ装備なので、このユニット自体の推進力は低い。

## コンフォーマルバーニア

脚部の開発が間に合わなかったため、それを補う目的で別プランで開発されていたスカートバーニアが搭載されることになった。そもそも脚部全体を巨大なスラスターユニットと見る設計であったため、仕様変更されても操作性には大きな影響は見られなかった。

## 推進スラスター

スカートアーマー内部に7基設置されている推進スラスター。脚部が存在しないため、姿勢制御はAMBACではなく、これらのスラスターを利用。使用頻度が高く、推進剤の消費量は従来の計画よりも増加。そのぶん機体の稼動時間が短くなってしまった。





## ドッキングロック

レッグユニットとボディーユニットの接続は、比較的簡易なものになっている。これは歩行性能が必要最低限のものであれば良しとされていたこともあるが、主たるは初期設計の段階で腕部同様に脚部も分離、サイコミュ兵器としての運用が考えられていたからだ。

## 姿勢制御装置

脚部が装着された場合は、既存の機体と同じように宇宙圏での姿勢制御はAMBACで行われる予定だった。そのため脚部の随所には、制御に要する各種センサーが内蔵されている。ちなみに脚部が装着されていても、腕部を分離した状態では、AMBACは正常に作動しない。

## 足底スラスタ

脚部は歩行機能を持った巨大なスラスタユニットというコンセプトで設計されており、足底には高出力のスラスタが搭載された。レッグユニットの代用として使用されたコンフォーマルバーニアと同等品であり、脚部の有無による総推力の差はほとんどない。

### ワンポイント コラム

#### MSN-02 パーフェクト・ジオング

計画どおりに脚部を装着したMSN-02は、一般に「パーフェクト・ジオング」と呼称される。MSN-02に関しては、すべての試作機と脚部パーツがア・バオア・クー攻防戦において喪失したとされているため、詳細を知るものはいない。パーフェクト・ジオングとして出撃していたら戦況は変わったとする説もあるが、すべて想像の範囲である。

▶ 脚部が搭載されている格闘戦も含め攻撃の幅は広がっていたはずだ。



# LEG UNIT

## ■レッグユニット





# MASTER GRADE MSN-02 ZEONG

■バンダイ ■発売中 ■6300円(税込)

ジオン公国最後のMSとも呼ばれる、MSN-02のマスターグレードモデル。もともと巨大なMSであるため、1/100サイズとはいえ迫力満点。本体と両腕用の専用スタンドが用意されているため、劇中同様のダイナミックなポーズを作ることが可能になっている。



◀脚部のオミットにより改修が施されたスカートアーチャー内部を完璧に立体化。ファン納得の完成度を誇る。



◀専用スタンドにより、サイコミュ兵器の展開シーンも自由自在。ディスプレイ性にも非常に長けている。

◀頭部装甲の着脱はもちろん、モノアイや耳ノズルも動くなどギミック面での再現性も高く、動かしても楽しめるモデルだ。

▼幻となったMSN-02の脚部を、従来の計画に基づき形で再現している。



# MASTER GRADE MSN-02 PERFECT ZEONG

■バンダイ ■発売中 ■1万5000円(税込)

脚部と上腕外装を追加装備したMSN-02の完全形態。唯一の近接兵器であるサーベルには、リアル感を増すためにメッキパーツを採用している。





# ぼう えい せん とっ ぱ のう りよく た 防衛線突破能力に長けた しゅう げき がた モビル スーツ 襲撃型MS

ジオン公国突撃機動軍に所属する特務部隊で使用された機体で、強襲戦に特化した調整が施されている。地球連邦のスカールレット隊を壊滅させるなど、コロニーを中心に活躍するが、RX-78N T-1によって撃破される。なお、機体名のケンプファーとは、ドイツ語で「闘士」を意味している。

## SPEC DATA

所属：ジオン公国  
頭頂高：17.7m 本体重量：43.5t  
ジェネレーター出力：1550kW  
スラスター推力：15万8000kg

いちげき り たつせんぼう ぜんてい  
一撃離脱戦法を前提にした  
とっ か モビルスーツ たんじょう  
特化MSの誕生

MS-14Aに続くMSの開発が求められるなか、新たなMSの運用法やコンセプトを開拓することを目標にMS-18Eが開発された。この機体は、単騎での敵防衛線突破を前提に設計され、一撃離脱の攻撃によって拠点や敵主力を陥落させる戦術を得意とした。

PILOT パイロット  
ミハイル・ガミンスキー

サイクロプス隊に所属するベテランパイロット。コロニー内で地球連邦の秘密工場を襲撃した際に、MS-18Eのパイロットとして陽動を担当。単騎で地球連邦の部隊を全滅させた。



# BODY MODULE

■ボディーモジュール



エム エス  
MS-18E  
PRINCIPALITY OF ZEON  
KÄMPFER

—ケンプファー—



## 装甲

一撃離脱戦法を前提とした機体であるため、運動性向上のために装甲は徹底した軽量化が行われた。装甲材自体はMS-06Fのものよりも上質な、チタン・セラミック複合材を使用。既存の機体よりは強固に思えるが、装甲が薄いことため実際は耐弾性はかなり劣る。

## オプションラッチ

ジャイアント・バズをはじめとする各種武装の携行時に使用されたラッチ。武装を構えた状態での移動は、行動が制限されることから非戦闘時は基本的にラッチに収納していた。ラッチ自体が着脱式になっており、不要な際は取り外した状態で出撃していた。

## サブスラスタ

ボディーモジュールに加え、ショルダーアーマーにも高出力のサブスラスタを内蔵。この機構はAMBACによる姿勢制御という基本的な発想とは矛盾するが、空間戦闘能力を高めるために効果的な仕様であった。その反面、操作性の難易度は上がっている。

## コクピット

コクピットブロックは同時期に開発された機体と、ほぼ同様のインターフェイスになっている。大きな改良点として挙げられるのは、前傾姿勢での戦闘に配慮し、コクピットブロックそのものが機体に対して相応の自由度をもって実装されていることである。

## ショルダースパイクアーマー

格闘戦の戦法のひとつとして、ショルダースパイクアーマーを構えたタックル攻撃が想定されている。この戦法自体は一年戦争初期のころから存在するが、MS-18Eは加速性能も高い機体のため、その威力はMS-06Fのものとは比べものにならないほど高い。

■アームユニット

# ARM UNIT



## ビーム・サーベル

MS-18E 専用開発されたサーベルで、携行時は機体の大腿部に収納する。他のMSの武装とはグリップ末端の形状が異なり、ビームの形状もやや反り返った形となっている。デバイスはMS-14系用のものが流用されており、エネルギーの供給方法も同じだ。

## 一体型装甲

最大の特徴ともいえるのが、脚部ユニットの構造である。従来の機体は重要な歩行機能を守るため、股関節周辺に専用の装甲を装備していた。しかし、MS-18Eではこれを排除。脚部構造と一体化した装甲を用いることで、軽量化と運動性能の向上が図られた。

## 脚部スラスタ

大腿部と脛ら脛部には大口徑のバーニアスラスタを搭載。大腿部のユニットはむき出しのようにも見えるが、実際は巻きつけるような構造で装甲が施されている。また、脚部内部は必要最低限の機構だけなので驚くほどシンプル。空洞部分が目立つ構造だ。

## トースパイク

つま先が可動式になっており、格闘戦時には武器として使用されることがある。さらに接地状態から動き出す際に、足先を固定して加速性能をアップするのに役立っている。これは単純に、野球選手やサッカー選手がスパイクを履くのと同じことだと思えばいい。

## チェーン・マイン

強力な炸薬を内蔵した機雷を敵機に密着させ、装甲などを破壊する専用武装。対象に取り付いたユニットのみが起爆する仕組みになっており、それ以外のユニットは連結部から自動的に外れる。また、ユニットは任意で取り外せるため、投擲としての使用も可能だ。



■レッグユニット

# LEG UNIT



■ウェポン

# WEAPON



マスターグレード  
**MASTER GRADE**  
エムエス イー ケンブファー  
**MS-18E KÄMPFER**

■バンダイ ■発売中 ■4200円(税込)

腰部に多重関節を採用しているため、フレキシブルな稼働を実現。さらに肘と膝、肩関節部にはABS樹脂・ビスを使用し、関節強度の向上を図っている。また多素材感を表現するため、脇の腹部パイプにメッシュパイプとリード線を採用。見た目でもグレードの高い仕上がりだ。



◀コクピット開閉は、前面装甲を下げて行う。ボディ装甲は、突撃姿勢時に攻撃される可能性がある部分のみ強化されている。



◀機体各所に設けられたスラスタは、ノズル基部まで精密に再現。さらに大腿部の基部は、スライド式になっている。



▲それまでのMSとは異なる独特なメカニズムを完全再現。豊富な武装もこの機体ならではの喜び。



▲背部にはジャイアント・バズとショットガンのマウントラッチも完備。ちなみにショットガンは襲撃型MS用として開発された。







PRINCIPALITY OF ZEON

# ジオン公国MS開発経緯

開戦前から終戦まで、ひたすらMS開発を行ってきたジオン公国。単純に開発したMSの種類だけを数えれば、地球連邦を遥かに上回ることは間違いない。

## 1 量産型MSの誕生と陸戦型MS

ミノフスキー粒子の発見により、レーダーや電子回路に頼らない新たな戦闘兵器の開発が求められた。そこでジオン公国は、MS開発プロジェクトを始動。それを受けて人類初のMS、MS-05の開発に成功する。新型兵器で開戦当初の戦局を優位に進めたジオン公国は、汎用性の高い高性能MSの量産化に着手。MS-06Fという傑作機を完成させた。

MSの基本設計を確立したことにより、今度は地球侵攻作戦に備えて陸戦に特化したMS開発に着手。宇宙戦能力を完全に排除した、MS-07やMS-09などが開発され実戦投入が行われた。その後、主戦場が宇宙へ移行すると、陸戦特化のMS開発はごく一部でのみ続けられていたが、開発の主軸は、宇宙圏でも戦える新世代の量産機へと移っていった。



MS-05  
ザクI



MS-06F ザクII

## 2 水陸両用MSの実戦配備

MS-06Fの完成後、これをベースにした、水陸両用MSの開発プロジェクトがスタートする。もちろん、これも地球侵攻作戦の一環であり、さまざまな実験機が開発されることになった。そんななか、ジオン公国初の量産型水陸両用MSであるMSM-03が完成。この機体は、高出力ジェネレーターの搭載によるメガ粒子砲を標準装備した初の機体としても、注目を集めるこ

とになった。さまざまな面でベース機になりうる機体が誕生したことで、水陸両用機の開発は加速度的に進められた。MSM-04やMSM-07が、次々にロールアウトしていき、最終的にはメガ粒子砲を8門も搭載したMSM-10が誕生する。しかし、これだけの機体を導入したにも拘らず、地球侵攻は失敗。主戦場は再び宇宙に押し戻された。



MSM-03 ゴッグ

MSM-10 ゾック



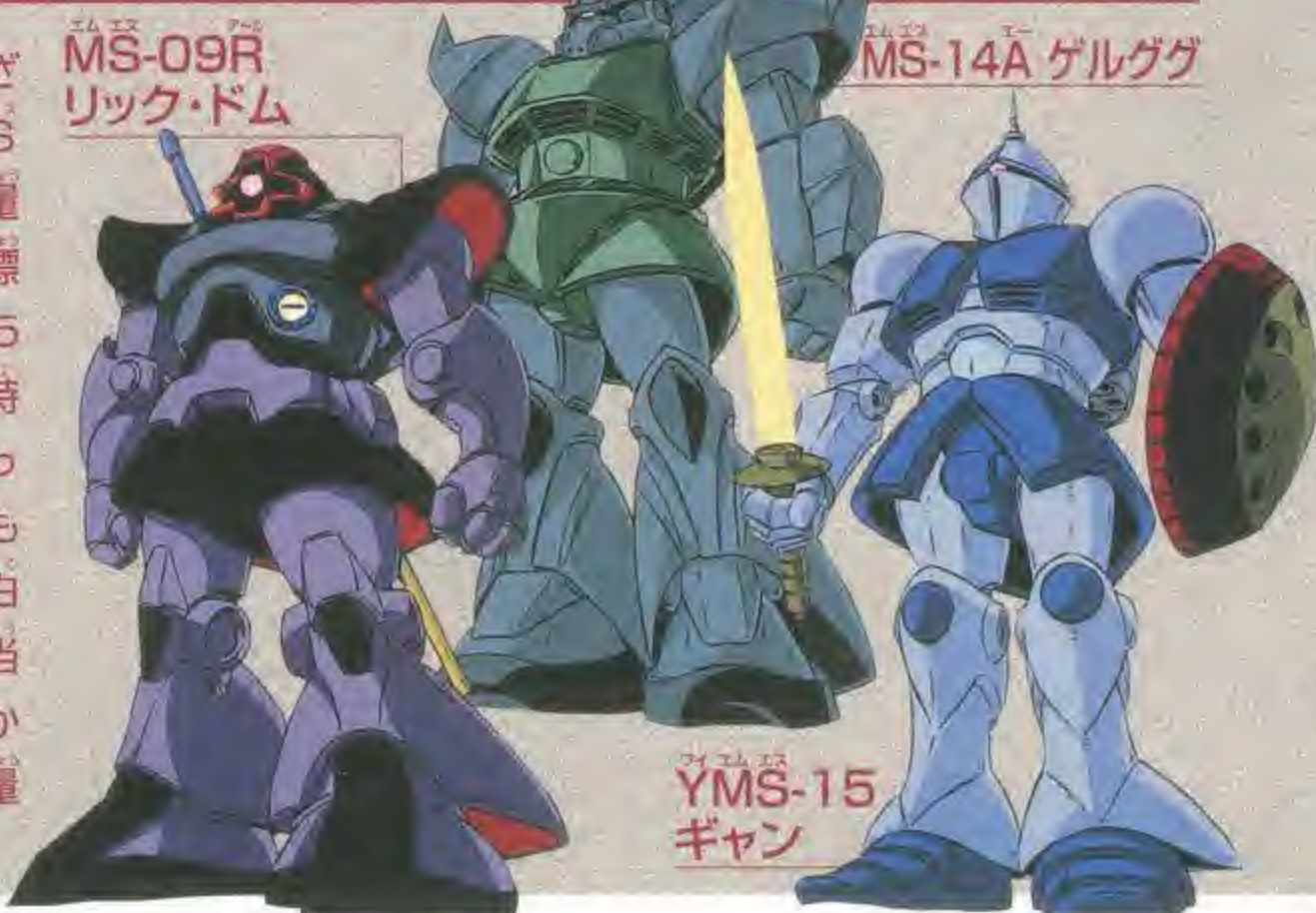
## 3 宇宙戦用MSの開発

地球上で陸戦特化型MSや水陸両用MSが開発された一方、宇宙戦用の新型MSの開発も続けられていた。しかし、MS-06Fの完成度が高かったため、なかなかこれに代わる新型は誕生することがなかった。この打開策として、陸戦用に開発されたMS-09の宇宙戦用への改修が行われ、MS-09Rとして宇宙に配備されることになった。その後、水陸両用MS開発において宇

宙戦用でも応用可能なさまざまな技術の確立に成功。MS-06Fに代わる第2期主力量産機として、ビーム兵器の標準携行を実現したYMS-15が量産されていった。同じ時期に主力量産機の座を狙って、YMS-15という機体も開発されてはいたのだが、白兵戦特化というスペックが当時の戦闘に求められていなかったこともあり、悲しくも量産化は見送られた。

MS-09R  
リック・ドム

MS-14A ゲルググ



YMS-15  
ギャン



## 4 MAの開発とニュータイプの研究

大型機動兵器であるMAの開発計画は、開戦前から存在した。しかし当時は、MSの汎用性が重要視されたため、MA開発案は排除されていたのだ。しかし、戦況の進展とともに汎用性のデメリットが露出、局地戦での戦果が期待できるMA開発プロジェクトが始動した。さらにMAが開発される要因になったのが、サイコミュ兵器の存在である。これは大型の機構を必要とす

る兵器のために、MSへの搭載はほぼ不可能であった。そのため、搭載機として機体サイズに掟われないMAが選ばれたのである。当初、サイコミュ兵器は実験兵器として運用されていたが、MAN-08の開発によって実用的なものになる。そして完成したサイコミュ兵器をMSに搭載すべく、MSN-02を開発。ア・バオア・クーにて実戦投入されることとなった。

MSN-02 ジオング



MA-05 ビグロ

MAM-07 グラブロ



MA-04X ザクレロ

MA-08 ビグ・ザム

MAN-08  
ラァ専用MA



## 5 バリエーション機の開発

初めてのMSが開発されてすぐに、多種多様なバリエーション機が作られていた。MS-06Sのような指揮官機もその一種で、ノーマル機を改良したものが数多く輩出することになった。また、ジオン公国の特徴としてMS-06Fをベースにしたバリエーション機が数多く作られたことが挙げられる。

これは機体性能が優れていたこともあるが、もともと仕

様変更を想定した設計となっている点が大きな理由である。各部に増設用の余剰スペースなどがあったため、改良が非常に容易であったのだ。ジオン公国軍最後のMSとなったMSN-02も、開発経緯をたどると大半がMS-06Fのバリエーション機で形成されている。ジオン公国は多数の機体を開発しており未だ知られていないMSが存在する可能性も高い。

MAM-03C  
ハイゴッグ



MSM-07S  
ズゴック



MS-06S  
ザクⅡ

MS-14S  
ゲルググ



MS-06FZ  
ザク改





# ガンダム

かい たい しん しょ  
解体新書

いち ねん せん そう へん  
一年戦争編

2007年2月2日 第1刷発行  
(定価はカバーに表示してあります)

コミックボンボン編集部編

構成・執筆 柿内直樹

デザイン 有限会社エイティ

イラスト 有限会社BEE-CRAFT  
帯ひろし

協力 株式会社サンライズ  
株式会社バンダイ ホビー事業部

発行者 五十嵐隆夫

発行所 株式会社 講談社  
〒112-8001  
東京都文京区音羽2-12-21  
電話  
編集部  
東京 (03) 5395-3457  
販売部  
東京 (03) 5395-3608

印刷所 共同印刷株式会社

製本所 株式会社国宝社

©創通エージェンシー・サンライズ



講談社

落丁本、乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部（電話03-5395-3603）あてにお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。なお、この本についてのお問い合わせはコミックボンボン編集部あてにお願いいたします。本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

ISBN978-4-06-364683-2

Printed in Japan  
N.D.C.726 112p 26cm



こちらでもCHECK!!

コミックボンボン編集部編

SDガンダムクロニクル  
SD戦国伝

武者英雄譚

武者頑駄無から始まる一大歴史絵巻「SD戦国伝」を完全網羅。今まであまり触れられなかった天界解説、用語解説も収録。SDファンなら必読の一冊だ!

SDガンダムクロニクル



3月15日発売予定

予価:1890円(税込)

モビルスーツの歴史

MS-06 ZAKU II  
MS-07 GUNDAM  
MS-09A GUNDAM  
MS-10 ZAKU II  
MS-14A L GUNDAM  
MS-15 GUNDAM  
MS-18F GUNDAM

ISBN 978-4-06-364683-2  
0079 418006 101

講談社  
定価 本体1800円(税別)



モビルスーツの歴史

MS-06 ZAKU II  
MS-07 GUNDAM  
MS-09A GUNDAM  
MS-10 ZAKU II  
MS-14A L GUNDAM  
MS-15 GUNDAM  
MS-18F GUNDAM

© 2007 講談社・サンライズ 1/327 1/328 CRAFT 1/329 D18

ガンダム MOBILE SUIT GUNDAM 解体新書 一年戦争編



ガンダム MOBILE SUIT GUNDAM  
解体新書  
一年戦争編



ガンダムファンに  
おくる  
究極のMS解析!

装甲を取り去り、内部を詳細に公開することにより、今まで明かされなかった一年戦争期のモビルスーツのテクノロジーに迫る!これが連邦の、そしてジオンのモビルスーツの力なのだ!







MOBILE SUIT GUNDAM

解体新書

一年戦争編

コミックボンボン編集部 協力  
株式会社ライオン  
バンダイ

講談社



ガンダム  
MOBILE SUIT  
GUNDAM  
解体新書  
一年戦争編  
いちねんせんそうへん





# ガリダ

三〇年  
三〇年

解体

主日

職人

一年

戦争

編

コミック

ボン

編集部

協力

(株)サンライズ  
(株)バンダイホビー事業部

講談社